

(2) 2022年度第4クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

| | | |
|-----------|----------------|-----|
| 人文学部 | キリスト教学科 | 121 |
| 人文学部 | 人類文化学科 | 124 |
| 人文学部 | 心理人間学科 | 126 |
| 人文学部 | 日本文化学科 | 129 |
| 外国語学部 | 英米学科 | 131 |
| 外国語学部 | スペイン・ラテンアメリカ学科 | 137 |
| 外国語学部 | フランス学科 | 139 |
| 外国語学部 | ドイツ学科 | 140 |
| 外国語学部 | アジア学科 | 142 |
| 経済学部 | 経済学科 | 144 |
| 経営学部 | 経営学科 | 150 |
| 法学部 | 法律学科 | 157 |
| 総合政策学部 | 総合政策学科 | 161 |
| 理工学部 | ソフトウェア工学科 | 168 |
| 理工学部 | データサイエンス学科 | 171 |
| 理工学部 | 電子情報工学科 | 174 |
| 理工学部 | 機械システム工学科 | 176 |
| 国際教養学部 | 国際教養学科 | 178 |
| 法務研究科 | 法務専攻(専門職学位課程) | 183 |
| 教職センター | | 185 |
| 外国語教育センター | | 187 |
| 体育教育センター | | 195 |

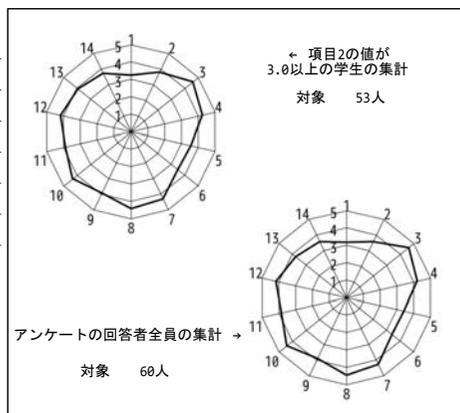
非常勤教員

【所属】

| | | |
|-----------|----------------|-----|
| 人文学部 | キリスト教学科 | 197 |
| 人文学部 | 人類文化学科 | 197 |
| 人文学部 | 心理人間学科 | 200 |
| 人文学部 | 日本文化学科 | 201 |
| 外国語学部 | 英米学科 | 202 |
| 外国語学部 | スペイン・ラテンアメリカ学科 | 203 |
| 外国語学部 | フランス学科 | 203 |
| 外国語学部 | アジア学科 | 204 |
| 経済学部 | 経済学科 | 205 |
| 経営学部 | 経営学科 | 205 |
| 総合政策学部 | 総合政策学科 | 206 |
| 国際教養学部 | 国際教養学科 | 208 |
| 共通教育 | 日本語 | 208 |
| 共通教育 | 共通 | 210 |
| 共通教育 | 体育 | 218 |
| 教職センター | | 219 |
| 外国語教育センター | | 220 |

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 宗教論[E]1 |
| 授業コード | 10A01-007 |
| 教員名 | 寒野 康太 |
| 教員コード | 104315 |
| 登録人数 | 113 |
| 回答数 | 60 |
| 回答率 | 53.1% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標、つまり、宗教に関する基本的な概念、そして、それらが、多様であることに関する理解に関しては多くの学生が到達できたように思う。また、宗教上の様々な学説に関する理解も、小試験を通じて理解の定着をはかった。

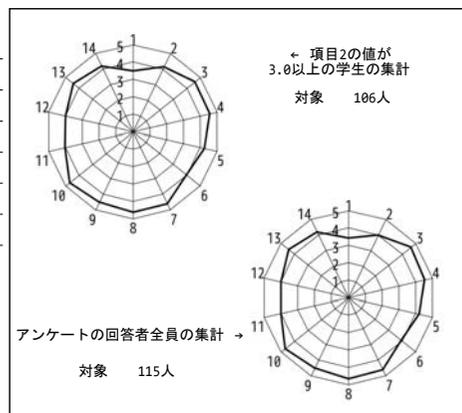
小試験にかんしては、前回の授業の理解度を見るものであり、これに積極的に参加していれば、定期試験において不利になるようなことはないように務めた。

一部の学生が、小試験の問題数が多すぎるということ、また、小試験だけが定期試験の内容ではないということに不満を持っているようであるが、これは、授業の最初から、定期試験の問題には小試験にないものも含まれるということを明言していたので、この点に関して、学生諸氏の授業参加が必要であることを強調しておきたい。試験は各回5問ずつであって、決して多いというものではない。

今後、できるだけ時系列などを明確にしつつ板書していきたい。しかしながら、授業中 手を上げて質問するように促しているため、そうしたときには、何も発言せず、アンケート時に不満を提出するだけでは、授業の参加に関して、学生の自覚に欠けるものと言えないだろうか。学生の自覚を常に促すようにしていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 宗教論[G] |
| 授業コード | 10A01-017 |
| 教員名 | 三好 千春 |
| 教員コード | 101173 |
| 登録人数 | 169 |
| 回答数 | 115 |
| 回答率 | 68.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

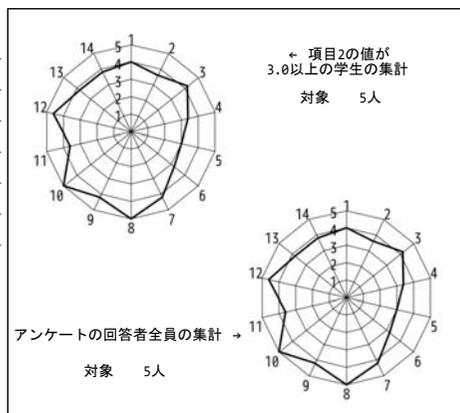
この宗教論の目的には、到達目標の「2 現代世界において多様な信仰を持つ人々に対する寛容、共存の姿勢を身につける。」とあるように、宗教に関心も興味なく、どちらかという強い偏見を抱いている現代の若者に、その偏見を少しでも取り除いてもらうことが含まれていたが、それについては目的を果たしたと言え、2についてはある程度到達したのではないかと思う。

私としては、最初の20分くらいを使って、前回の内容に関する学生からの質問に答えるように努め、また、随時、講義内容に関連するような情報を提供していたつもりだったので、アンケートの11と12の点数が低いのは、やや衝撃であったが、自由記述の中に、自分の質問に答えられなかったとあることなどから、その原因の一つが、時間の関係もあるため、すべて提出された質問に答えるのではなく、より重要度が高く学生に有益と判断した質問を複数選択して回答・解説していた点にあるらしいということは分かった。 また、アクティブ・ラーニング的な内容は一切せず、基本的に視聴覚教材も使用しながら私がひたすら講義するという形式であったことも、この辺りの点数の低さにつながったと思われ、今後の改善点である。

また、スライドを変えるスピードが速いという苦情についても、反省が必要である。来年度からは私はいったん、この宗教論を担当しなくなるが、キリスト教概論は引き続き担当するので、今後、そちらに改善点・反省点を生かしたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 思想史に学ぶ人間の尊厳5
授業コード 10D03-005
教員名 FONGARO, Enrico
教員コード 104671
登録人数 11
回答数 5
回答率 45.5%
休講回数 1回
補講回数 1回

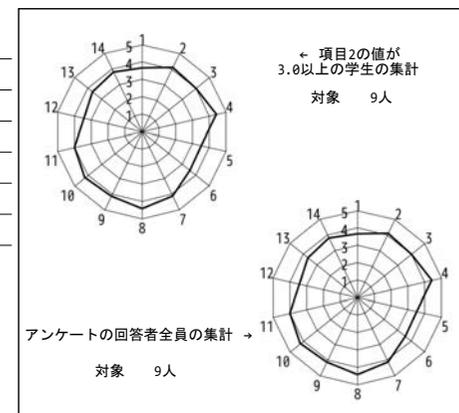


授業評価結果を踏まえた点検・評価

It was the first time I made this course, so the preparation did not match perfectly the interests and pre-knowledge of the students. So I had to change the contents to suit them. In the end I think I was able to achieve the objectives of the course, but next year I will change some parts to make them clearer and more interesting for the students. In particular, I would like to present the Renaissance period more accurately, giving more historical information. In this way the Renaissance philosophy should be more understandable. I think it might also be interesting to give more visual information about Renaissance art.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ギリシャ語IV<全>
授業コード 11K08-001
教員名 KUCICKI, Janusz
教員コード 101877
登録人数 21
回答数 9
回答率 42.9%
休講回数 0回
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course was fulfilled. Following the textbook students learned Classic Greek, from rather easy texts to rather literary advanced Greek masterpiece (The King Edyp). Students got skills to read and understand the text. Only halve of the participance, submitted evaluation. Due to fact, that the Cours was focus on reading and understanding of the text, majority of work was done during the classes, and in minor part it requite preparations at home. Concerning the Greek gramma, the textbook focus only on the issues appeared in the reading text, which do not allowed to fully understand the whole grammatical concept of particular subject.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 研究プロジェクト
授業コード 21A17-005
教員名 清水 美佐
教員コード 152757
登録人数 6
回答数
回答率
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

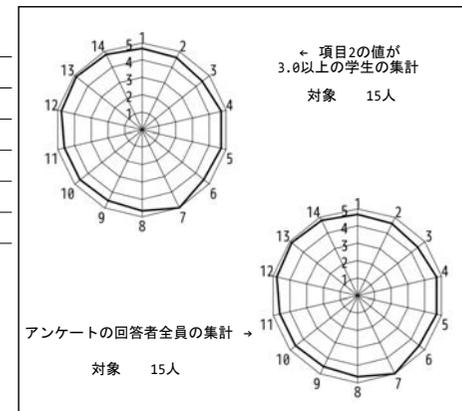
① 開講当初に設定していた目標と到達の程度：シラバスに設定された到達目標は「1. 各自の研究テーマについての知識と理解を深めている。2. 各自の研究の集大成である卒業論文を完成し、提出している。」であり、これらに関しては履修生全体が到達できている。ただし、知識と理解の程度については履修生によって大きな差があり、期待以上の十分な卒業論文を仕上げることのできた学生もいれば、最低限度ぎりぎりの学生もあった。

② 学生の受講状況、受講態度等を踏まえた総合的な自己点検・評価：履修生の卒業論文構想段階から執筆仕上げまで、いつでも学生からの質問を受け付け、適宜研究指導をすることによって卒業論文の内容をより改善することができた。ほとんどの学生が、卒論執筆途中から提出前まで添削を繰り返し受けている。指導を受けようとしなない一部の学生については、こちらからたびたび声かけをしたものの、卒論提出締切直前まで音信不通であるなど、卒業論文の内容を大きく添削することができず、思うような教育効果があげられなかった。

③ 改善点、今後の抱負、方針など：卒業論文に意欲的に取り組む学生はよいが、そうでない学生の意欲をどう引き出していくかが課題である。こまめに履修生の状況を確認し、執筆が滞っているようならば話し合うなどして、どの履修生も内容のよい卒業論文が書けるように、指導とサポートを充実させたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 新約聖書学(ヨハネ文書)
授業コード 21C82-001
教員名 HERA, Marianus Pale
教員コード 102689
登録人数 28
回答数 15
回答率 53.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

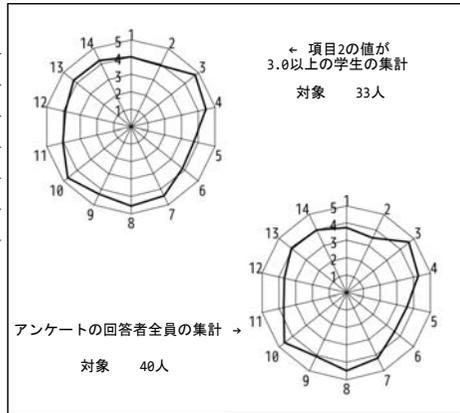
この授業『ヨハネ文書』は今年度初めて開講された授業です。伝統的には新約聖書のいわゆる「ヨハネ文書」はヨハネ福音書、ヨハネの手紙(一、二)及びヨハネの黙示録が含まれていますが、ヨハネの手紙と黙示録は『共同書簡』という授業で扱っているため、この授業では「ヨハネ福音書」のみを扱いました。学生の中には、黙示録は別として、ヨハネ福音書と関係が深い「ヨハネの手紙」をも触れて欲しいという要望がありましたので、次回の時にその提案を活かしたいと思っています。

14回の授業を振り返り、また学生の授業評価の結果をみると、この授業は全体として目標に達成できたと思います。また、学生もこの授業に満足していることが伺えます。新しい授業ということもあるかもしれませんが、この授業に対する学生の関心も比較的高いということは数字(4.67)からも授業中の雰囲気からも感じられます。残る課題はいかにして学生の関心を更に高めていくことです。

もう一つの課題は、コロナ感染者や濃厚接触者、また発熱でコロナの疑いがあることで授業に休んだ学生が目立っていることです。これらの学生の出席扱いや勉強の面でのケア(課題を与えるなど)も今後考えなければならないと感じました。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 哲学B1 |
| 授業コード | 12A02-001 |
| 教員名 | 谷口 佳津宏 |
| 教員コード | 016550 |
| 登録人数 | 72 |
| 回答数 | 40 |
| 回答率 | 55.6% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

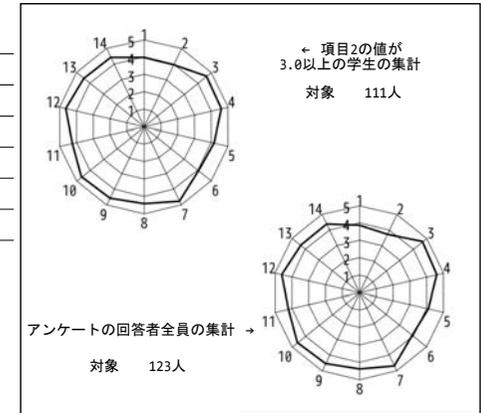


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業目標は「1.カント哲学の基本内容を知っている。2.哲学書のある程度読みこなすことができる。3.哲学的思考の基本を理解している。4.論理的に物事を考えることができる。」の4点であった。最終試験の結果では受験者数58名中C以上が46名だったので、目標達成度は約80%と考えられる。もっとも、出欠をとらない授業であったためか、試験日にはじめて見る学生の数も例年以上に多く、そのことを勘案すれば、達成度はほぼ100%と言える。アンケートに解答してくれた学生、すなわち、授業に出席していた学生は、ある程度勉学意欲のある学生が多かったためか、自由記述欄も比較的好意的なものが多かった（「難易度は高いが、有意義だった」、「哲学の専門書の分かりづらい部分を、例を出して分かりやすく解説されていたところが良かった」、「難しい考えをかみ砕いて説明してもらえた」など）が、その一方で、次のような意見もあったことは自戒の意をこめて明記しておく。「話すの早すぎ。こっちに伝える意思を感じられない。ただ言ってるだけ。二度とこの人の授業はとらない」。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 考古学概論 |
| 授業コード | 22B04-001 |
| 教員名 | 渡部 森哉 |
| 教員コード | 101237 |
| 登録人数 | 194 |
| 回答数 | 123 |
| 回答率 | 63.4% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

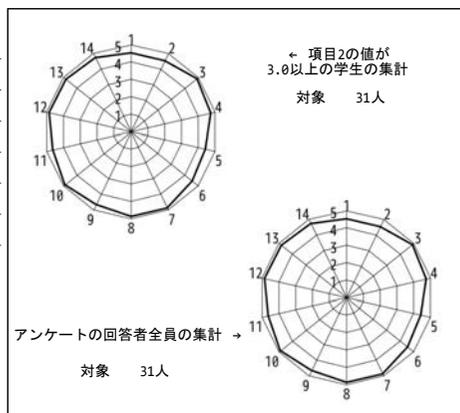


授業評価結果を踏まえた点検・評価

登録者数194名中、123名がアンケートに回答した。シラバス通りに授業を行った。アンケート結果を見ると、授業の目標は概ね達成されたと考えられる。数値が低い項目がいくつかある。項目1の数値が低いのは、人類文化学科以外の学生が多いためである。概論という性格上、本来興味を持っていなかった学生が受講したのは喜ばしいことである。項目2の数値も低い。毎回の授業の予習復習は求めなかったが、その分、期末レポートの条件は厳しくなっている。項目6の数値もやや低いが、考古学的な考え方を身につけるための工夫を検討していく。自由記述欄では、毎回質問に対する回答の時間があつたこと、資料が丁寧であつたこと、画像が多かつたこと、などについての好意的な意見が寄せられた。コメント用紙をwebclassを使用して提出することにしたため、授業時間に急いで書く必要がなくなったため質問しやすかつたと考えられる。一方で課題もある。複数の学生から、時々マイクの音が聞きにくいことがあつたという指摘があつた。また空調についての指摘もあつた。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 意味論 |
| 授業コード | 22C15-001 |
| 教員名 | 和泉 悠 |
| 教員コード | 103645 |
| 登録人数 | 53 |
| 回答数 | 31 |
| 回答率 | 58.5% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

到達目標 1、2それぞれについて、授業内課題の解答、小テストの解答、期末テストの結果を踏まえるに、合格者は十分に到達できたと考え。

たとえば、期末テストの問題の一部は、授業内で行なった課題の問題そのままではなく、授業で学んだことを応用しなければ解答できない問いが含まれていた。その問いは選択問題であったが、かなりの数の学生がそれを答え、十分に合格点となる解答を提示していた。問題が異なるため単純比較はできないが、前年度より期末テストの点が上昇していた。

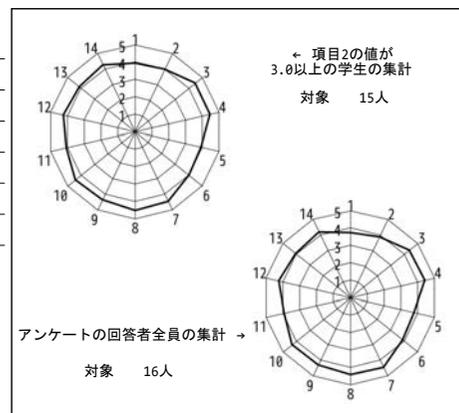
② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

数値および自由記述も肯定的な回答が多いと考える。また、できるだけ資料を共有する点、質問や課題の取り組みに時間を設けている構成なども肯定的回答が多いため、今後もその要素は変えないようにする。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後もコロナ陽性といった理由での欠席者が継続する可能性があるため、そういった学生も学びを継続できるような仕組みを検討したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 古代哲学史II |
| 授業コード | 22C26-001 |
| 教員名 | 坂下 浩司 |
| 教員コード | 100471 |
| 登録人数 | 41 |
| 回答数 | 16 |
| 回答率 | 39.0% |
| 休講回数 | 2 回 |
| 補講回数 | 2 回 |

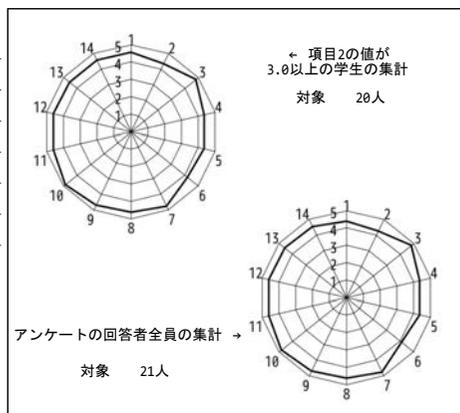


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 開講当初に設定されていた目標は「Ⅱ」は、エレア学派以降のギリシア哲学を理解している」であり、期末レポートをみるかぎりでは、みな適切な記述をしていたので、おおむね達成されたと思われる。(2) 数値データは、おおよそ4前後であった。今回は、「Ⅰ」の授業後に、「とても面白いので、くわしく研究できるようになりたい」と言ってくれた学生さんがいたため、「Ⅱ」では、ソクラテス以前哲学者についての基本文献の使い方が学べるように、かなり突っ込んだ方法や議論を行い、一人で、またグループで、その文献を使用できるようになるための訓練の時間を設けた。それは卒論でソクラテス以前哲学者をとりあげることができるようになるくらいのかかなり高度なもので、自由記述で「単にスライドを進めて知識を提供するだけではなく、文献講読で研究法も提示することで、多角的な理解が伴う授業になった」とあるのは、おそらく先のリクエストをしてくれた学生さんでこの方は満足していたことがうかがえる。(3) 他方で、「学生を揶揄するようなことを言っていた」と書いていたのは、おそらく班討論の時間にバスケットボールのシュートのポーズを何度もやっていた班のことを「左手はそえるだけのポーズをするスポーツは古代ギリシアにはなかったですね」と言ったことだと思われる。彼らはおそらく退屈していたので来年度はもう少しレベル設定を調節して授業を進めたいと思う。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 美術A3
授業コード 12A05-003
教員名 伊東 留美
教員コード 063834
登録人数 77
回答数 21
回答率 27.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

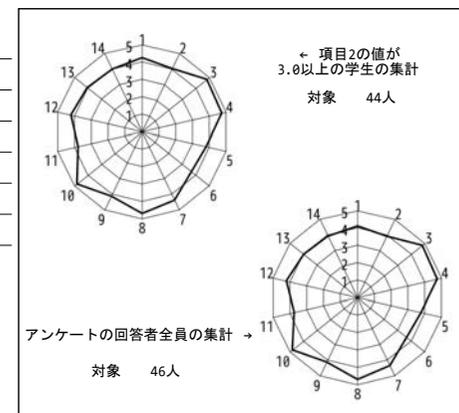
「美術A3」は共通教育科目（基盤科目）として全学部学生を対象に開講されている。本講義のねらいは3つある：「日本の近代化がどのように芸術作品に表現されているか理解できること」、「日本史と西洋史の流れに沿って、芸術の変容が理解できること」、「鑑賞した作品について日本の近代化の観点から意見を述べるができること」である。

本講義の到達目標についての設問（5と6）について、達成目標を理解している割合（設問5：4.38）よりも、到達目標に向けて力がついてきている割合（設問6：4.10）が低かった。また、全体として授業に満足感を感じる学生（設問14：4.52）は基盤科目全体の平均値（設問14：4.36）より若干高かったものの、その満足感は達成感に結び付かなかつたと言えるだろう。さらに、設問13での新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じる割合は4.52であったが、新しい知識が直接達成目標と繋がらないということだろうか。この点について、授業の内容と達成目標を見直し、どのように進めていくかを検討する必要があるだろう。

また、自由記述欄のコメントにもあったが、授業の進行がレジュメ通りに進まなかったため、今後の改善点として授業の進め方を見直したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と環境1
授業コード 13D02-001
教員名 林 雅代
教員コード 018796
登録人数 65
回答数 46
回答率 70.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

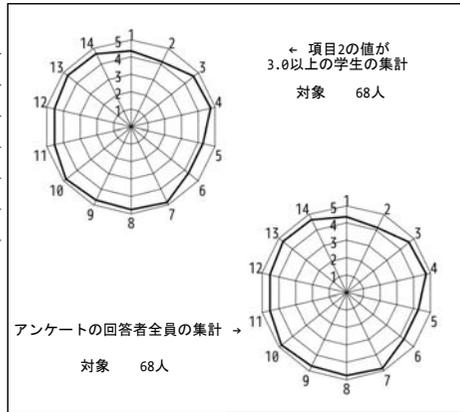


授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修中止した学生を除いて65名の履修者であったが、普段から授業参加している人数が45名前後であったため、評価に回答した46名は普段から授業参加した学生とほぼ同様であったと考えられる。この授業では、中間・期末試験の2回の授業実施、授業内での小レポート提出など、普段の受講で授業参加や予習・復習を行う必要性があった。設問2の「授業への主体的な参加」に関する回答が3.93となっており、平均的には授業への取り組みがそれなりになされていたように思われる。設問9の「教材使用の適切さ」に関しても4.09となっていることから、予習・復習用の教材使用も適切であったのではないと思う。学生の受講の様子を授業時等に確認した印象では、講義資料DLにアップされた資料を受講生がそれぞれの仕方で活用しているようであったし、ほとんど活用せず予習・復習をしなかった受講生は、定期試験には十分対応できていなかったように思われる。自由記述には、教材が受講に役立ったという評価が寄せられた一方、課題文献の量が多いという声も複数あったが、授業をきちんと聞いていれば、どこが重要か、どこが読み飛ばしても良いところかは十分判断できるものと思われ、しっかり授業に取り組んでいる受講生は、そのように読むことができているようであった。受講の仕方、課題文献の読み方・活用の仕方については、もう少し丁寧に説明することを今後心がけていきたいと思う。

2022年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 知識の探求4 |
| 授業コード | 13E03-004 |
| 教員名 | 川浦 佐知子 |
| 教員コード | 055855 |
| 登録人数 | 109 |
| 回答数 | 68 |
| 回答率 | 62.4% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



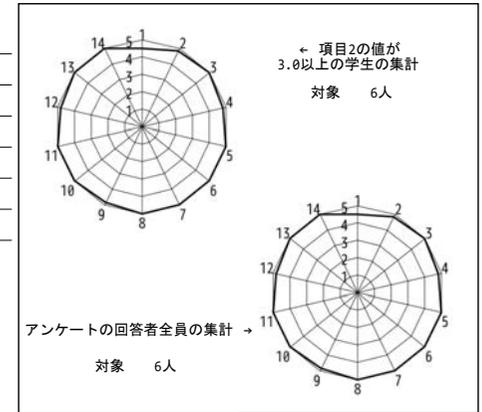
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 宇宙・惑星系・生命の歴史を、基礎的かつ重要な科学的知見に基づいて理解することを主目標として、宇宙の歴史を「進化」をテーマとしたひとつながりの物語として講義した。人文・社会科学系の学生の「科学」に対する心理的ハードルを下げるため、映像資料や科学番組のクリップ、ウェブページを用いてわかりやすい説明に努めた。授業では冒頭、前回授業で収集した学生からのコメントや疑問に応え、その後新しい事柄を紹介するようにした。設問13「授業を通して新しい知識を得られたか」という問いについて、「はい」（72.06%）、「どちらかと言えばはい」（25.00%）という回答結果であり、授業目標についてはほぼ達成できたと考えられる。② & ③ 担当教員の取り組み姿勢については、平均値4.84という結果であった。予習・復習に関する設問2については「はい」（35.29%）、「どちらかと言えばはい」（44.12%）という回答結果で、平均値が4.15となっており、次年度は小テストを課すなどして予習・復習を促したい。到達目標の理解が平均値4.29となっており、学期の冒頭で明示するだけでなく、折々に講義の中で到達目標に言及していきたい。

自由記述欄には；「授業の根幹となる部分がしっかり伝えられていて、学びを深めたいという意欲が湧いた。学生の事前知識が様々であるにも関わらず、どのような学生でも理解できるような講義がされていたので、安心して受講できた。」、「毎回、講義の後でその内容についての映像を見ることで理解がとても深まった。」、「板書だったので、話を聞きながらメモを取り、眠くならず集中できた。」、「毎回、授業の冒頭で前回授業のおさらいをしながら、学生からの質問に答えてくれる時間があつたので、各回の授業のつながりが感じられた。」あるのがよかった。」というコメントが寄せられた。

2022年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|------------|
| 科目名 | 教育の方法・技術論4 |
| 授業コード | 15A09-004 |
| 教員名 | 解良 優基 |
| 教員コード | 103910 |
| 登録人数 | 6 |
| 回答数 | 6 |
| 回答率 | 100.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
少人数の授業ということもあったと思われるが、授業の出席率や課題の提出率は非常に高く、学生は毎回の授業に真剣に取り組んでいた。アンケートの結果をみると、学生による「この授業の到達目標を理解することができましたか」「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という項目への回答については、いずれも平均点が5.00と受講者全員から最大値の回答が得られた。確認テストや上記のアンケートの結果より、本授業の目標は一定程度達成できたものと考えられる。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価数値

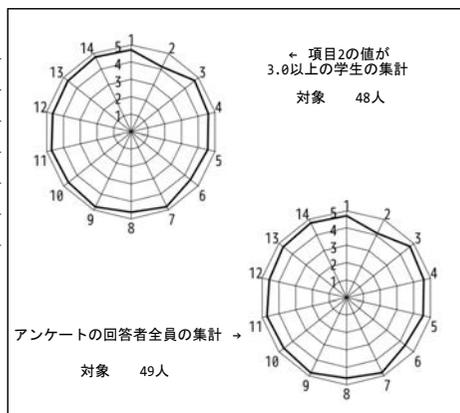
③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
データからは、全体的に学生は授業に対してポジティブに評価している様子が伺えた。

特に、「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」という質問項目に対しては、いずれも平均値5.00と高い値が得られた。

自由記述についても、授業の形式・進め方に対するポジティブなコメントが多く見受けられた一方、改善を求めるコメントは特に得られなかった。来年度も基本的な方針は継続しながら、その時点の最新の教育事情などを踏まえながら授業を行いたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会心理学(社会・集団・家族心理学)
授業コード 23C60-001
教員名 土屋 耕治
教員コード 102287
登録人数 126
回答数 49
回答率 38.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、2年次以上を対象とした講義科目である。主に、心理人間学科の学生を中心に約130名が受講した。

(1) 目標と到達

本授業では、心理学の視点からの人間理解、ならびに、科学的に現象を考察することを目標としていた。到達目標を振り返る項目（項目6）は、4.39と比較的高いと言え、一定の目標を達成していたとすることができよう。また、全体に関する満足度に関する項目（項目14）は、4.76と比較的高い水準にあることから全体としても、評価を得ていたと考えられる。

(2) 総合的な自己点検・評価

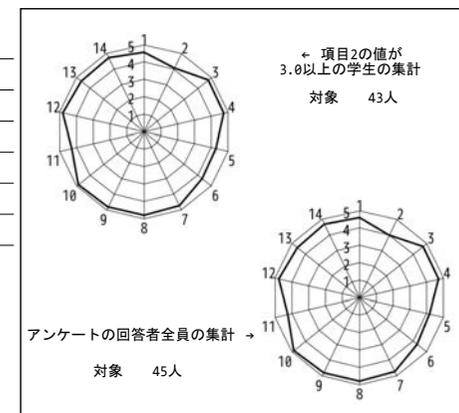
WebClassを授業中に活用し、相互に意見や考えを見る機会を設け、VTRを多く活用し、実際に実験のデモを行った。また、昨年に引き続き、WebClassのアンケート機能を用いて、毎回の授業後の記録（ジャーナル）を記入してもらった。書かれた内容は、匿名状態にして、受講生全員が相互に見られるようにした。とくに、映像を多く用いたことについては自由記述でも複数言及されており、学習に効果的であったと言える。

(3) 改善点

自由記述において、後半の授業では、時間の関係で授業後に記述してもらった質問への回答がなされなかったこと、また、教室のライトに関する事項（スライドのために教室が暗くされているが、そのために板書しづらいこと）が挙げられていた。これらの点について、改善をしていきたいと考えている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理療法論(心理学的支援法)
授業コード 23C61-001
教員名 楠本 和彦
教員コード 055780
登録人数 75
回答数 45
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は次の目標であった。以下の心理療法(心理学的支援法)の基本的概念について理解している。

- ① 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界
- ② 訪問による支援や地域支援の意義
- ③ 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法
- ④ プライバシーへの配慮
- ⑤ 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援
- ⑥ 心の健康教育

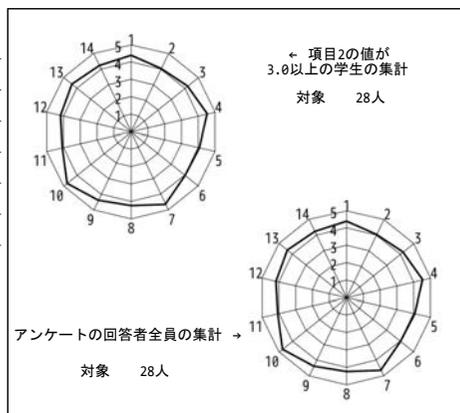
本授業の評価結果と大学全体の評価平均を比較した場合、本授業の結果が下回る場合があった。項目2は、大学全体平均よりも0.1ポイント低くなっている。予習が必要な授業課題に関して、予習の行うことの必要性を説明しているため、復習を学生があまり行わなかったことが、反映していると推測される。この点について、今後、さらに意識して授業運営を行いたい。

大学全体平均よりも0.2ポイント以上、上回っている設問は1、8、9、10、12、14であった。これらの項目は、学生の授業への興味、授業運営（音量の適切さ、理解度への配慮や教材等の効果的使用、授業の妨げになる行為への適切な対処、質問の機会や事後指導の実施）、全体としての満足感に関することであり、それらが、学生から一定の評価を得ていることを示している。

今後も、授業内容や運営に関して改善・工夫し、学生が関心を高め、学生の今後の研究、学習に繋がっていく授業展開を模索したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 精神医学概説(精神疾患とその治療)
授業コード 23C78-001
教員名 中野 有美
教員コード 103995
登録人数 63
回答数 28
回答率 44.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

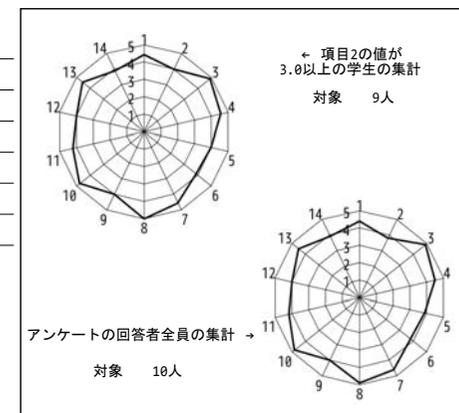


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに掲げた到達目標を十分意識して毎回の講義内容を吟味し講義を行ったつもりである。1. 各疾患の歴史、危険因子、診断基準、症状、治療、予後について正しい知識を持つことにより精神障害への偏見を解消する。2. さらには公認心理師を目指す人のために開講されている点から、症状の予防、改善、再発予防に役立つ心理社会的支援のあり方についての知識を持ち、3. まずは自分自身のメンタルヘルスマネジメントの技術を身に着ける。
しかし、17問の評価の中で主体的参加について（項目3）の得点が相対的に低め（4.04）で、授業の到達木曜を理解し実力がついてきていると思う（項目5，6）の得点も低め（それぞれ4.07、4.04）、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための適切な指導や情報提供があった（項目11）、質問や相談の機会が、十分に設けられていたか（項目12）についても低めであった（それぞれ4.07、4.18）。これらは、レポートを含め能動的に調べたり議論したりする機会が少ないと学生が感じていることを示している。心理人間学科にとって主要な科目ではないという理解から学生への負担を最小限に抑えた上で多くを学習できるように努力したつもりだったが、今後は、学生の主体的な調べ学習や課題のボリュームについても増やしていく方向で検討したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは4
授業コード 13E02-004
教員名 靱山 洋介
教員コード 041806
登録人数 16
回答数 10
回答率 62.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

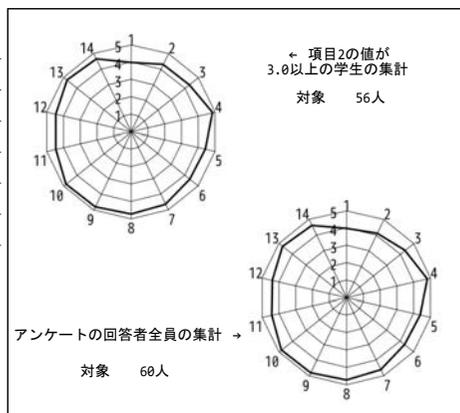


授業評価結果を踏まえた点検・評価

筆記テスト、小課題、毎回提出させる質問・コメントシートの内容から判断して、授業の目標への受講者の到達度に相当の幅が見られ、十分に目標に達した学生がいる一方で、授業の内容がほとんど身に付かなかった学生もいた。Q4の間に二度、「復習のポイント」を記したハンドアウトに基づき、復習も行ったが、今後、授業内容がより定着するようにさらなる工夫をしていきたい。また、自由記述に、「具体例が多く挙げられた点がよかった」「毎回提出する振り返りの内容について、次の授業で読み上げて触れてくれたので、理解が深まった。また、その際発展的な内容も加えて教えてくれることがあったので、聞いていて興味深かった」とあった。今後も、学生とのやりとりを通して、学習意欲の高い学生が満足できるように、授業内容を充実したものにしていきたい。一方、「ホワイトボードに書く順番が少しわかりにくかった」というコメントもあった。今後、よりわかりやすい板書を工夫していきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中世文学研究
授業コード 24C33-001
教員名 森田 貴之
教員コード 102286
登録人数 101
回答数 60
回答率 59.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



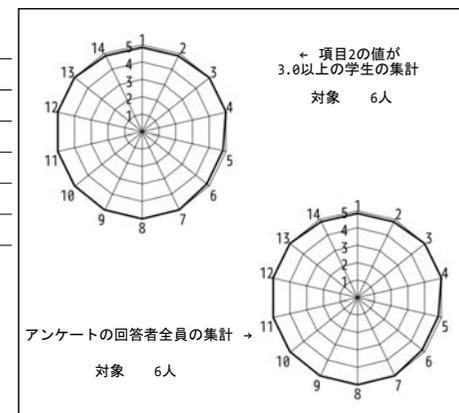
授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1の授業開始前の興味が3.98であるのに対して、設問14の満足度も4.62であり、当初の講義目標はおおむね達成されたものと考えているが、当初からより関心を持って講義を選択してもらえるようシラバス等を工夫するようにしたい。調査対象科目は、日本文化学科の学科科目の一つであり、日本文学のうち古典文学作品を扱う、専門性の高い内容であった。履修者に他学科生が多数含まれたため、日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり普遍的な作品理解の方法につながるように、また、具体的な関心を高められるように努め、本文の解釈においても負担をかけないようにつとめたつもりである。その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものが多かったように思い、その意図はある程度は伝わっていたと感じる。次学期、次年度へむけさらなる向上をはかりたい。ただ、自由記述欄に講義担当者の遅刻に対する苦情が寄せられており、この点については、始業前に講義室へ赴き機器の設定をするなど、次年度すぐに改善するつもりである。

全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。なお、授業内で回答を呼びかけ、最終回には回答時間をとったものの回答数がかなり少なかった。数回前から呼びかけるようにしたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語の教育と学習<国際科目群>
授業コード 24C60-901
教員名 岩崎 典子
教員コード 103983
登録人数 12
回答数 6
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

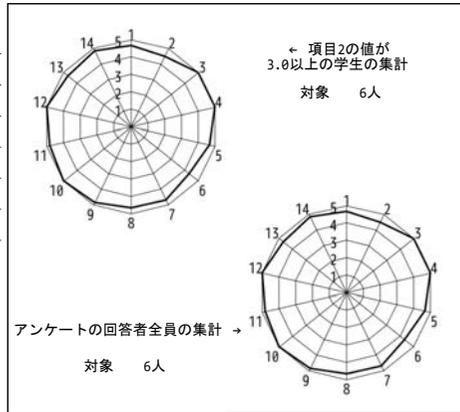


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は数年にわたり開講されていなかった国際科目群の授業で、以前は英米科の教員の言語習得・教育関連の科目が該当していたと聞いていたが、今回初めて担当し、全てが手探りであった。到達目標も暫定的なものであったが、授業に出席していた学生（9名）は、概ね想定した目標に到達したように思う。（授業で15分ほど時間をとって授業評価を依頼をしたにも関わらず）当日出席の8名のうち6名のみが授業評価に回答した評価ではあるが、高い数値になったのは、初日に説明した授業目標や方針に賛同した学生が引き続き受講したためかもしれない。20名の定員であったが、第1回目の段階で定員以下の登録、しかも約半数は授業に来ず、1回のみ出席して受講しないことを決めた学生もいた。レポート課題の設定、指導、フィードバック、評価も手探りであったが、レポート課題を2つにし、1つ目のレポートのフィードバックと評価をしてから2つ目の準備ができるようになったのは、英語でレポートを書ききれない学生には良かったのかもしれない。学生が海外で実際に日本語を学習している学生と英語で話す機会を設けるのは、クォーター4では、容易ではなかった。再度この科目を開講する際は、事前に海外の大学の教員と連携するよう努めたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語教育文法(中級)
授業コード 24C66-001
教員名 上田 崇仁
教員コード 103619
登録人数 10
回答数 6
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

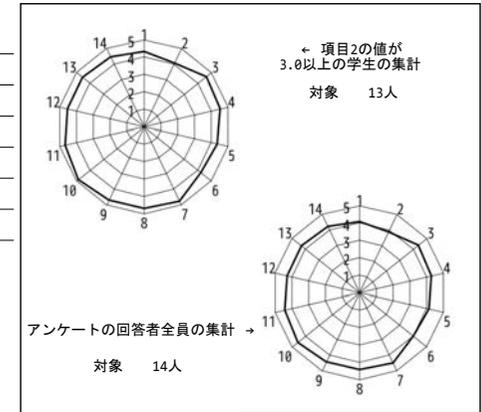


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) 自律した日本語教員として自ら学び続け、資料を自分で探し、それを母語話者として理解した上で学習者の日本語能力に合わせた説明を考えるとということを繰り返し話した。その結果、最終的に仕上がった課題は、いずれも十分にその指導内容を満たしたものであると考えた。担当箇所についての発表には、いずれも、教員の側からの質問や指摘が行われ、最終提出課題に反映させるということも、十分に対応できていたと考える。
- 2) 数値データで見えにくいことではあるが、授業評価でつけ得られた点数や自由記述に見られるような満足感のある授業であったかというのは、教員側から若干疑問があった。自由記述に見られるように、参加者が非常に静かで、互いに遠慮する雰囲気があったことは否めない。寝ていた学生もいたという指摘があったが、毎回の授業を十分に学ぶ価値のあるものに高めていくことが教員としての課題だと考えている。今期は、中級の学習者のぶつかる課題について、さまざまな映像や資料を見せること、教科書や、実際の作文などを見せることを通じて、教科書にあるものを教えるだけでは十分ではないこと、教員が調べたことを学習者に合わせて加工するということを繰り返し話した。それを真正面から受け止めてくれた学生からの評価が高かったものとする。
- 3) 上に書いたさまざまな映像や資料を見せること、具体的なイメージを作っていくこと、というのは、昨年度の授業評価からの改善事項である。次年度以降、発表者以外も積極的に授業参加する意欲が持てる授業構成を考えていきたい。一方で、大学の学びは学生の自立した活動であると考えため、発表者担当の指定は行っても、コメンテーターの指名は、結果として発表者とコメンテーター以外の学生の意欲を引き上げることにほならないと思われ、検討を重ねていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 歴史の諸相2
授業コード 13B06-002
教員名 川島 正樹
教員コード 048116
登録人数 30
回答数 14
回答率 46.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

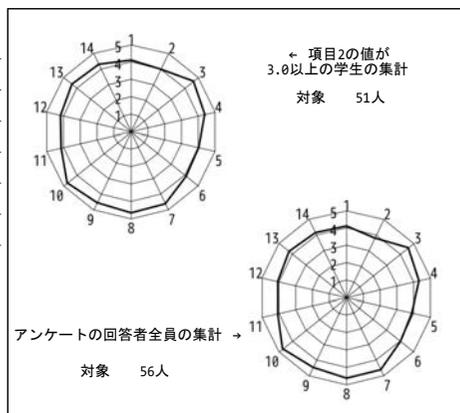


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：前回（2021年度）と比較して、項目5は4.38から4.14に、項目6は4.48から4.00に、項目13は4.58から4.29に、項目14も4.71から4.21へと、かなり低下したことは明らかである。この原因は回答者13名中1名がすべてを1にしており、他に1名がそれに近い数値を示しており、この2名から悪意に満ちた反応が示されたことに一部起因している。この学生が誰かは概ね予想がつく。おそらく初回授業で教室外からWebClassのチャットにアクセスして嚴重な注意を受けた者たちで、恨みを買ったことにあると想像される。それにしても、昨年度と比較して全く同様の内容とやり方であり、むしろ昨年度の反省も取り入れてWebClassのチャットも行ったにもかかわらず、数値の低下は受講生のレベルダウンにあることは否めない。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：自由記述欄の評価すべき点として半数近い6名の受講生が記述してくれた。おおむね好評であったことに救いを感じられた。その中から一例を挙げる。「いかに自分が歴史を甘い目で見えていたかが分かった。」
- ③昨年度と違って事前の希望者にはZoomミーティングを用意した。これがよかったか悪かったか、判断がつかかっている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 歴史の諸相4
授業コード 13B06-004
教員名 上村 直樹
教員コード 102463
登録人数 137
回答数 56
回答率 40.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

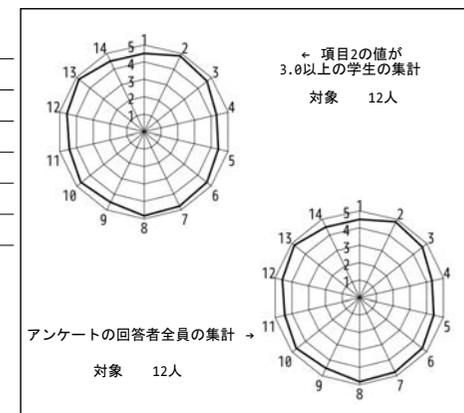


授業評価結果を踏まえた点検・評価

私の担当科目全般に関して、授業評価において従来から到達目標に関する項目（5、6）の評価が低く、項目3、4や7～11などの教員側の授業に取り組む姿勢や教材、そして授業環境等に関する項目は、比較的高く、授業の双方向的な側面や授業全体の満足度等に関する項目（11～14）はほぼ両者の中間に位置する傾向があったが、今回はそうした傾向がかなりはっきり出る結果となった。到達目標に関しては、それぞれ①アメリカとアジア太平洋諸国との関係の歴史展開を理解している、②アメリカとアジア太平洋諸国にとって相互の関係が持つ意味を理解している、③授業での知識や考え方を活用して現在のアメリカとアジア太平洋諸国との関係をよりよく理解できている、である。この点の評価がどの授業でもおしなべて低いこともあり、この1～2年は各授業において最初および半ばと最後に時間をとって説明するようにしているが、やはり学生による評価がこれらの項目に関しては低い結果となっている。こうなるとこれは、達成目標の伝える機会が少ないのではなく、受講生が授業を通じて科目の達成目標を実感できていないことが原因と考えざるを得ない。今後の授業においては、達成目標のそれぞれの項目をより意識した形で行うように努めたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A IV3
授業コード 31A04-003
教員名 COCHRANE, Robert
教員コード 104483
登録人数 27
回答数 12
回答率 44.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

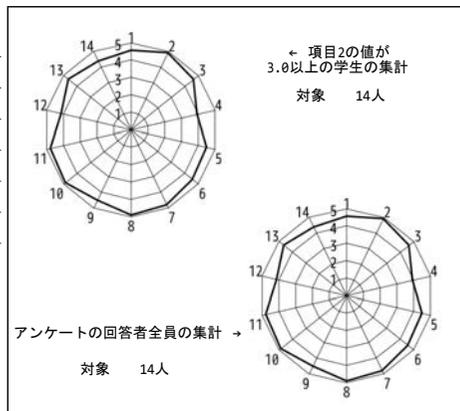


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Despite this class being the most unresponsive of the 3 AEA classes, they did perform well on their final assignments. The class evaluations are good (all over 4.5) and the comments are also positive. Students largely attained the goals I had set out in the beginning of the year. Since my approach is largely student-centered, it requires students to rise up to their own individual levels and it is their responsibility to learn. The comments suggest that students did learn new skills even though this was their hardest class. My relationship with this class has been more challenging than the other AEA classes but the evaluation results suggest that students did find value in the course and were able to expand their skills and knowledge. One comment suggests that they had numerous opportunities to speak in front of classmates and as a result they were able to overcome their anxiety. In future classes I will continue with the same approach but will try to provide additional support materials in the form of videos and guides. Students did demonstrate the ability to complete assignments according to academic standards, critically analyze and present their research verbally.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A IV4
 授業コード 31A04-004
 教員名 WILSON, John
 教員コード 102696
 登録人数 28
 回答数 14
 回答率 50.0%
 休講回数 1 回
 補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals and objectives of this course included providing students with numerous opportunities to communicate in English (in Class) and have students perform paper tasks in preparation for class discussions on a variety of topics. Students conducted presentations, writing and worked collaboratively on assignments. Given the numerical data I can determine that the course objectives were fulfilled and students in general were pleased with the class. One of the advantages of using a textbook that was designed and created specifically for our AEA student is that they can use the book, work ahead, and develop reading and writing skills. There is also a place in the textbook for students to take notes and build vocabulary. For 2023 I aspire to have more activities in class and I have communicated with FLEK teachers to better understand the classes and course material they teach to our shared students and will try to avoid duplicate types of activities. It is also time for the textbook to be updated (there were several references to Prime Minister Abe) so we will strive to make the new textbook more current with recent events (Covid, conflicts in different regions --Ukraine) and other new technologies.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Society E2
 授業コード 31C05-002
 教員名 原田 健二郎
 教員コード 104468
 登録人数 16
 回答数 4
 回答率 25.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The number of students who have answered the questionnaire was, regrettably, only four, due to my insufficient instruction to students. But considering those four students' assessments (the average overall score was 4.5), I believe the course proceeded as planned and has achieved its original goals.

This course was designed to learn contemporary British society by using materials for the "Life in the United Kingdom Test". Class activities included explaining the text, answering practice questions and taking mock exams. This required a few hours of preparation outside of class, especially a careful and rigorous reading of the materials. I appreciate that most students strenuously carried out such a demanding task.

The sessions focused on improving students' explaining abilities in English, including speaking and pronunciation aspects. The students' performance varied, but most of them improved those skills during the course of their learning. I hope they will continue to be mindful of how to speak English in a clear and grammatically correct manner.

It is only from this year that I started this course content, and I plan to continue it with some adjustments. They concern how I should advise students on their preparation, how to conduct in-class exams (the test time, the number of questions, difficulty level, etc.), and how to update the course materials based on a recent, rapid change in British society.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 科目名 | Special Topics in English: Culture A1 |
| 授業コード | 31C06-001 |
| 教員名 | 山辺 省太 |
| 教員コード | 103138 |
| 登録人数 | 14 |
| 回答数 | 3 |
| 回答率 | 21.4% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

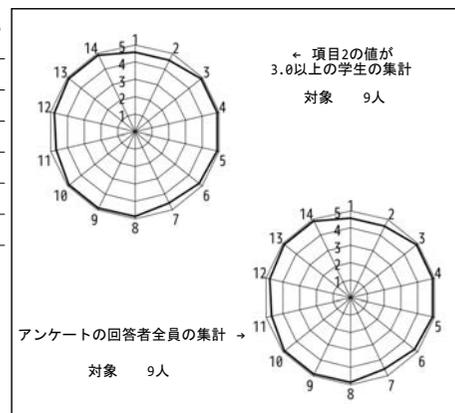
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価自体は悪くない結果だが、説明が分かりにくいという指摘もあり、今後はその辺りを改善していきたい。時間配分に問題があると感じた学生もいたようなので、その辺りの配慮も行うよう心掛けたい。今後も学生が文学に関心を持ってもらうよう、授業改善に努めていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|---|
| 科目名 | Special Topics in English: Culture A<国際科目群>2 (英米学科生用) |
| 授業コード | 31C06-903 |
| 教員名 | 今井 達也 |
| 教員コード | 102469 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 9 |
| 回答率 | 37.5% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

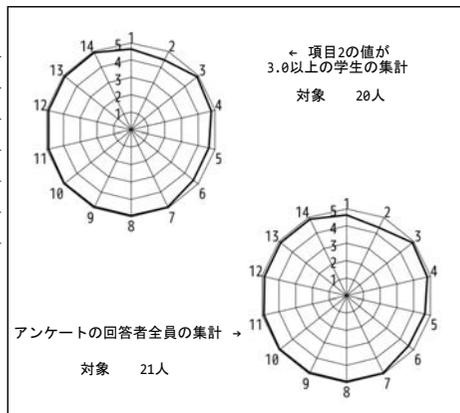
① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この授業の目標は、異文化適応の理論を学び、それを使って異文化適応スキルを高めることであった。同時に、英語力の向上も目的である。授業をやっていた感触としては、これらの目標はある程度達成されたように感じる。プレゼンテーションでは、興味のある異文化の問題を理論を使って分析するというものであったが、概ね理論を理解し、うまく活用していたと感じる。毎回、英会話の時間を設け、プレゼンテーションのスキルも教えたことを吸収しており、良いパフォーマンスが見られた。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
数値データでは、概ね良いスコアであったが、教員の誠実さや、学生の意欲を高める点について、少し低かった。自由記述においては、内容には満足していたようだったが、コロナ対策のため窓が開けられ、教室が寒いというコメントが見られた。今後は、もう少し学生の興味に耳を傾け、その興味に合わせて授業を興味深いものに向上できるように努めていきたい。教室に関しては、以下の質問に回答する。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後は、教員の誠実さが伝わるよう、学生からの意見をもっと取り入れ、それを学びに反映させられるようにしたいと思う。学生の意見を受け止めることができれば、学生のやる気の向上にもつながるであろう。英語の授業であったことで、なかなかこちらの意図も伝わりきっていなかったようにも考えられ、英語であっても分かりやすく、学生とコミュニケーションができるように努力と工夫を重ねていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Culture
D<国際科目群>1 (英米学科生用)
授業コード 31C09-901
教員名 PURCELL, William
教員コード 016501
登録人数 33
回答数 21
回答率 63.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

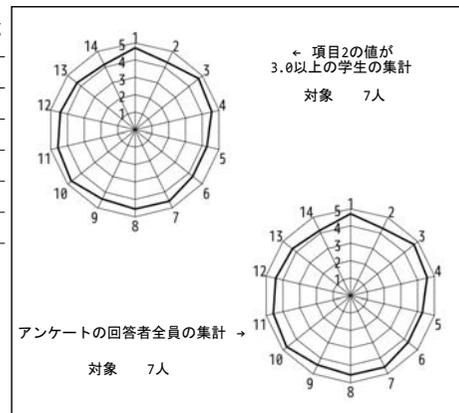
One of the main purposes of this course is to acquaint the students with the peoples and cultures of Africa. The fact that only a few students dropped out indicates that to a certain degree I was able to retain their interest in that subject. Weekly written reflection assignments also indicate a fairly high degree of success in deepening their understanding and stimulating them to reflect on their own cultural experiences.

The student evaluation numbers would also seem to indicate a fairly high degree of satisfaction with this course. It would have been nice to have a few more written comments, but those offered seem to imply an appreciation for the approach to the subject, particularly the weekly reflection journal as a form of interaction. Two students also mentioned appreciation for student-centered discussion time.

In terms of continued improvement of the course, one area to pay attention to is continuing to refine the PowerPoint presentations and to encourage even more student-to-student discussion of the topics and issues raised.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Language B2
授業コード 31C12-002
教員名 RYAN, Anthony
教員コード 104650
登録人数 25
回答数 7
回答率 28.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

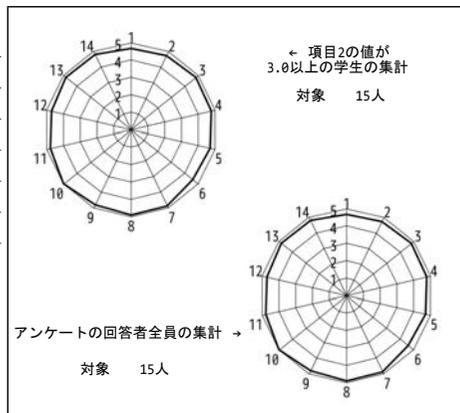
The objectives of this course were for students to engage actively in dialogue and discussion with peers and also to teach them how to analyze their self-generated before-and-after conversations for macro structure and internal structures, and compare their performances. In regard to the achievement of these objectives, the self-reflections handed in by the students at the end of the course made clear that they did think notice particular aspects of their performance and worked hard to modify their contributions in the latter conversation. I was extremely pleased with how diligently the students approached what was at times quite difficult content and analytic techniques. Without exception, they did actively engage in dialogue and discussion with peers, and it appears that they enjoyed the opportunity to work with a partner. The high average scores in this survey bear this out as well. Moreover, the comments submitted by the respondents reinforced this point.

For example:

- #1. I enjoyed the opportunity to have an English conversation in every class and immediately put into practice the rules I learned.
 - #2. It was good to get to know my partner better because we had many opportunities to talk and work together.
- In terms of future iterations of this course, given sufficient class time, the instructor plans to place more emphasis on students being able to identify their own spoken grammatical errors.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Contemporary Japan B
 授業コード 31C22-001
 教員名 手塚 沙織
 教員コード 103911
 登録人数 23
 回答数 15
 回答率 65.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

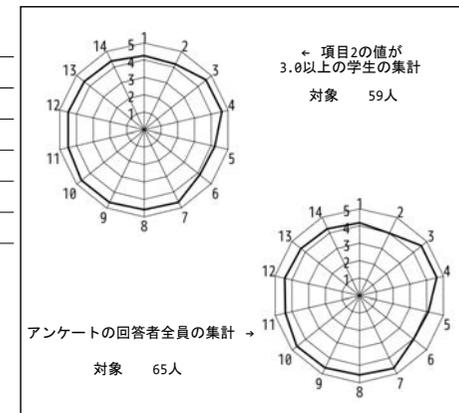


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は、1) 人種問題など物議を醸している問題を通じて現代の日本社会と文化を理解すること、2) 問題を分析し、議論および討論出来る力を身につけること、の2つとしている。この2つを到達させるため、学生の主体性を最重視し、授業毎に英語でチーム内でのディスカッションとチーム間でのディベートをさせているアクティブラーニングの授業である。授業内容の定着と学生の成長のため、授業内容に関する課題と自己評価を授業毎に提出させている。そのため、学生が自ら調べ、理解し、考え、発言しなければ、授業についていくことは出来ないが、授業を終えた後に成長を感じられるように設計している。数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価は全体的に高く、「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」の質問に対し、4.80の評価を得た。他方、最も低い数値は、「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」という質問では、4.60であった。本授業は英語でのディスカッションとディベートをし、自身のパフォーマンスを常に評価するシステムであるため、自分が十分に成長できていても、それ以上に出来るクラスメイトと比較して、自らを適切に評価できていない学生もいるのではないかと読み取れた。来年度はこの辺りをフォロー出来るようにしたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文学研究の基礎<国際科目群>
 授業コード 31D02-901
 教員名 TEE, Ve-Yin
 教員コード 101626
 登録人数 75
 回答数 65
 回答率 86.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

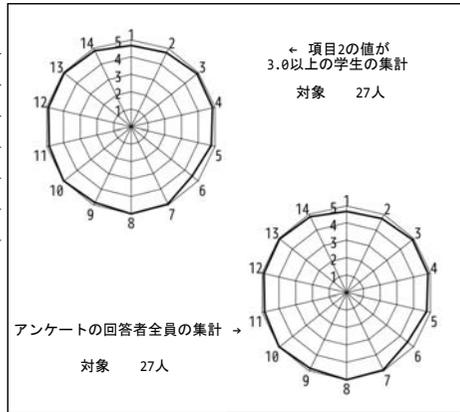


授業評価結果を踏まえた点検・評価

As I've taught this course for some years now, I had little trouble achieving my goals: to get students reading literature and connecting it with society. In terms of the evaluation, it was slightly below average for my faculty but that's because the average class size is less than a third of my lecture: in comparison with other faculties where there is more lecture-based instruction, my scores are actually slightly above average. Indeed, I received many positive comments from students on the content, pacing and the difficulty level. A few students suggested that the course should be based on a final report rather than a written exam, but on principal I'd prefer an exam for larger (lecture-based) courses and a final report for smaller (seminar-like) classes. A student also complained about the amount of homework, but this is relative: students with good English reading skills will simply finish the reading much faster than students who don't.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IID2
授業コード 32A17-002
教員名 LOPEZ RODRIGUEZ, Francisco Javier
教員コード 103453
登録人数 33
回答数 27
回答率 81.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class had 4 main goals:

- 1) to review and consolidate several grammar structures and semantic fields.
- 2) to improve the oral and reading comprehension.
- 3) to strengthen oral expression.
- 4) to practice the use of the past tenses and properly use them in narrations.

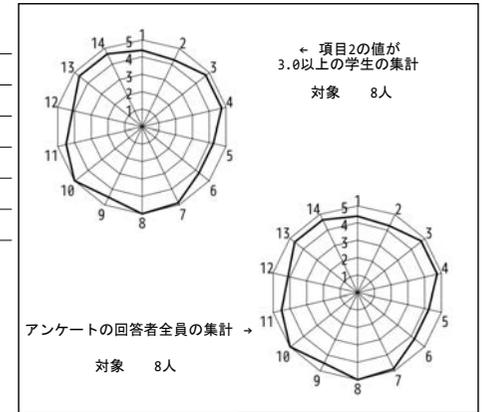
According to the students' comments, many of them felt that they improved their ability to use the past tenses, learnt new vocabulary and had many opportunities to communicate in Spanish.

Considering the results and comments of the survey, the teaching methodology used was effective. The students valued positively the fact that in every class there was homework, which helped them to develop the habit of studying every week. They also were satisfied with the frequent speaking exercises (in pairs or in groups) that allowed them to practice in a relaxed way. And they mentioned that the class was well-organized, and that it was easy to ask questions to the instructor.

In the next year, I would like to adjust the number of activities of every class to have more time to do listening exercises and I will provide the students with more detailed information about the evaluation of the main activities.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIA2
授業コード 32A19-002
教員名 ESCANDON, Arturo
教員コード 102090
登録人数 20
回答数 8
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

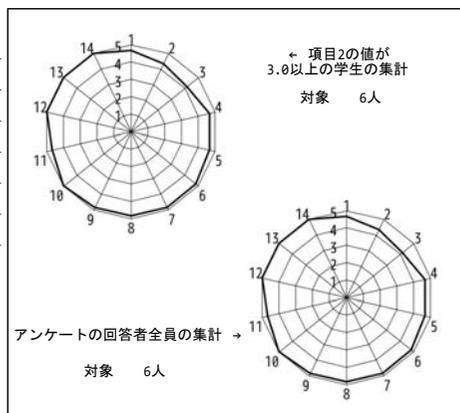
I believe the course met all the objectives we have set for it, which dealt with the conceptual development of students. Students discussed the readings among themselves and with the teacher, researched key topics dealing with important issues that Spanish and Latin American societies (including Japan) are facing.

We have developed pedagogic activities that encourage classroom participation and research. Overall, students think the course helped them to understand the issues. The responses to the questionnaire are quite positive. They expressed their satisfaction about the course giving them time to think, reformulate and share ideas among themselves as a way of contrasting their understanding.

All teachers involved in reading courses (third and fourth year) are currently involved in assessing the students' development as a way to make pedagogic improvements. We will soon publish our second research paper in which we evaluate our reading programme, including this very subject. We are using our own pedagogic materials and we are improving the course's delivery every year.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン史B
 授業コード 32C04-001
 教員名 永田 智成
 教員コード 103900
 登録人数 9
 回答数 6
 回答率 66.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

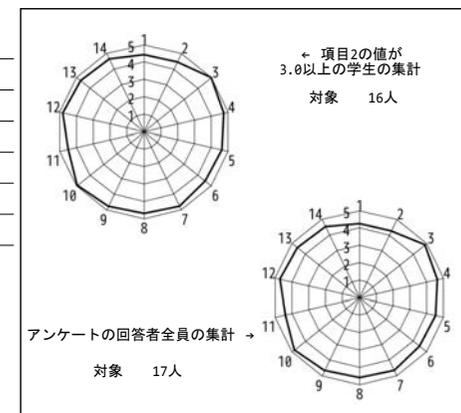


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については概ね達成できたと考えている。複雑な現代スペイン史の流れを理解し、それを今後の教訓とするということを目指し、やや難解なところがあったとは思ものの、受講生は授業でのやり取りや試験での採点を見る限り、目標に達したと考えている。数値データおよび自由記述等については、他に類を見ないほど、非常に高評価を頂き、またコメントについても批判的なものはなかった。しかし、教員としては、難しい概念の説明が、まだまだ説明が不十分であったと反省しているところもあり、もう少し理解を促し、深められる説明や教材を用意しなければならないと改めて反省しているところである。基本的な授業で取り扱う題材は同じとしつつも、更なる改良を重ねていく。授業のやり方としても、講義を中心としながらも、例年、受講者は多くないことから、ディスカッションやオピニオン・ペーパーを通じて、可能な限り双方向的な歴史の授業を模索していく所存である。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカの文化と社会C
 授業コード 32C25-001
 教員名 浅香 幸枝
 教員コード 000165
 登録人数 36
 回答数 17
 回答率 47.2%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回

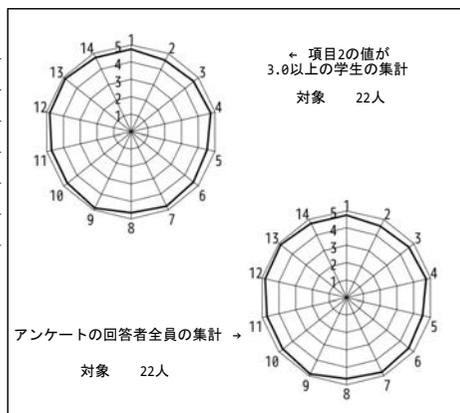


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1～14の平均値は4.57であり、項目3～14の平均値は4.62であった。授業目標はおおむね達成できたといえる。4.5以上の設問は、10項目に亘っている。1番高い4.88は授業の開始と終了の時間が守られていたである。2番目に高い4.82は授業の妨げになる行為に対して適切な対処がされていたである。3番目に高い4.71は質問や相談の機会が十分に設けられ、指導が十分であったと回答している。4番目に高い4.65は3項目あり、毎回の授業の構成や進行速度は適切で、授業に取り組む教員の姿勢に誠実さ真剣さを感じ、学生の理解度に配慮して効果的な授業をしたと答えている。4.5以上は4項目あり、この授業の到達目標を理解でき、授業中の音声はよく聞き取れ、この授業を通して新しい知識を得て理解が深まり、全体として授業に満足したと回答している。自由記述欄では、資料の説明が丁寧で深く理解できただけでなく、授業内容の発展として、グループ討論・発表をしたことで、自ら責任を持って授業に参加したことが高く評価されている。授業開始前、内容についての関心は4.24に過ぎなかったが、授業満足度と知識の獲得が4.5以上となったことは、講義+グループ討論+共同調べ+発表+質疑応答という方式が学生の意欲と学習成果をもたらすことが分かる数値となった。今後もこの双方向の方法で学生の力を伸ばしていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|---------------|
| 科目名 | フランス語VII[FF]1 |
| 授業コード | 11B07-003 |
| 教員名 | 茂木 良治 |
| 教員コード | 102698 |
| 登録人数 | 31 |
| 回答数 | 22 |
| 回答率 | 71.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

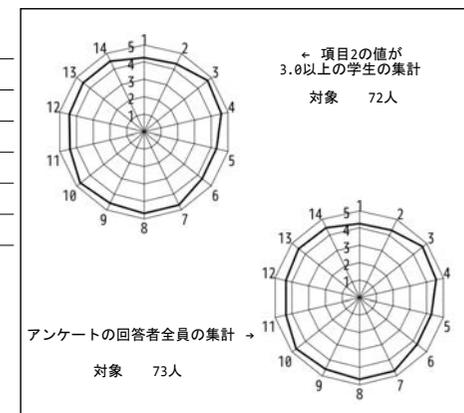


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Tendances A2という教科書を使用して、予定していたUnit 5 Le φn2～Unit 9 Le φn2を終わらせ、当初設定していた授業目標は達成できたと思う。学生たちは欧州言語共通参照枠のA2レベルへの到達に向けて学習したことになる。フランス学科1年生向けの科目のため、教員から見ても授業進度は比較的早い。設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」で4.64点と高い数値を得られていた、また、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」で4.73点だったことから適切な授業運営だったことがうかがえる。設問3、14の平均点が4.73点と高得点であることから、授業全体でも満足度が高いといえる。自由記述欄に、「授業の中で前回の復習や確認をしてくださることで、より理解がしやすく、学びも多く、充実した授業でした。」とあるのように、解説の内容および手法について肯定的な記述が多数見られた。否定的な意見として、「他の生徒の授業の妨げとなる行為に対して、注意喚起をした方が良いと思う。」という意見があった。コロナ対策のため、履修者数に対して教室が広すぎたため、適切な注意喚起ができなかった点は反省点と言える。今後は、対策を強化して授業を運営していきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 社会の諸相3 |
| 授業コード | 13C04-003 |
| 教員名 | 小林 純子 |
| 教員コード | 102488 |
| 登録人数 | 195 |
| 回答数 | 73 |
| 回答率 | 37.4% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

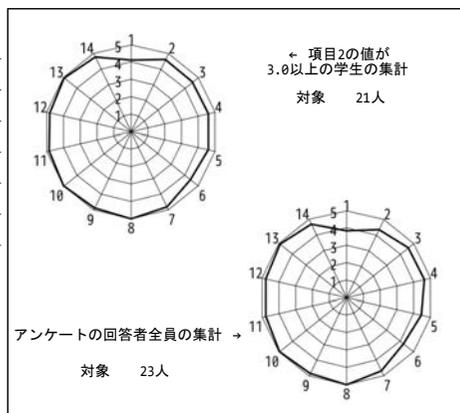
この授業は、1年次生以上を対象とした共通教育科目「社会の諸相3」で、現代ヨーロッパにおける人の移動の原因と帰結を理解し、その文脈の中から生じたさまざまな文化や芸術作品を知ることを到達目標としている。

数値データから、全体の平均値4.52に到達してはいるものの、受講生の理解度に配慮した授業の進行速度や構成、自主学習のための情報提供の方法など、個別の項目それぞれの平均値以下の箇所、特にこの授業の課題を見いだすことができる。自由記述回答からは、映像資料、各種出版物資料、プレゼンテーションファイル資料や復習課題などが受講生の理解を促進していたことが分かる。いっぽうで世界史に関する内容等については受講生の前提知識を考慮しつつ提示方法に工夫が求められることが分かる。

以上をふまえ、次クォーター以降の当該授業では、(1) 毎回の構成、(2) 進行速度、(3) 課題や自主学習のための情報の内容と提示方法の、主に3点の見直しをはかり、改善を試みることにしたい。また自由記述回答の指摘の通り、受講生が多すぎると教室に余裕がなく、担当者も小さな私語に気づかないことがあるため、この点については差し当たり定期的な注意喚起を行うことで対応することにしたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 基礎演習II1 |
| 授業コード | 34A06-001 |
| 教員名 | 畑野 小百合 |
| 教員コード | 104422 |
| 登録人数 | 31 |
| 回答数 | 23 |
| 回答率 | 74.2% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

ディベート、グループ発表、個人発表の3つの柱で授業を構成し、ドイツ語圏の現状や歴史、諸問題に対して理解を深めるといった目標は達成されたと思います。時節柄、学生が発表当日に出席できないケースが少なくありませんでしたが、履修者の皆さんの授業をスムーズに進めるための協力を得て、最終的には時間内にすべての内容を収めることができました。

アンケートの評価を受け、内容に概ね満足いただけたようで安堵しています。演習科目であるため、学生が積極的に調べて学ぶ必要があり、負担が多く感じられた方もあるかもしれませんが、ここでの経験がこの先の独自の研究の基礎となるであろうと確信しています。単位取得には授業時間外の学習も前提とされていることを理解し、取り組んでいただけたらと思います。

とはいえ、クォーター制で週2回の授業がある中で、十分な準備をする時間が取れるよう、こちらとしても検討していきたいと思っております。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 研究プロジェクト |
| 授業コード | 34A27-001 |
| 教員名 | 太田 達也 |
| 教員コード | 101967 |
| 登録人数 | 5 |
| 回答数 | |
| 回答率 | |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

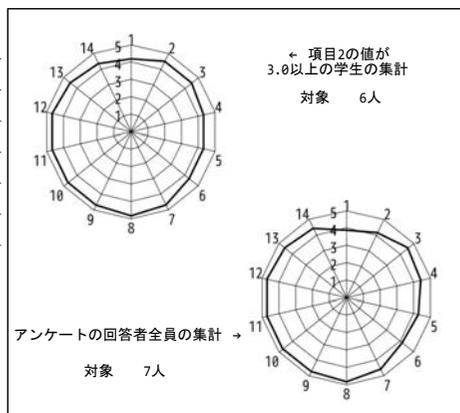
レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

「研究プロジェクト」は卒論指導のための科目であり、今年度は比較的少ない受講者数であった。当該科目の履修者たちは、履修済みである「演習I」「演習II」「演習III」「演習IV」においてすでに卒論構想発表、中間発表、最終発表を行ってきており、また担当教員がこれまで個別の相談に応じてきたこともあり、「研究プロジェクト」での学習は概ねスムーズに進行したと言える。目標としていた「1. 各自が自ら取り組む研究テーマについての知見を更に深めている。2. 卒業論文を完成し、提出している。」は、ほとんどの履修者において到達した。履修者の受講状況、受講態度も、ほとんどの履修者において、まったく問題がなかった。面談に遅れるということもなく、面談時までにはやっておくべき課題もきちんとこなしていた。一方、履修者からの連絡・返信がまったくない場合のケアが難しいという問題も明らかになった。学業面だけでなく精神的なサポートも必要とされる場合もありうるため、次年度以降、どのようなかたちでよりよくそうしたサポートができるのかを考えていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語実践演習A<国際科目群>
授業コード 34D02-901
教員名 BAYERLEIN, Oliver
教員コード 100842
登録人数 19
回答数 7
回答率 36.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



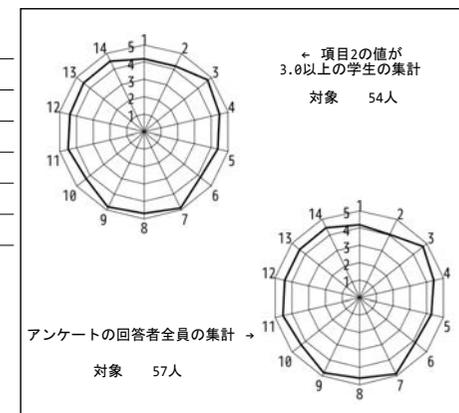
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The seminar focused on video production in the German language was a success as in the last year! Students were tasked with creating engaging and informative YouTube videos on a variety of topics, and the results were nothing short of impressive. The creativity and passion that each student brought to the project was evident in the finished products, which were both educational and entertaining. The seminar provided a valuable learning experience, as students honed their language skills, video production techniques, and presentation skills. The final presentations were well-received by the all students and demonstrated the students' remarkable progress and growth over the course of the seminar. It was an incredible display of talent and dedication and a testament to the power of hands-on learning experiences.

Everyone can view the results: <https://www.youtube.com/@hanakodeutsch>

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ文学史
授業コード 34D05-001
教員名 麻生 陽子
教員コード 104628
登録人数 137
回答数 57
回答率 41.6%
休講回数 1 回
補講回数 0 回

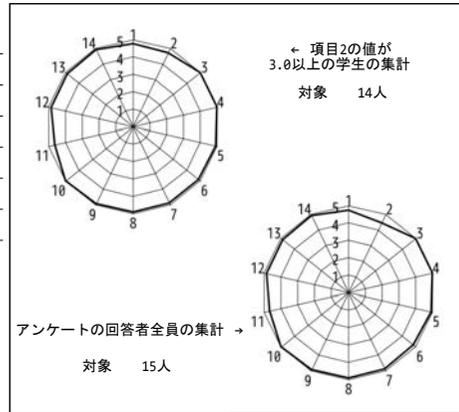


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 21世紀のドイツ語文学にかんしては、ほとんど言及することができなかったが、学生があまり知らないであろう18、19世紀の文学については、文学作品のたんなる内容紹介にとどまらず、当時の社会背景や思想などについてもていねいに紹介できたと思われる。
- ② 開講当初には想定していなかった、ドイツ学科以外の他学科の学生が相当数受講していた。本科目は、かれらにとってはふだん馴染みのない分野であろうと思われ、ヨーロッパの歴史（とくにドイツ語圏）に触れるだけでなく、ドイツ語以外の文学とドイツ語文学の関連など、話題を広げることで、自らの専門的な学びにとっても得られるものがあるよう、意識的に授業内容を変更した。また、学生からのコメントを授業計画に役立てることができた。そのため、授業内容も、当初のものよりも充実したものとなったと思われる。毎時間授業の最初に、学生が前回の授業に提出したコメントを紹介することで、欠席者のフォローを行うだけでなく、前回の振り返りをも行った。学生に毎度リアクションを返すことで、学生の関心をより広げ、理解をより深める取り組みになったと思われる。
- ③ 今年度は、学生からのコメントを紹介することで授業内容が充実した一方で、当初の授業計画の範囲を大幅に制限することにもなった。来年度以降は、内容の取捨選択とあわせて、時間配分を意識した授業作りを心がけるつもりである。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語II語法1
授業コード 35A08-001
教員名 鈴木 史己
教員コード 103651
登録人数 20
回答数 15
回答率 75.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

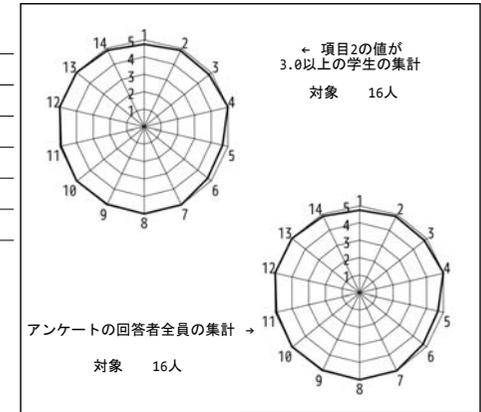


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本科目の目標は、中級中国語 I 語法で習得した文法事項を応用し、さらに様々な語句や構文の機能について、その使用の実際に即して学習することである。教科書に沿って文法事項を確認したうえで、教科書外の例題を追加して定着を図った。また、応用力を養うために、身近なテーマでやや長めの作文課題を課して提出させ、添削を行った。文と文のつながりまでは意識できていないものの、1文レベルの表現力は身につけているように思う。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データはおおむね高い評価が得られている一方で、反省点として自身の取り組みに対する自己評価が低い受講生がいること、積極性・自主性を促す工夫についてやや評価が低いことが挙げられる。課題の提出・点検だけではなく、授業内でも双方向のやりとりを増やすことで、よりよい学習の機会を提供することができたかもしれない。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
授業内で受講生が自ら考え、発言する機会をより多く設けるよう工夫したい。また、自由記述で評価する意見があったスライド教材についても、受講生の自主性を促せるように改善していきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語II読解1
授業コード 35A10-001
教員名 宮原 佳昭
教員コード 102232
登録人数 16
回答数 16
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 本授業の到達目標は次の2点である。① 中国語検定2級程度に対応できる読解力を身につけていること。② 2000語程度の単語を使いこなせること。
- 上記の目標を達成するために工夫したことは、次の2点である。① 学生の発音や日本語や訳が間違っている場合、それを一概に否定したり解答を一方向的に伝えたりするのではなく、「学生がどのようにしてその発音や訳になったか」を把握した上で、「どのように調べればよいか」「どうすればより良くなるか」を学生に考えさせる啓発型のアプローチで学生を指導した。② 中国語の一字一句を大事にし、辞書や用例に基づいた日本語訳を徹底した。その上で、文章の難度が高くなると日本人には分かりにくいフレーズがどうしても出てくるため、その場合はネイティブの意見を聞くのが有益であることを指導した。これらは学生の自由記述欄を見る限りは好評で、授業の目標達成にとって有益であったと考えている。
- 一方で、同じく自由記述欄には、「先生自身がよくわかっていない部分もあってこちらが不安になった」という意見が1件あった。これは、学生と教員との間で日本語訳が異なった場合、上記①・②の通り、「教員としてはこのように調べてこのような訳になったが、授業後にネイティブの意見を聞いて、次回の授業で確認しよう」というアプローチをとったことが理由と考えられる。学生に不安を与えることは望ましくないため、今後はこのアプローチを意図的にやっていることを学生へ十分に説明することにしたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国圏の文化と社会

授業コード 35B03-001

教員名 江口 伸吾

教員コード 104423

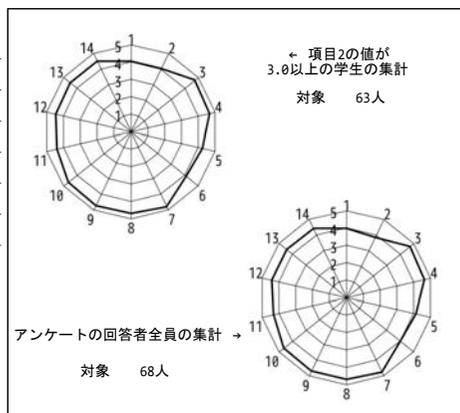
登録人数 109

回答数 68

回答率 62.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

アンケート結果を見ると、項目1-14、3-14の平均が共に全体の平均値とほぼ同一基準であり、おおよそその学生が授業の内容について理解できたと考えられる。ただ、授業の目標と到達に関するアンケート項目をみると、他の質問事項よりも低かったため今後の課題も残った。

② 担当科目に関する総合的な自己点検・評価

アンケート結果を見ると、半数以上の項目で全体の平均値を上回った。また、良い点として、「リアクションペーパーで応答していた」「スライドと配布資料を組み合わせると効果的であった」「新聞資料を通してアジア情勢をリアルに感じられた」「儒教文化圏の国の今まで知らなかったことを多く学べた」などの意見が寄せられた。他方、「2時間連続であるため映像資料があると大変嬉しい」「人数が多いこともあり私語が気になった」「(コロナ対策もあり)教室が非常に寒かった」といった授業方法、授業環境の点で問題が指摘された。学生から評価されたリアクションペーパーを取り入れた授業を継続するとともに、学生の興味関心をさらに引き出す工夫が求められることが明らかとなった。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

上述の評価に基づいて、映像資料の活用といった授業方法の導入、また私語への注意喚起などを通じた授業環境の改善を図っていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 インドネシア文化研究

授業コード 35D12-001

教員名 MANGGA, Stephanus

教員コード 103578

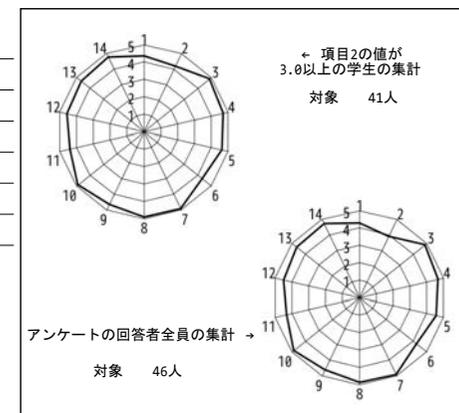
登録人数 63

回答数 46

回答率 73.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

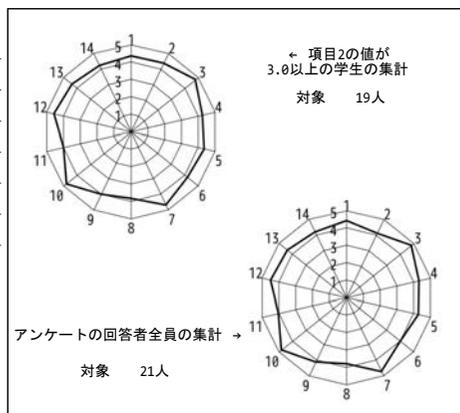


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①. 本授業の目標は異文化（インドネシア）を意識し、それに対するじゅうぶんな知識をもっていることであります。
- ②. 学生の評価を拝見した上で、本授業の目標はじゅうぶんに到達したと思います。これは「この授業の到達目標を理解することができましたか。」の回答平均値4.57のデータから見れば明らかになったと思います。それだけではなく、「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の回答平均値4.24のデータと「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」の回答平均値4.65のデータからも見れば、本授業の目標はじゅうぶんに到達したのではないかと思います。それに、項目番号15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」の回答から見れば、本授業の目標はじゅうぶんに到達したと思います。授業に参加するすべての学生を満足させるのは簡単ではありませんが、少なくとも授業の内容を理解しやすいように心がけたと思います。
- ③. 項目番号16「授業を受講して改善したほうがよいと感じた点や困ったことがあればできるだけ具体的に書いてください。」に対しての学生の回答は今後の授業の抱負と方針の参考にしたいと思います。特に、授業内容のスライドのためのメモする時間を十分に与えたいと思います。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 経済学A1 |
| 授業コード | 12C08-001 |
| 教員名 | 林 尚志 |
| 教員コード | 017897 |
| 登録人数 | 30 |
| 回答数 | 21 |
| 回答率 | 70.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、パン屋さんの売上げと利潤、原油価格の変動とその背景、コメの輸入自由化がもたらす影響など、身近な例を取り上げながら、「ミクロ経済学の基本的な考え方」に対する学生の理解を深めることを目標とした。そのために、講義中に提起される一連の疑問を列挙した“教材プリント”を事前に配布し、それら疑問への解答を探るという形で講義を進めた。

この目標の達成度については、各項目について一応の評価が得られるとともに、1) 経済学の基礎への理解が深まった、2) 「なぜ&どのように」が重視され、考えを深めやすかった、等のコメントがあり、まずまずの成果があった。その背景としては、あ) 学期の冒頭や各授業の最初に、授業のねらいや各回の流れをていねいに伝えたこと、イ) 理論的な説明と身近な具体例との対応に心がけたこと、等が挙げられる。

今後の課題としては、設問(9)と関連し、「教材レジメがシンプルでわかりやすかった」、「板書をする事で、まとめながら理解できた」等のコメントがある一方、「板書が多すぎる」、「板書が追い付かなくなることがあった」等のコメントも見られたため、「講義内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、板書内容を精選していきたい。また、設問(11)に関し、「原油価格と世界情勢」、「TPP交渉の進展」等を紹介したが、「関連文献や資料紹介」についても工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心がけていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 経済学B1 |
| 授業コード | 12C09-001 |
| 教員名 | 岸 智子 |
| 教員コード | 100346 |
| 登録人数 | 9 |
| 回答数 | 4 |
| 回答率 | 44.4% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

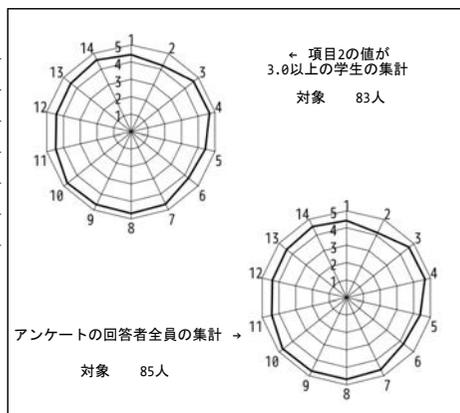
まず、授業評価よりも何よりも、この科目の受講者が年々減ってきていることを心配している。今回は受講者が9名で、授業評価を行った学生は4名にすぎない。受講者減少の理由は、授業が面白くないことにあるのか、学生の求める授業内容との相違にあるのか。受講者の意見よりも、受講しなかった学生の考えかたを知りたいような気がする。

問5、問9に低い評点をつけた学生がおり、今後の課題であると思った。特に、授業の到達点を示さなかったのは失敗だと思った。

自由記述欄に、練習問題のグループワークを評価すると書いた学生がいた。今後も練習問題はグループごとの課題とし、学生同士の議論を活性化させたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 経済学B2 |
| 授業コード | 12C09-002 |
| 教員名 | 都築 栄司 |
| 教員コード | 103265 |
| 登録人数 | 218 |
| 回答数 | 85 |
| 回答率 | 39.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

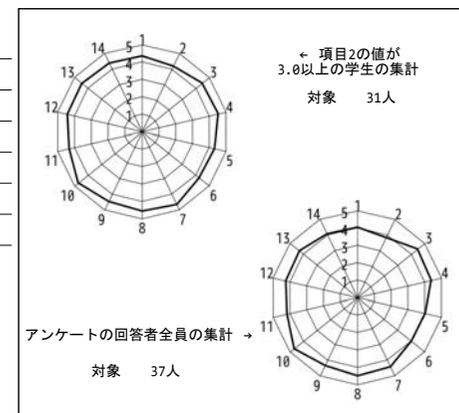


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
マクロ経済学的な統計指標の読み方と、IS-LMモデルを用いた財政・金融政策の効果について解説した。
経済学の初学者が含まれる入門科目なので、分かりやすさを重視し、図表を多用するなどしてスライドを作成・解説した。
目標はマクロ経済学の基本的な考え方を理解してもらうことであったが、それは概ね達成されたように思われる。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
講義資料を毎回、事前にWebClassにアップロードし、各自が理解の程度や速さに合わせて学習できるよう配慮した。
また、ほぼ毎回、理解度の確認のための練習問題に取り組んでもらった。
講義資料の構成や練習問題はいずれも好評ようである。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
時間の制約上、終盤は、練習問題を授業内で解いてもらい、解説する時間を設けることができなかった。
そうした時間を作るよう構成を工夫したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | プライバシーと倫理 |
| 授業コード | 13C03-001 |
| 教員名 | 阪本 俊生 |
| 教員コード | 017020 |
| 登録人数 | 55 |
| 回答数 | 37 |
| 回答率 | 67.3% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

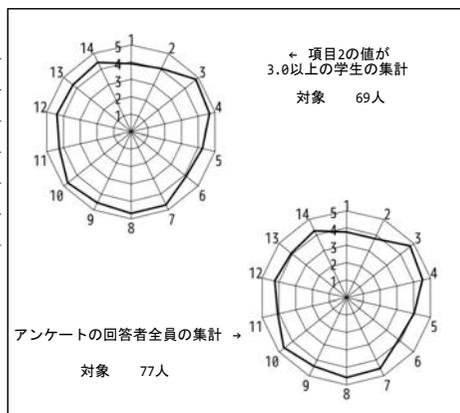


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 目標と到達の程度について
当初、授業目標として設定していた内容は、ほぼ計画通り遂行できたと考えている。
毎回のレジュメを作成し、それらを講義を通じて説明を行い、最終の部分まで完結できた。
- ② 数値データについては、全体としては4以上であり、まずまずの結果といえる。毎回の詳細なレジュメをオンラインで配布し、また定期的にミニレポートを実施し、翌週にそのポイントの説明、解説等を行うなど、できる限りの努力をしたつもりである。教室内は静粛で全員がまじめに授業を受けている様子であり、その結果が設問10の高さとして表れている。また、設問13の新たな知識の獲得や理解の深まりが、これまでよりは高くなっていったことは改善努力の結果といえるかもしれない。自由記述回答においても、ミニレポートに関する評価が高く、資料も豊富で理解が深まった、とても興味深かったといった声が寄せられた。
- ③ に関して、設定した授業目標は達成したつもりであるのだが、その割には設問6の評価があまり高くないのが気になる点である。また設問14の全体としての満足度もあまり高くなく、テーマそのものの性格にもよるのかもしれないが、何らかの改善ができないか検討の余地があると感じた。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 政治・経済の諸相4 |
| 授業コード | 13C06-004 |
| 教員名 | 梅垣 宏嗣 |
| 教員コード | 102397 |
| 登録人数 | 261 |
| 回答数 | 77 |
| 回答率 | 29.5% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

社会福祉形成史に対する理解を深めるべく、主に、(1) 19世紀イギリスにおける公的救済・慈善救済・相互扶助、(2) 世紀転換期イギリスにおけるリベラル・リフォームの展開とその背景、古典的自由主義から介入的自由主義への移行、(3) ティトマス・テーゼとそれに対する批判、(4) エスピン-アンデルセンによる福祉レジーム論とそれに対する批判について議論した。また、各回の授業の冒頭では、その回の授業で扱うテーマと関わる日本の現状を紹介し、成績評価の対象となるレポート課題では、授業で扱った社会福祉形成史をめぐる議論をもとに、今後、日本が採るべき経済政策・社会政策の方向性を問うた。

授業評価アンケートのデータ等に関しては、特に大きな問題はなかったものと考えられる。ただし、授業評価アンケートへの回答率の低さは、依然として解消できなかった。もとより、本科目をいわゆる「楽単」と考え、初回も含め、授業に一貫して参加しない学生も少なくなく、学士力の向上といった観点からも、授業への参加を促す働きかけが必要となる。また、本科目はハイブリッド形式（教室での授業をZoomでオンライン配信）で行ったが、教室で参加する学生よりもオンラインで参加する学生の方が多く（ただし、人数は不明だが、教室で参加しつつZoomに接続する学生もいた）、新型コロナ対策と関係なく、オンライン授業、ハイブリッド授業への需要は残っていくだろう。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|------------|
| 科目名 | 政治・経済の諸相11 |
| 授業コード | 13C06-011 |
| 教員名 | 丸山 雅章 |
| 教員コード | 104492 |
| 登録人数 | 8 |
| 回答数 | 3 |
| 回答率 | 37.5% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

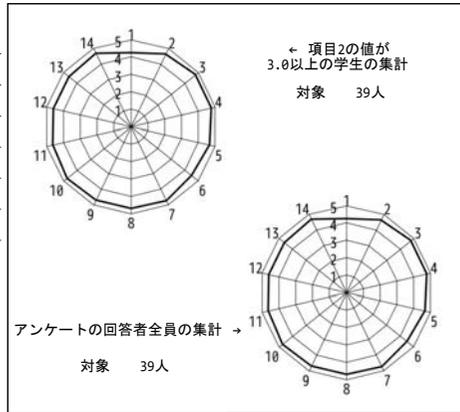
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
回答者が少なかったため、開講当初の目標（日本経済に関する主要なデータを理解できるようになる。日本経済の全体像を把握するために必要な基礎知識を習得している。）の正確な到達度はわからないが、定期試験の結果から見ると、半数以上の受講者において達成されているのではないかと推測される。
- ② 数値データ及び自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
講義の初期に受講生から、授業の内容が難しく、1回の授業で説明する分量が多い、ポイントがつかみにくいとの感想が聞かれたので、その後、昨年度の講義の内容・分量を見直すとともに、重要な点については強調したり、関連する項目の箇所でも繰り返し説明する等の工夫を行った。
今回の自由記述を見ると、「重要な点を繰り返し強調したり復習した」点が評価されている一方で、「内容が少し難しく量も多めと感じた」とあったので、さらに改善を行う余地はあると考えている。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後の授業では、内容や1回の授業で説明する分量をさらに見直すとともに、引き続きポイントを強調する、重要な点は繰り返すなどして、メリハリのきいた説明をするようところがけたい。また、日頃の日本経済に関するニュースや新聞記事をわかりやすく紹介するなど、受講生の授業への関心・学習意欲を高める工夫を行っていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|--------------|
| 科目名 | 経済英語2 |
| 授業コード | 40C01-002 |
| 教員名 | WOOD, Joseph |
| 教員コード | 103072 |
| 登録人数 | 44 |
| 回答数 | 39 |
| 回答率 | 88.6% |
| 休講回数 | 1回 |
| 補講回数 | 1回 |



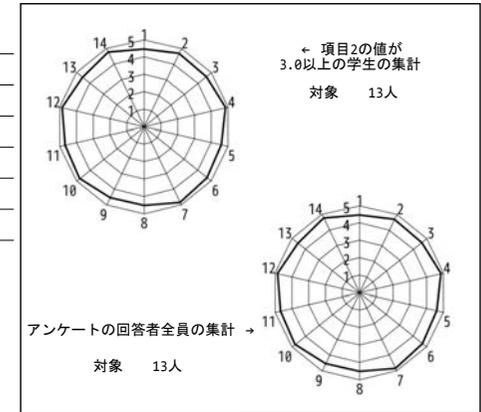
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am happy to learn that my students enjoyed the class and gave the course a good score. Based on the student feedback, I believe the course goals were met and achieved. This was a large class with students from different departments who had various levels of English. One of my goals as a teacher was to help the lower-level students work with and to learn from the high-level students in the class. Students reported in the feedback that they liked the group work so I feel this was a successful part of the class.

Based on my personal notes about the course along with the student evaluations, I will continue to improve how I teach the course. Next year I will use a different textbook and focus more on the history of economics and important people in the field. The textbook I used this year focused too heavily on male figures in economics, so I am currently working on my own materials for next year that will introduce more female economists to students and discuss their importance to the field.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 外書講読(政策)A |
| 授業コード | 40C04-001 |
| 教員名 | 焼田 党 |
| 教員コード | 102065 |
| 登録人数 | 31 |
| 回答数 | 13 |
| 回答率 | 41.9% |
| 休講回数 | 0回 |
| 補講回数 | 0回 |

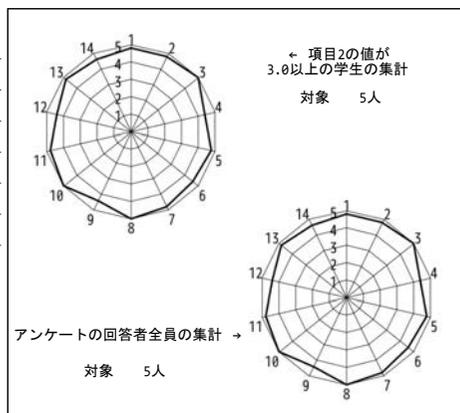


授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 特に目標は設定しておらず、外国（語）の文献、具体的には英文を履修学生と一緒に読んで議論できればよいと考えていた。新型コロナウイルスの影響もあり欠席が毎回そこそこあったが概して出席はよく、全員で読むことができたと考えている。今では翻訳機の機能がかなり良く、実際には英文を読むというより、外国の事情について翻訳機の日本語分を読むという方が当たっているという学生もあった。そこで、授業時間中に和訳をしてもらい、時々それに関する議論も試みたが、むしろ、レポートという形で要約をWEBCLASSに提出してもらった。一方通行ではあったが、内容について考えてもらえたかと思っている。内容は、CESifoのworking papersのヨーロッパの労働市場と技術革新に関する論文で、レポートを読む限りでは内容を理解し、それに対する考えを持ってくれたと考えている。② 内容が最新のロボット・AIの進展が労働市場（特にヨーロッパ）に与える影響に関する研究で、少しではあるが、補足資料（日本についてのデータ）や説明を加えたが、興味を持ってくれた学生もあったことがアンケートから分かった。ただ、日本に関して同様の数量分析を示すことができなかったため、残念ではあった。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読(国際)B
授業コード 40C07-001
教員名 太田代 幸雄
教員コード 100347
登録人数 10
回答数 5
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度について】

この科目は、経済学科2年次生以上向けの選択科目であり、日頃の日本語による国際経済学の講義に関わるアカデミックな文献を英語で理解するための基礎を身に付けることを目的として開講されている。今回の講義も、ここ数年の状況と同様に、学生同志の教室におけるソーシャル・ディスタンスのような状況も併せて、進度・聞こえやすさ・スライドの見易さ等に十分に注意しながら進めたつもりである。数値データで見ると、全設問の平均値4.73（設問3ー設問14の平均値4.72）ということで、いずれも学科科目の平均値を上回っており、充実した感想を持ってもらえたのかと多少安堵している。

【数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】

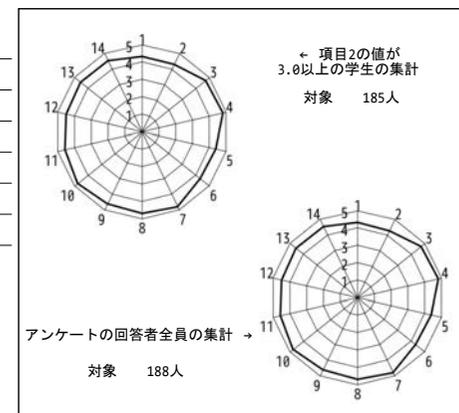
データとしては、回収率が全受講生中50.0%と、ここ数年で見て平均的な値であったことが挙げられる。ただし、依然として回収率が低いことは確かであるので、この点は改善して行かなくてはならないと考えている。また、アンケート結果としては、設問4, 9, 12で学科平均値を下回る結果となった。進行速度、質疑応答等、工夫することが課題であると考えている。

【次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など】

自由記述欄を見ると、解説が判り易かったという反応が多く、今回の講義で気を付けてきた点で効果が出てきたことが分かり、非常に安堵している。今後、さらに受講生の理解が進むよう、更なる修正を試みたいと考えている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済入門
授業コード 40D06-001
教員名 稲垣 一之
教員コード 104110
登録人数 424
回答数 188
回答率 44.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

シラバスに記載された内容は、全て予定通りに解説することが出来ました。そして、「説明が分かりやすかった」「内容を問題なく理解できた」といった趣旨のコメントが受講生から数多く寄せられました。これらのことから、入門レベルの基礎知識を習得するという最も重要な目標は十分に達成できたと判断されます。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

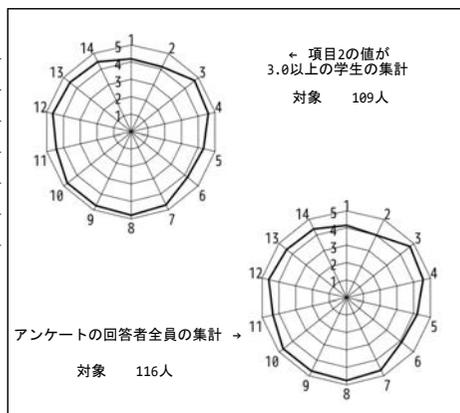
数値データは全体として学部平均値を上回っており、講義の評価は良好であったと考えられます。自由記述については、「説明が分かりやすい」「板書が綺麗で見やすい」といった好意的なコメントが大半を占めており、講義の進め方についても特に問題はなかったと判断されます。また、受講生が約420人という非常に大規模の講義となりましたが、講義中に受講生の私語を注意したのは1度のみ（2名の学生）であったため、大半の受講生は集中して講義に参加できていたと考えられます。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

特に問題なく講義を進めることが出来ました。この調子を次回以降も継続できるようにしたいと思います。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計論A
授業コード 40D13-001
教員名 宮崎 浩伸
教員コード 101892
登録人数 372
回答数 116
回答率 31.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

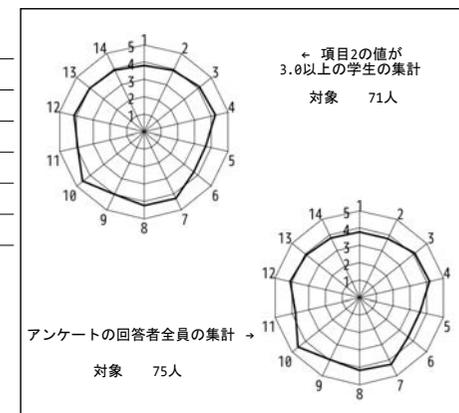
開講当初に設定していた目標に対する到達度としては、まずまずの結果であったと思うが、今回の授業評価結果は、設問3～14の平均値が4.52、設問1～14の平均値が4.45であり、前回のこの科目での結果と比べると、かなり改善したようである。実際、授業をしても、今年度は問題なく、気持ちよく行うことができ、満足している。

しかし、個々の授業評価項目では、設問5,6が低い値となっており、何らかの対策が必要である。前回の授業評価でもこの2点が低い値であったため、学生の学習意欲を引き出すため、新聞記事を活用して、授業内容が現実経済の動きとどのような点で関連しているかを理解してもらえるように努力したが、まだまだ改善できなかったようである。

自由記述欄では、「先生がゆっくり話をしてくださるため、聞き取りやすかった」、「講義資料が分かりやすく、先生の授業の進め方が適切だと感じました」、「先生がとても丁寧で、学習の意欲がわいた。資料がとても見やすくて気に入っている」、「わかりやすく丁寧に説明してくださっていた」等の肯定的な意見を多くもらえた上、授業の改善点等についての意見は特になかったので、引き続き、これまでのような授業運営で進めていきたいと考えている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ミクロ経済学特論
授業コード 40D21-001
教員名 上田 薫
教員コード 016832
登録人数 182
回答数 75
回答率 41.2%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



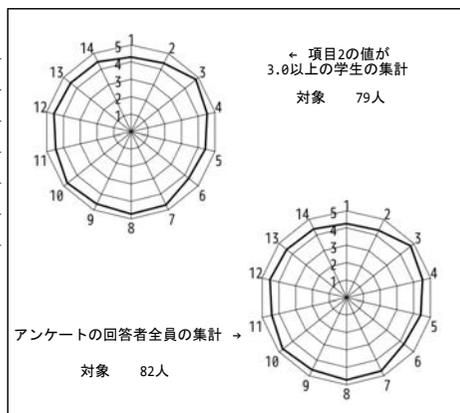
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はミクロ経済学の入門的内容から進んだ授業として、経済活動によって市場経済の外側で発生する外部効果について学び、これを分析するための経済理論の基本を理解し、現実の諸問題に適用できることを学修目標としている。消費者理論、企業理論、余剰分析の入門的知識の概説を行なったうえで、外部経済と外部不経済の各々について、一方的効果と相互的効果の順に説明していく理解していく構成である。今年度は外部不経済に関する政策介入ならびにコースの定理の意義に関し内容の改訂を行った。

設問4、7、10の平均値のいずれも4.2を超えていることから、授業の行い方について概ね問題はなかったと考える。設問9、11、14の平均値がいずれも4.0を下回ったことについては、やはりミクロ経済学の中級レベルの内容であることから、難しいと感じる学生が多くいたのではないかと推測される。こうした点は、設問5、設問6の数字が3.6弱という低い値になっていることから裏付けられる。第1回目の授業において講義の中で使用する数学の概要について説明しノートも配布しているのだが、まだ改善の余地があるようである。また設問13の平均値3.91から、外部性の問題の社会的重要性を学生に伝えるための一層の工夫の必要性を感じる。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域経済学B
授業コード 40D41-001
教員名 相浦 洋志
教員コード 103642
登録人数 211
回答数 82
回答率 38.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

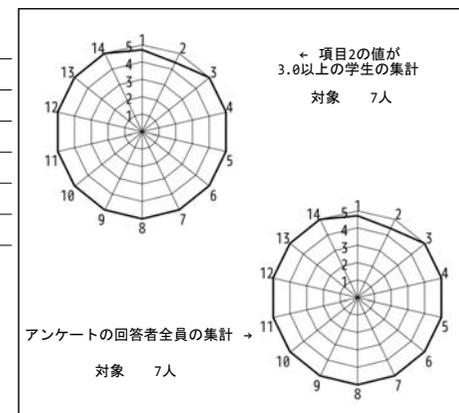


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は地域の経済政策や公共政策をあり方を明らかにする授業である。本授業における特色は、適切な経済政策は地域ごとに異なるため、グループワークを通じて様々な地域の経済政策を考えてもらう授業構成になっていることである。学生は主体的にグループワークに取り組んでいる様子が見られ、知識を応用する力が身についたのではと思われる。学生の授業評価においてもすべての項目において、学部平均を超えていて、グループワークを取り入れた授業に対し高評価を与えていると思われる。ただし、Q1に行った地域経済学AIに比べると、全体的に評価が落ちている。この理由として考えられるのは、Q1において、グループワークを欠席した人に対してもグループワーク課題が同じ評価になるのは不公平という意見があったため、今回はグループワークを一度でも欠席した場合は、グループワークではなく個別の課題にて代替したということが挙げられる。そのため、グループワークに参加したくてもできなかった学生もある程度いると思われ、グループワークの評価が若干下がってしまったのだと思われる。また、グループワークのやり方についてアンケートを取ったところ、「グループワークのメンバーによっては、今後自身に危害が及ぶ可能性があり不安がある。」というハラスメントへの不安を述べている回答があった。ゼミなどの少人数授業ではないので、学生間のトラブルに目を配るのも限界があり、対処は難しいがより良いグループワークのあり方を模索していきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相5
授業コード 13C06-005
教員名 余合 淳
教員コード 103585
登録人数 8
回答数 7
回答率 87.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

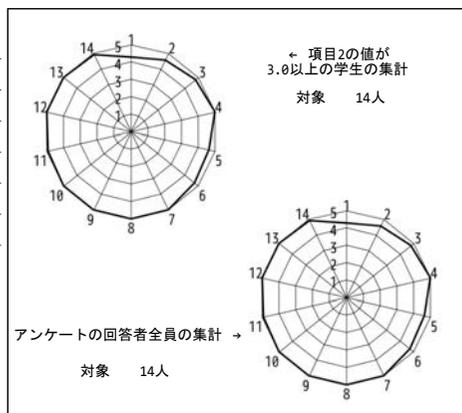


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
開講当初の目標は、人材マネジメントの様々な理論を体系的に理解すること、企業における実際の人材マネジメントの仕組みを知ること、そして人材マネジメントに関する理論と実際の差について理解することであった。
この目標は、学生からの評価や自由記述等を踏まえ、十分に到達していると思われる。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
各項目は、履修者数が少人数で実施できたことにより、すべての項目で高い評価を得ている。
また自由記述を確認しても、少人数で積極的なコミュニケーションを取りながらの進め方について特段大きな問題なく実施できたことが確認できる。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
この科目は次年度の開講予定はないが、少人数の講義の場合双方向のコミュニケーションを特に重視して講義を実施したいと考える。
一方で、大人数の講義については相対的に学生と直接コミュニケーションをとる機会が少ないことから、代替的な手段としてチャットツール等のコミュニケーションの手段を積極的に活用したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相13
授業コード 13C06-013
教員名 上野 正樹
教員コード 101365
登録人数 15
回答数 14
回答率 93.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

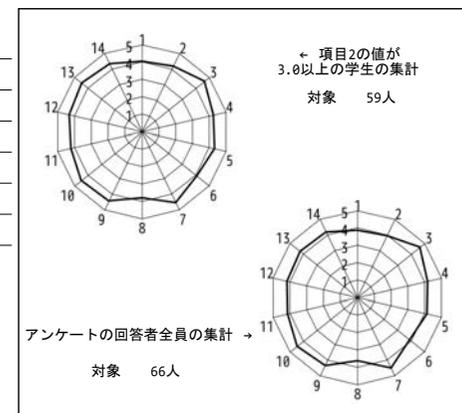


授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修者15人中14人がアンケートに回答している。項目1から14の平均は4.85、項目3から14の平均は4.92であった。設問13（この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか）は全員が5をつけており、開講当初に設定していた目標に到達したと考えることができる。自由記述の項目15（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）は9件の回答があった。それらによると、「少人数」、「ディスカッション」、「一方通行ではない」、「能動的に参加できる」、「意見を表明できる」などがあつた。自由記述の項目16と17で、授業の改善に関する指摘として、「もっとディスカッションを増やしても良い」、「ディスカッションをする授業である以上、みんなの顔を見ながら話ができる座席形態だったら良かった」という意見があつた。次クオーターでは、引き続き、少人数の演習形式でディスカッション主体としたい。また演習形式に適した座席形態をとれる教室を確保するようにしたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会システムと環境4
授業コード 13D06-004
教員名 長谷川 高則
教員コード 000162
登録人数 196
回答数 66
回答率 33.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標
この授業では、今後の住環境の在り方を検討するために、住宅政策の変遷を検証し住生活基本法について学習している。今年度も戦後から今日の住宅政策を概観し、自然災害・少子高齢社会に対応する住環境整備、子育て支援・省エネルギー住宅について考察し、持続可能な社会システムと住環境について検討した。
2. 目標達成度
今回はコロナの影響でハイブリッド授業となり、授業内容にもコロナに関する内容を追加して授業を行ったが、反省点としては授業範囲の拡大によって内容の整理が上手くいかなかった。最終課題のレポートは授業内容を反映してアフターコロナにおける住宅・住環境のあり方について各自まとめることができたと思う。
3. 授業評価
設問の項目1から14の平均は4.17であり、前回の値よりも僅かながら下ってしまった。設問3(授業の開始と終了の時間)の平均値が4.64、設問14(担当教員の授業に取り組む姿勢)の平均値が4.50と高評価であり、メッセージを利用した多くの質問もあった。設問1の低評価を改善するのは難題であるが、設問8(教員の声や音声機器の音)の平均値が3.62と低評価なので、音声の聞き取り調査をより正確に実施する必要性を強く感じた。
4. 今後の抱負
教育のデジタル化の可能性を追求し、ICT環境をもっと有効活用できるようにしたい。未来のテーマも取り入れ夢が持てるように授業内容を創意工夫し、これからの環境に優しい持続可能な社会システムについて考えられる授業にしていきたいと思っている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 情報を読む6 |
| 授業コード | 13E07-006 |
| 教員名 | 松井 宗也 |
| 教員コード | 102275 |
| 登録人数 | 5 |
| 回答数 | 2 |
| 回答率 | 40.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

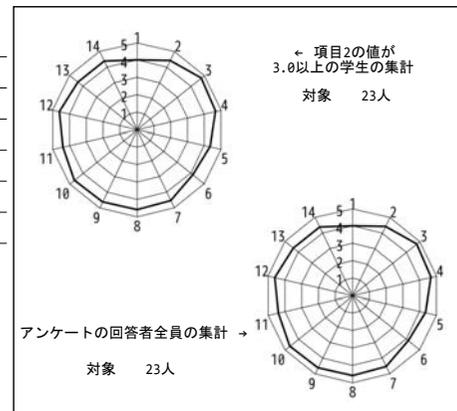
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は共通教育科目「情報を読む6」で線形代数の授業を行った。線形代数を「ベクトル空間と線形写像の視点から捉える」という目的で講義を行った。これは一般的な線形代数の講義の仕方と異なり、高校で学んだベクトルから出発して、抵抗なく一般のベクトル空間と線形写像の概念に到達できるように配慮したものである。到達目標は「1. 線形代数(行列)の基本的な演算ができる。2. ベクトル空間と線形写像の概念がよく分かる。」である。授業内容は大学1、2年次において標準的なもので、他の標準的な教科書と比較しても内容自体は変わらない。レポートの結果から判断すると、学生は完全に授業内容を消化しているとは言い難いが、授業目標の6割から7割程度は達成できたと感じている。未消化の内容は、それぞれの専門分野を学びつつその都度必要に応じて補ってあげれば良い。

以下では授業評価集計を踏まえ反省点を述べる。最初に履修人数自体が少なかった点を反省したい。Q2で理科系の学生が参加することを想定しその通りになったので(現にQ2の「情報を読む4」は15名程度理系の学生が参加した)、Q4でも同様の想定をした。しかし、実際に受講したのは文系の学生が多く、途中でついていけずに履修変更する学生が目立った。その結果、履修人数が数名となり授業評価アンケートの回答も2つのみであった。評価自体は、3点が2、3個で後は4、5点台で概ね良好であった。受講した学生は積極的に提出されたレポートもしっかりしていて良かった。次年度も理科系の学生を対象にした授業を行いたい。ただ反省すべきは履修変更者の多さである。次年度は、理系のレベルの授業をすることをシラバスにより分かりやすく明記する、あるいは授業前にアナウンスするなどして、履修変更者をなるべく減らしたい。以上である。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 数学II3 |
| 授業コード | 42B04-003 |
| 教員名 | 池田 亮一 |
| 教員コード | 101880 |
| 登録人数 | 85 |
| 回答数 | 23 |
| 回答率 | 27.1% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

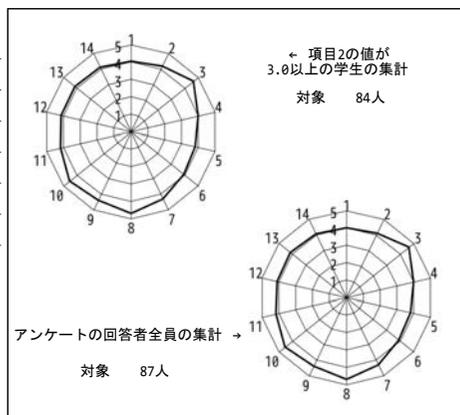


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標は、(1) 初等的な関数の導関数を計算したことがある。(2) 導関数を使って関数の増減を解析したことがある。(3) 初等的な関数の積分計算をしたことがある。(4) 2変数関数の増減を解析したことがある。の4点であったが、試験の結果を見る限りは概ね目標が達成されたと認識している。昨年度の本講義の評価の平均は4を切っていたが、今回は4を大きく上回ることができた。授業の内容や評価等全く変えていないにも関わらず学生からの評価が高かったのは、今年度の学生さんの学ぶ意欲と能力の高さだったのではないかと類推している。昨年度は「内容が難しかった」と例年見られなかったコメントがいくつか見られ、コロナ禍ということもあって高校で数学の学習を十分にできなかった学生が多かったのではないかと考えていたが、今年度はそのようなコメントはなかったため、その予想は正しかったのだろう。今年度は逆に否定的なコメントが皆無であり、全てレジュメの詳しさや授業の分かりやすさを評価してもらい、率直に非常に喜ばしく思っている。気になったことは、出席率が例年と比較してはるかに低かったため、来年度は授業運営や評価方法を工夫することで、より多くの方が授業に参加するようにしたいと考える。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 会計原理II1 |
| 授業コード | 42C04-001 |
| 教員名 | 窪田 祐一 |
| 教員コード | 102901 |
| 登録人数 | 137 |
| 回答数 | 87 |
| 回答率 | 63.5% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

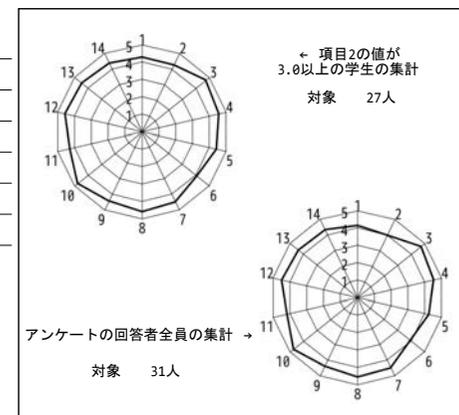


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 本授業の開講当初に設定していた目標は、(1)期間損益計算について説明できるようになること、(2)貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の基礎的内容を説明できるようになること、(3)ビジネスにおける会計の重要性と必要性についての理解の3点であった。この授業は、会計原理 I から知識を積み重ねる授業となっており、会計原理 I の学習不足から、本授業においても一部の学生が目標達成に至っていないものと推測される。
- ② 本授業は、選択必修ではあるが自動登録科目であることから、一部興味を抱かないものの、強いられて受講している学生がいる。問1の興味が学部平均より低く(4.02)、問2の予習復習も学部平均より低い(4.09)。そのため、問5の到達目標を尋ねている質問でも、開講主体別集計の平均と比べて低く、3.82となっている。会計原理 I の復習などを授業に加えたものの、一部の学生は、到達できていないと自覚しているようである。自由記述の回答(問15、問16)からも実力がついたと感じた学生もおり、授業の満足度(問14)は、4以上の評価であることから概ね受講生は満足しているものと捉えている。
- ③ 改善点としては、会計原理 I での改善が必要であるが、加えて学生たちに予習復習を徹底させたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 会計原理II2 |
| 授業コード | 42C04-002 |
| 教員名 | 安田 忍 |
| 教員コード | 101561 |
| 登録人数 | 129 |
| 回答数 | 31 |
| 回答率 | 24.0% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 1 回 |

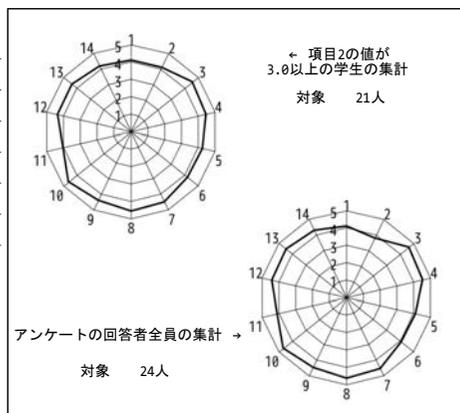


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この授業の開講当初の到達目標は次の3点である。1. 決算整理手続きについて説明できるようになる。2. 資本会計の内容について説明できるようになる。3. 貸借対照表、損益計算書の構造について説明できるようになる。
- 今回、アンケート調査の結果は、回答数31名とあまり多くの協力を得られなかったが、項目3から14の平均 4.42であり、まずまずの結果であった。しかし、2つの項目が3点台であった(項目2、3.97、項目6、3.94)。毎回、課題を授業時間中にWebClassに提出し、その回の授業内容の復習および理解の確認を行い、また授業時間以外にも練習問題を解くよう促しているが、練習問題を多くするなど、授業時間外での主体的取り組みを工夫しないといけない。定期試験の結果は全体的にみると必ずしも悪くはない。ほぼ全員が履修する科目であるが、科目の性質上日常的な積み重ねが大事であり、興味関心の程度が主体的取り組みに関係しているかもしれない。ただし、項目13、14は4.39、4.32なので、授業目標は達成していると考えられる。自由記述(項15)には10名の記載があり、テキストに沿って進められ、適度なスピードであったこと、説明が分かりやすかったこと、課題によって理解度が分かったことなど好意的意見が寄せられた。他の多くの学生にもこのような感想を持ってもらえるよう、次年度も分かりやすい授業を心掛けたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 流通論B
授業コード 42C22-001
教員名 湯本 祐司
教員コード 017533
登録人数 143
回答数 24
回答率 16.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

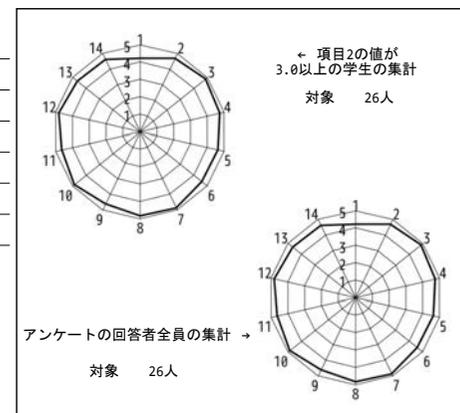


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は小売業者と卸売業者の行動の特徴および小売各業態の革新性とその変容を理解することを主な到達目標としている。経営学部の選択科目(コア科目)であり、履修者143名のほとんどは経営学部の2・3年次生である。履修者数は昨年度(139名)とほぼ同じである。宿題レポートおよび定期試験の解答をみるかぎり、定期試験を受験した学生のおよそ75%は目標を達成している。授業評価には24名が回答し、項目1から14の平均と項目3から14の平均はそれぞれ4.35と4.41で昨年度の値と比較して約0.3ポイント上昇している。学生の評価の高かった設問は、3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」(4.63)、8「授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」(4.63)、10「授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされてきましたか」(4.67)である。項目8は昨年度改善点に挙げていた項目であり、約0.5ポイント改善されている。良かった点として「説明がわかりやすい」「レポートの期間が十分にとられていた」などのコメントがあった。次年度の改善点としては、出席者の数のわりには授業評価に回答してくれる人数が少ないので回答率を高めるために履修者にもっと声かけしていく。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織心理学B
授業コード 42C26-001
教員名 中尾 陽子
教員コード 064188
登録人数 95
回答数 26
回答率 27.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、到達目標を「組織における『個人』を対象とした組織心理学の研究領域に関して、各分野の概要を理解している/基礎的な事項について説明できる/生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができる」と設定し、進めてきました。評価の結果で大変興味深かったことは、質問項目1(授業履修前の興味関心)の評定値が4.23だったものが、授業後の満足度が4.62へと変化していたことです。試験の記述内容を拝見しても、授業の目標へそれぞれの取り組み方で到達していらっしゃる様子が伝わり、とても安堵しました。

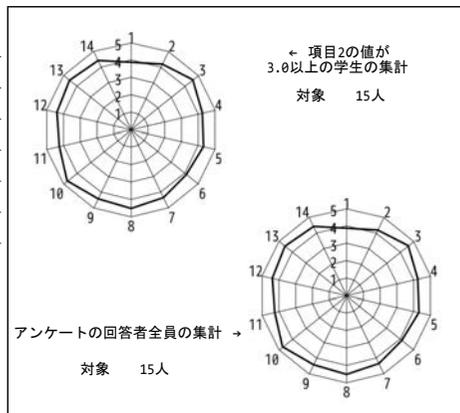
また、昨年の授業評価では、公認心理師を目指す学生さん達から「内容が物足りなかった」とのお声をいただきましたので、毎回の授業到達目標にキーワードを提示し、試験対策ポイントとなりそうな内容をより強調して伝えることにも取り組みました。このことに対する直接的なFBはいただいていませんが、ネガティブなお声はありませんでしたので、今後も意識して実施したいと思います。

この科目の受講生は、経営学部と心理人間学科の学生さんが大半で、心理学の前提知識が全く異なっています。これまでの学修状況も学習意欲も様々であり、グループワークへの取り組み方やスキルにも随分差がありますが、そういう中だからこそ、お互いから様々な学び合う場が生まれているとも感じています。次年度も、このような状況にはあまり変わりがないと思われますので、引き続き、この授業の特徴を早い段階できちんと理解していただくこと、授業へのコミットメントが高まるよう事前課題の更なる徹底に取り組んでいきたいと思えます。

引き続き、みなさまのご協力をお願いいたします。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営環境論B
 授業コード 42E06-001
 教員名 薫 祥哲
 教員コード 018168
 登録人数 29
 回答数 15
 回答率 51.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



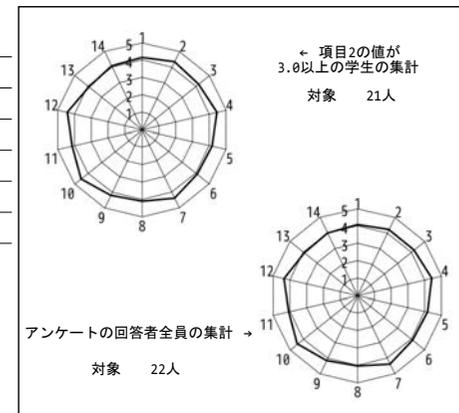
授業評価結果を踏まえた点検・評価

再生可能資源である漁業資源の最適利用や、資源リサイクルに関する課税・補助金政策がどのような影響を及ぼすのかについて、ミクロ経済分析アプローチに基づく講義を行った。また、米国における2大環境法規制である「大気浄化法」と「水質浄化法」を取り上げ、環境改善のための法規制がどのようなプロセスで進められ、どのような問題点があるのかについても解説した。講義レジュメや関連資料をサーバにアップし、毎回、これら資料をスクリーンに映しながら講義を行った。学期中には練習問題課題を2回出し、そのレポートが提出された直後に授業で解答を解説した。

全体としての授業満足度を尋ねる設問14の平均値が4.40と高く、この授業評価は十分満足できる結果であったと言える。自由記述欄へのコメントでも、「しっかりと難しいため、授業を受けている感がある」「練習問題が設けられていたことで、理解を深めることができた」といった意見があり、授業運営がうまく行ったと受け止めている。一方、「プロジェクターの文字が見づらい時がある」とのコメントがあったので、今後、スクリーンへの教材投影に注意したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 グローバル・ビジネス論B
 授業コード 42E12-001
 教員名 KHONDAKER, Rahman M.
 教員コード 100361
 登録人数 50
 回答数 22
 回答率 44.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

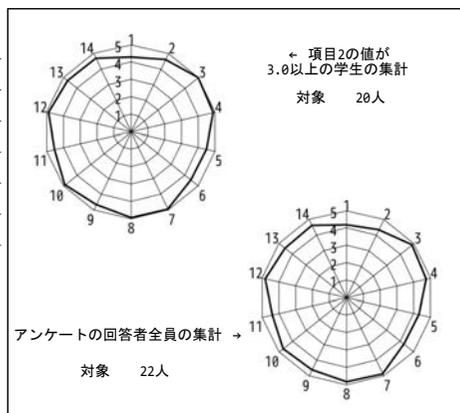
本授業の目的は、ビジネスのグローバル化が進む中、アジア諸国における人的資源管理の国際比較学習である。履修者は、アジアにおける人的資源管理の基礎と実用的方法を学び、人的資源を活用するための必要な手法、戦略や視野を身に付け、日本の人的資源管理と比較研究を出来るようになる。授業は、テキスト・講義レジュメ・関連資料などを配布し、休講・補講なしで、シラバスを終了した。シラバスの目的を全面的に達成したと思っている。

設問1から設問2「授業への参加について」に関しては、2022年度第4クォーター全科目と経営学部の42001-001~42H04-999番台科目群とを比較すると、ほぼ同じ評価を受けている。設問3から設問7「授業全体について」の平均値4.66、4.42、4.15、4.09、4.49 に対して、本科目の評価は、4.18、4.45、4.18、4.09、4.36となっている。設問8から設問12「授業の運営について」では平均値4.65、4.44、4.65、4.29、4.43 に対して、本科目は4.05、4.14、4.45、4.09、4.36となっている。設問13から設問14「全体的な評価」では平均値4.34、4.31 に対して、本科目は3.95、4.00となっている。昨年と比較すると全ての設問の平均値がほぼ同じである。

また、設問15から18「自由記述」では、「レジュメが素晴らしい、レジュメをしっかりと作ってくれていたのでよく復習できた、丁寧に説明してもらえた、毎回授業ノートを作成してくださるので限られた時間の中でより多くの知識を身につけられること、ノートがわかりやすかった、先生の日本語を伝えようとする努力、先生の説明がわかりやすい、学んだことを課題でさらに理解を深めることができた、教科書に書いてあること以外の+αの内容(先生の体験に基づく話など)が充実していた点、教授による講義に向けた前向きな姿勢」、などがあった。設問18「授業環境(インターネット接続、資料の見やすさなど)」では、コメントはあり無かった。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 オペレーションズ・リサーチA
 授業コード 42E15-001
 教員名 奥田 隆明
 教員コード 102600
 登録人数 48
 回答数 22
 回答率 45.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

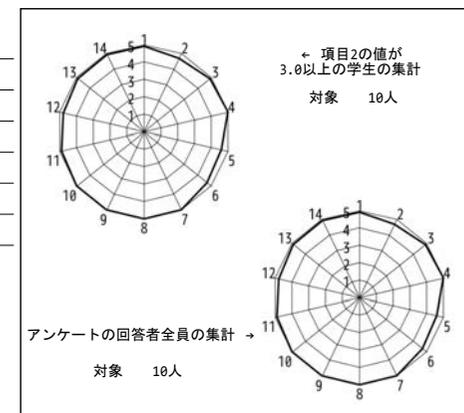
地域産業連関分析やシナリオ・プランニングを活用しながら、将来のビジネス展開の可能性を考えることができることを到達目標とした。この目標に対して受講生の45%が「力がついた」、41%が「どちらかと言えば力がついた」と回答している。毎回、授業の後半には演習問題を行った。こうした演習を通して授業内容を具体的に理解することができたのではないかと考えている。

実際、設問2：主体的な学習は平均4.32（学部平均4.12）、設問7：教員の姿勢は平均4.86（学部平均4.60）、設問12：質問・相談は平均4.82（学部平均4.46）、設問13：知識・理解は平均4.55（学部平均4.39）となり、学部平均と比較しても高い値を示している。また、設問14：総合的な満足度についても、平均4.59（学部平均4.33）と比較的高い値を示している。

自由回答欄を見ると、「パソコンは苦手だったが、丁寧に教えてもらった」、「気軽に質問ができた」などの意見が見られた。毎回、演習の時間には、分からない点について個別に質問を受け付けた。特に、EXCELの操作については個人差が大きいため、分からない学生には基本に立ち戻って教えることが重要である。一人も取り残さない授業を実現するためには、丁寧な授業運営が必要であることは間違いない。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IVライティング1
 授業コード 42G08-001
 教員名 BIERI, Thomas
 教員コード 102517
 登録人数 13
 回答数 10
 回答率 76.9%
 休講回数 2 回
 補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Each questionnaire item average score was 4.6 (one item) or higher, with 5 items at 5.0 and another 5 items 4.9, and all items were above average for university, departmental, and class size categories.

Students made several positive comments, including:

"They made it possible to study for quizzes and vocabulary tests using an app, so I'm glad I can study anywhere with just a smartphone."
 "In this class, I can make enough time to study because the homework which teacher give me was helpful for me. It makes my English skills better."

- ・ Lesson starts on time
- ・ Progress in class is smooth and preparation is solid without stopping in the middle
- ・ It was good to have the opportunity to look back on the contents of the class many times later (such as writing a report)."

The only two comments for improvement both related to class cancellation notification and make-up class scheduling. I do make every effort to notify students well in advance and through several channels, but unfortunately once I was too ill in the morning and unable to give more than a couple of hours notice.

I will continue to strive to improve this and all my courses.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|----------------------------|
| 科目名 | Corporate Finance B<国際科目群> |
| 授業コード | 42G16-901 |
| 教員名 | BREMER, Marc |
| 教員コード | 017913 |
| 登録人数 | 7 |
| 回答数 | 4 |
| 回答率 | 57.1% |
| 休講回数 | 0回 |
| 補講回数 | 0回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is an advanced course that concentrates on several major issues in modern corporate finance. The focus is on making good financial decisions with regards to capital budgeting, dividend policy, debt policy and mergers. The course is offered in English. It uses a book written for the class along with specially selected materials from financial newspapers and magazines.

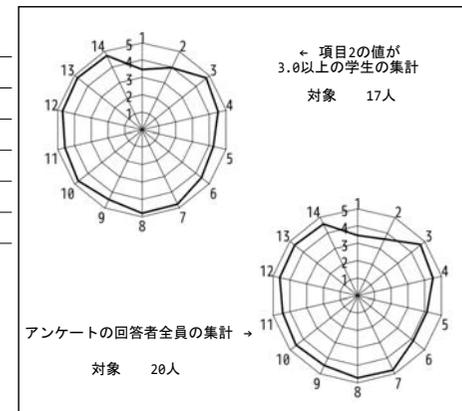
The objectives of the course were achieved. Students refined their knowledge of the net present value method to make appropriate capital budgeting decisions. The learned how dividend policy and investment policy are related, and in particular now understand the basic concepts underlying economic value added. Students also learned about capital structure and the valuation of initial public offerings.

The evaluation of the class by students was good. All students felt that the course was satisfying (question 14). All students believe that they acquired new knowledge (question 13). These results compare favorably to the Nanzan University averages.

The students seem to have enjoyed some of the advanced materials. These include the Saudi Aramco initial public offering and the analysis of WeWork. The course also learned about Japan's code of corporate governance. However, the students found the code difficult to understand. I plan to discuss the governance code with concrete examples in future courses.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 日本国憲法1 |
| 授業コード | 12C03-001 |
| 教員名 | 菅原 真 |
| 教員コード | 102064 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 20 |
| 回答率 | 83.3% |
| 休講回数 | 0回 |
| 補講回数 | 0回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

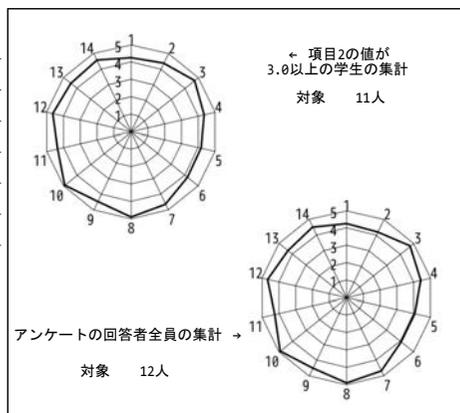
① 開講当初に設定していた目標4点については、履修者アンケートおよび定期試験の結果を見る限り、概ね到達したと判断できる。歴史と比較の観点を大切にしながら、今問題となっている憲法や人権に関するテーマについて、学生たちが憲法規範や憲法解釈の意味内容をある程度理解してくれたことを嬉しく思う。

② 数値データの項目1~14は4.38、項目3~14は4.52であり、まずまずの結果ではなかったか考える。自由記述欄を見ると、この授業の評価点としては、(i) 日本国憲法について幅広いテーマを扱い、説明が丁寧でわかりやすいこと、(ii) 配布資料がわかりやすい内容であったこと、(iii) 映像資料を用いてわかりやすかったこと、(iv) 授業中に学生への質問タイムを設け、自身が意見を述べたり、見解の異なる人の意見を聞くことができ、そこで扱われた問題についてより深く考えるきっかけになったこと、が挙げられていた。また改善点としては、(i) 授業の進度が早いこと、(ii) 教科書をもっと詳しく説明して欲しいこと、が挙げられていた。履修学生が意見表明をおこない、他者の意見も聞いてさらに深く考えていこうと望んでいることがよくわかり、その点は良かった。

③ 来年度の授業にあたっては、履修学生から出された意見を踏まえ、限られた授業時間の中であっても、可能な限り、毎回の論点について自己の見解を表明し、また自身と異なる見解があることも認識し、それぞれの見解の根拠や理由をしっかりと説明できるようにフォローし、活気ある授業にしていきたいと考える。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民法B
授業コード 40F05-001
教員名 大原 寛史
教員コード 104297
登録人数 42
回答数 12
回答率 28.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

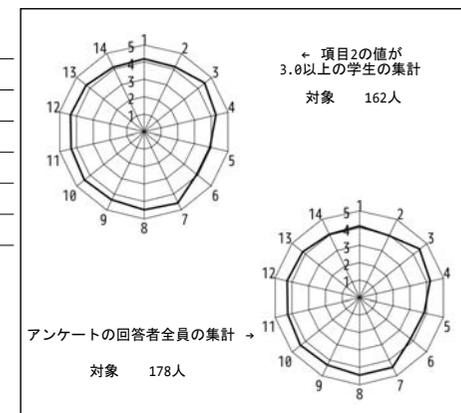


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートに協力してくれた受講生に心より御礼申し上げたい。
① 開講当初に設定した目標の到達程度について、担当者としてはおおむね達成することができたと考えている。法学を専門としない受講生が民法の基礎知識を習得するという目標のもと、講義において、多少のスケジュールの調整はしたものの、広く民法のルールや考え方をカバーすることができた。講義後に理解度確認のための小テストを実施し、受講生の復習を促した結果、定期試験における不可の割合は決して多くはなかった。
各質問項目の数値データおよび自由記述の内容をふまえると、② 一定程度は受講生に評価されたと考えている。この点については、今後の講義でも継続していきたいと考えている。もっとも、質問項目5および6の数値が他の項目に比べてやや低めである。理由はいくつか考えられるが、講義内容のレベルがやや高かったように感じられたかもしれない。③ 講義内容のレベルを下げるのではなく、講義資料および講義中の説明をより工夫することで対処したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑法総論A
授業コード 44A10-001
教員名 水留 正流
教員コード 101566
登録人数 305
回答数 178
回答率 58.4%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

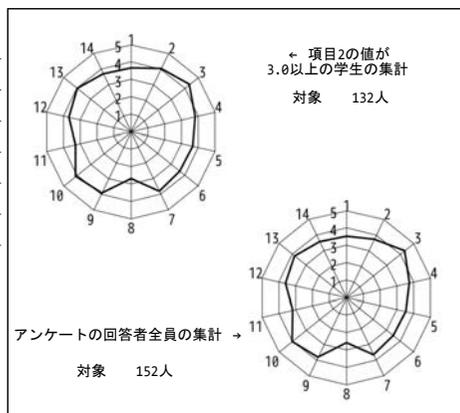


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 今年度から、1年次向け自動登録科目は刑法総論Aのみとなった。カリキュラムの都合とはいえ、本来は分割困難な科目内容を完全に二つに分離して、1年生全員に伝えるべき内容とそうではない内容とを整理し、今回の授業では前者を教授することに努めることとなった。
2. 全体評価が4点超と、一定の評価は得たものと思われる。過去の2コマ連続授業の経験を踏まえて、コマの間に入る休憩時間を厳格に守ることを意識したところ、授業構成の適切さにかかる設問4が4.22に改善した。また、スライド及び音声を載せないZOOMによってレジュメのどこを扱っているかを視覚化したところ、教材の効果的使用にかかる設問9が4.30に改善した。さらに、感染症蔓延状況を考慮しつつも授業内で学生同士で話し合わせる時間を復活させたところ、自由記述ではこれを評価する意見が多かった。
他方、回収率は58%と、学部及び大規模授業の平均値は上回ったものの、例年と比べると低下している。これとの関連は不明ながら、定期試験の採点実感としては、今回の学生の評価ほどの実感を講師自身は得ることができなかった。
3. 来年度は刑法総論Bを担当するが、前述の通り、AとBの両方をあわせて初めて刑法総論は完結する。学生がこの趣旨を理解して、2年次に学生が刑法総論Bの履修を選択するかということが、この授業の本当の「学生による授業評価」なのだ理解している。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 物権法
授業コード 44A18-001
教員名 副田 隆重
教員コード 045880
登録人数 318
回答数 152
回答率 47.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

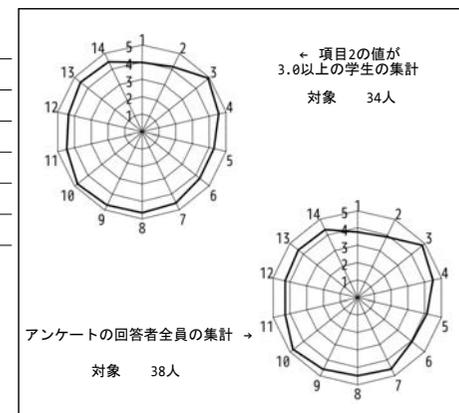


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目全体の満足度を4点台に回復させることをここ2年間の目標として取り組んだが、残念ながら達成できず、逆に昨年よりも約0.2ポイント下げて3.6台と不本意なものとなった。おそらく主な原因は、例年は4点を上回る評価である項目8（教員の声や音声機器の音はよく聞き取れたか）について、マイクの音声が小さく十分でなかったとの指摘が自由意見欄において相次いだ。項目8の評価自体も初めての2点台の2.59と最低であった。毎回あるいは適宜に確認していれば、ボリューム調整でき改善が可能であったのにうっかりしていて申し訳なかった。これに対して、高い評価を得られたのは、開始と終了の時間の順守（項目3の4.32）および授業の妨げとなる行為への適切な対処（項目11の4.01）の2項目である。ただ、自由意見欄の記載からは、例年のことではあるが、レジメが丁寧でわかりやすい、講義の際に関係図が多用され、理解しやすかった等が指摘されていた。もっとも、対面授業となった今年は、板書の字が小さいとの声も一部にあった。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際私法B
授業コード 44B30-001
教員名 青木 清
教員コード 017855
登録人数 106
回答数 38
回答率 35.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

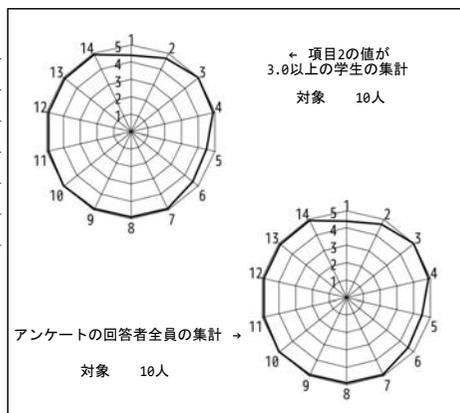
今回は、項目1から14の平均が4.35、項目3から14の平均が4.43という値で示され、科目担当者としては、安心をしている。ほぼ昨年度と同科目と同じレベルである。回答者数が38名で、これも昨年並みであるが、今回は履修登録が106名ということから、回答率はやや改善していると思われる。とはいえ、Webで回答するようになってからは、30名から40名ほどとなっており、低め安定といった形になっている。

回答項目の中、到達目標に関する質問については、項目5が4.16、項目6が4.05となっており、他項目に比べやや厳しい数字になっている。到達目標の理解が容易ではないようである。準拠法の決定ルールや国際裁判管轄の構造を理解することを、毎年、この科目の到達目標に上げているのだが、科目の特徴が、学生諸君には難しいようである。

自由記述欄では、説明のわかりやすさに言及してくれるものが多い。その点は、まさに狙いが実現しているところである。来年度が、私の講義最終年度である。このペースで進めていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 倒産法
授業コード 44C22-001
教員名 小原 将照
教員コード 102897
登録人数 22
回答数 10
回答率 45.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

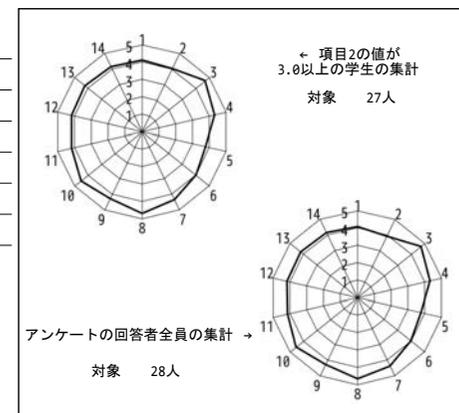


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 設定していた到達目標については、おおむね達成できたと考えている。本年度は、受講者数が法律学科科目としては極めて少ないこともあって、ゼミのような雰囲気での授業が進んでいた。そのあたりは、少人数教育の長所が活かされたと考えられるが、あくまでも偶然（背面科目との関係）の産物でしかないと考える。
- ② 字が読めない、授業スピードが少し速い、というのは、すべての実施科目で必ず指摘されている点である。ただし、これについては、いくつかの別の問題をはらんでいる。しっかり勉強している学生からすると、特に問題が無いスピードであるが、理解に時間がかかる学生やノートテイクに時間がかかる学生からすると、やや速い速度と言われても致し方ない。問題は、それにどう対処するのか、という点である。個人的見解としては、遅い学生に授業スピードを合わせるよりも、当該学生に十分な予習をしてから授業に臨む姿勢にあらためて欲しいと考えている。
- ③ ここ数年、アクティブラーニング型を専門科目で取り入れてきた。評価方法についても複数を組み合わせる方式を採ったが、年を経るにつれ、受講意欲がある学生しか履修しない状況が続くこととなった。この状況が良いか悪いかは判断が分かれるところであるが、次年度は、評価項目を単純化することで、状況が変化するかを考察したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会社法（ガバナンス）
授業コード 44F05-001
教員名 佐藤 勤
教員コード 101599
登録人数 123
回答数 28
回答率 22.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

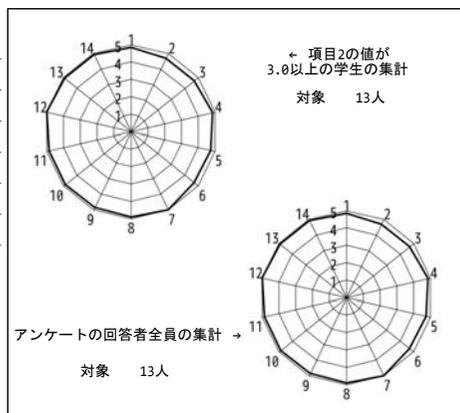


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 設問13の評点から客観的に判断すると、開講当初に設定した目標については約85%の学生は達成できたのではないかと考えている。ただし、設問5・6の評点をみると、その実感がないように思われ、この点が次回以降の課題であると認識している。この点については、2年前から復習に役立ててもらえるよう、自宅で活用できる教材を提示している。また、今年度からは、授業の前日までに、次回の講義範囲を明示し、予習のための情報を提供している。この施策については、自由記述欄に記載があり、一定の効果は生じていると思われる。
- 上記の課題の根本原因は、設問1・2の評点低さから、そもそも授業内容に興味をもっていないことや、そのため予復習を行っていないことにあるのではないと思われる。設問1・2の評点の低さは、法学部全体の課題でもあり、学部全体で取り組む必要があると思われる。
- 以上の結果から、次年度以降も、今年度実施している施策を着実に実施し続けるとともに、本授業の内容についての学生の理解度向上に向け、魅力ある授業ができるよう、努力したいと考えている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(総合)2
授業コード 11L12-002
教員名 山口 和代
教員コード 049726
登録人数 16
回答数 13
回答率 81.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

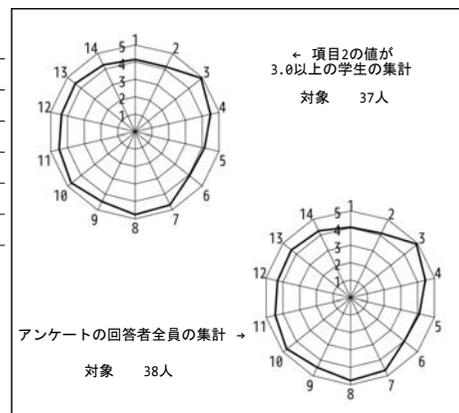


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では社会的トピックに関する基礎的な知識を学びながら、学期中に2回発表し、発表内容をまとめてレポートを書くという作業を行い、能動的学習により知識と技能を活用し身に着けることを目的とした作業を行う宿題を多く課した。学生による授業評価の設問への回答結果から授業運営および全体的な評価に関する項目を見ると、4.69から5.00という結果であった。授業への興味についての項目が4.85、到達目標への理解についての項目が4.77、授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかという項目が4.69であったことから、学生たちが授業の目標を理解し、積極的に授業に取り組んだことが伺われる。また、教員の授業への取り組み方についてと質問の機会、課題等の事前・事後指導についてが5.00で、授業以外の時間での準備や対応は大変であったが、学生たちが適切に受け止めて行動してくれたことがうかがわれた。授業で新しい知識を得たかについてや、授業への満足度についても4.92であったことから、授業目標をおおむね達成できたのではと考える。自由記述欄（授業の評価）への記入は3件あったが、いずれも肯定的なもので、「発表とレポートで日本語能力が成長した」との記述もあり、力がついてきたことを実感できた学生もいたようである。今後も学生の様子を見ながらモチベーションを下げることなく取り組んでいけるようにしたいと思う。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文学A2
授業コード 12A03-002
教員名 原田 直枝
教員コード 018754
登録人数 87
回答数 38
回答率 43.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

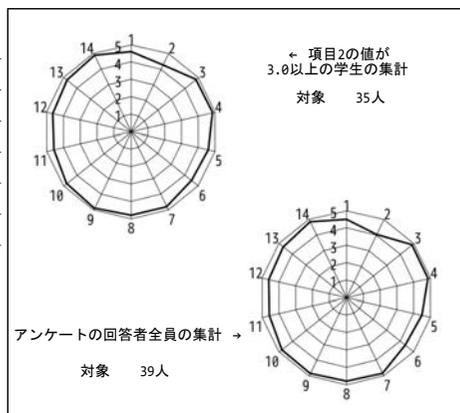


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 授業に当たって到達目標の1つとして「文学というのは何か？人間の生活とどう関わるのか？」という問いについて、自分なりの答えや説明の糸口をつかんでいる。」を設定したが、設問15の自由記述欄に「現代にも通じる考え方や、物事の見え方、陥りがちな悩みなどと結び付けて授業を進めていたため、内容に関心を持つことができた。」「SNSと付き合う上で必要なことが学べた」などあることから、単なる文献理解にとどまるのではなく、授業内容を、現代の実際生活面への応用につながるような効果があったと受けとめている。
- ② 設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の数値が4.00とあまり高くないのは、受講生たちの自己評価が控えめであるように見える。毎回授業後のリアクションペーパーでは、担当者が予想していた以上に、都度の課題に対して個性的、真摯な考察が示されていた。
- ③ 設問16の自由記述欄に授業で提示する資料（パワーポイント）について「色を使いすぎ」など幾つかコメントが出ている。使い始めた頃に比べると担当者として工夫もし、他のよい例を見習って改良しながら用いているが、まだまだという自覚がある。受講生が見やすい、わかりやすいものをめざして更なる改善に取り組んでいきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相4
授業コード 13C04-004
教員名 久村 恵子
教員コード 100026
登録人数 94
回答数 39
回答率 41.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

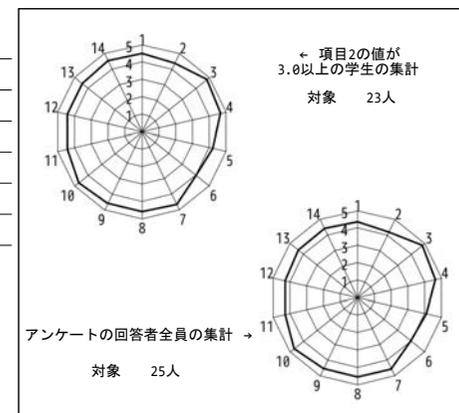
本授業は、「リーダーシップ」という概念に焦点を当て、前半ではリーダーシップに関する一連の研究の流れを理解し、各時代の社会背景についても理解を深める。そして後半では、変わりゆく現代社会における新たなリーダーシップのあり方を通じて今後の課題や問題についても紹介し、理解を深めることを目的とし実施してきた。

今回の結果では、設問3～設問14の平均値は4.71（前回値4.64）、全体的評価（設問1～設問18）の平均値も4.65（前回値4.58）であり、全体および学際科目の平均値を踏まえても肯定的な評価が得られたといえる。自由記述欄では全体として「分かりやすく楽しかった」という声が多かった。「講義資料が分かり易い」、「講義資料がアップロードされており復習に便利」、「話し方やスピードがよい」など授業運営面に関する肯定的な声と共に、「リーダーシップに興味を持ち、理解できた」など部活やこれから社会で歩いていく上でのヒントが得られたといった声も寄せられた。この結果より本授業の目的は達成できたと判断できる。

その一方、自主的な学習に関する設問2の平均値は4.03（前回値3.82）と前回より改善しているが、全体では最も低い値である。「チャットによる議論」や「穴埋めの資料と共に、質問形式の資料も欲しい」といった自由記述の声を参考に、より自主的な学習へと繋がるような授業運営の在り方を探りたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相5
授業コード 13C04-005
教員名 前田 洋枝
教員コード 102264
登録人数 36
回答数 25
回答率 69.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

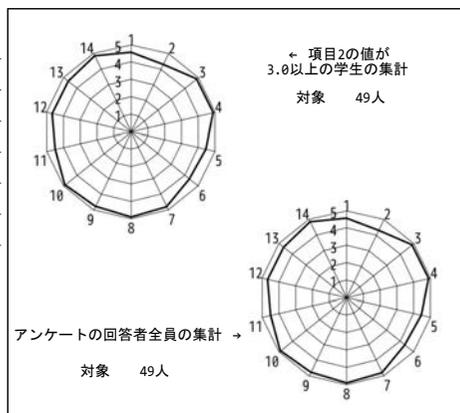


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の到達目標は、「1. 自己・内集団と他者・他集団の理解や、自己と他者・外集団の関係を巡る社会的問題の解決の検討の鍵となる社会心理学の概念（自己開示・自己呈示、原因帰属、内集団びいきなど）について理解する。」「2. リスクを巡る人々の認知・行動の特徴やリスク・コミュニケーションの特徴と課題について理解する。」の2点であった。自由記述において、「ゲームが人間の特徴がよく分かるような内容でとても興味深かったです。」「ゲーム体験を実際に行うことで、自己と他者について、集団決定の効果について、より理解することができた。」といった書き込みが見られた一方で、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」では3分の2ほどの学生が4または5と回答したが、3の学生も3割近くいた。学生の実感としても授業内容の理解ができたと思える授業となるよう、今後もゲーム体験と講義の両面で改善していきたいと考える。設問6以外の質問については平均値が4を超えており、4点台後半の評価を得た質問も多かったことから、今後もこのような肯定的な評価を得られるようにしていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 社会保障法 |
| 授業コード | 44C24-001 |
| 教員名 | 三輪 まどか |
| 教員コード | 102263 |
| 登録人数 | 191 |
| 回答数 | 49 |
| 回答率 | 25.7% |
| 休講回数 | 2 回 |
| 補講回数 | 2 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの回答率が低いものの、回答してくださった受講生の皆さんの満足度は4.82と高評価であったと認識している。受講生の真摯な受講が、この講義を支えていたことは間違いなく、この場を借りて感謝申し上げたい。

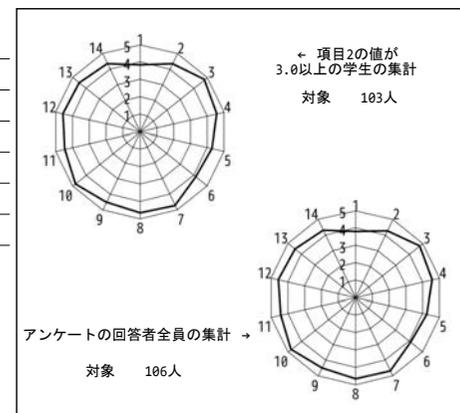
開講当初に立てていた目標3つのうち、2つについては、本授業を受講することで達成できたと思われる。それは、設問13に4.65の評価をいただいたことによっても明らかであろう。最終の目標である3つめの目標については、定期試験の結果を見る限りにおいて、十分に達せられたように思う。受講生が授業を聞き、自分自身の問題として捉え、回答した結果を見れば明らかである。

かねてから問題であった、予習・復習ができる授業としては、設問2にみるように、4.29とやや低めであった。この数字は、法律学科の平均値である3.94や登録人数別平均値である4.05よりは高かったものの、改善の余地があると思われる。

自由記述では、レジュメの穴埋めやそれをWebclassにて公開していること、また、Webclassの回答を通じての復習などの工夫に対して、評価する声が多く、この点はさらに進めていきたい。一方で、講義をやむを得ず休講にした点について、連絡が遅く「授業直前ではなく最低7時には連絡すべき」との記述があったが、当日は朝4:24にWebclassと休講の掲示を通じて連絡をしており、遠方の学生にも配慮したつもりである。記述した学生も、リーガルマインドを涵養する法律学科の学生であるならば、根拠を持って記述して欲しい。とはいえ、Q4に開講することは開講主体からの指示であるので致し方ないが、寒い時期の開講にあたって、家族ともども健康に留意し、できるだけ休講にしないことを心がけたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-------------|
| 科目名 | 地域と文明A(アジア) |
| 授業コード | 46B01-001 |
| 教員名 | 梁 暁虹 |
| 教員コード | 045229 |
| 登録人数 | 132 |
| 回答数 | 106 |
| 回答率 | 80.3% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 1 回 |

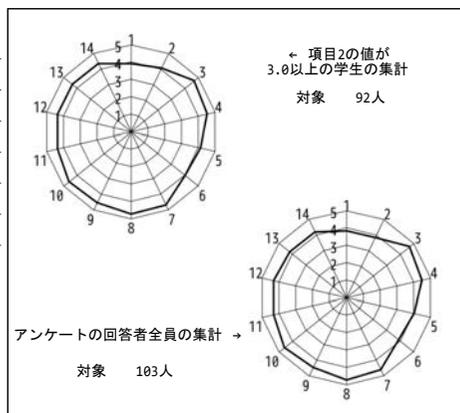


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」から判断して、この科目に設定した目標は、概ね達せられたと思う。「授業評価集計」を見ると、設問項目1~14の平均値は4.44、設問項目3~14の平均値は4.51、特に設問3、10はかなり高い点であり、双方の満足感が窺えよう。項目15学生の自由記述では、約50人（アンケート参加人103名）が「この授業の良かった点、評価できること」について書いたのを見ると、例えば「学生たちの発表を引き出し、多様な仏教について[歴史]を把握することができ、多くの知識を学ぶことができた。学生たちの発表後、発表した学生たちに適切なフィードバックをして自信を得ることができた。」「留学生に発表の場を設け、それを通して異文化交流ができるのがいいと感じた。」「中国[の]歴史について深く学ぶことができた。講師の説明がわかりやすかった。」但し、教師として改善の余地がないわけではない。「授業評価集計」から見ると、設問項目1は3.79、一番低い点であった。今後どのようにしたら学生が授業の内容について興味を持ち、さらに積極的な授業参加を促ような工夫をする必要があると考えている。また項目16学生の自由記述では、「授業を受講して改善した方がよいと感じた点や困ったこと」について、何人かの学生が書いてくれたが、来年度はこれら改善できる点を考慮に入れつつ、努力するつもりである。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 環境と文明 |
| 授業コード | 46B04-001 |
| 教員名 | 大八木 英夫 |
| 教員コード | 104123 |
| 登録人数 | 259 |
| 回答数 | 103 |
| 回答率 | 39.8% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

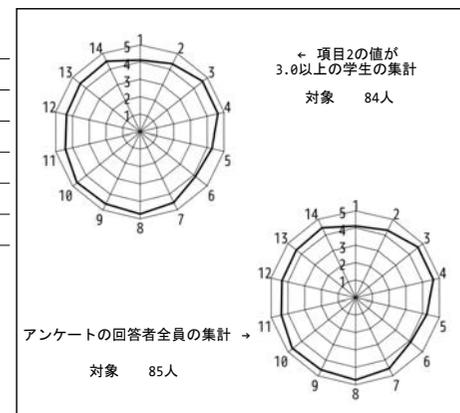


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、地球環境と人の密接な結び付きや人が自然と共存についての内容について基本的事実について解説し、地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発が行われている社会について考察させることを目標としている。多岐にわたる専門分野（大気（空気）・熱・水・廃棄物・生態系といった環境要素）における情報（数値）がもたらす意味を基礎的事項として授業を展開させた。内容については、常に生じている時事ニュースや科学における最新情報を取り入れて、日本だけでなく世界の各地の情報を提供しながら、学生の意欲を引き出すことに努めた。アンケート結果からは、到達目標に向けて力の修得についてはやや評価されなかった部分があるが、概ね学生からの対応は良好であり、特に、学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業については、良好な評価を得た。しかしながら、話題提供にやや時間超過の部分もあった。今後に向けては、特に、時事ニュースは、常に変化していくものであり、今後の授業においても古い知識にならないように気を付けながら、環境科学や地球科学等の複数の学問における様々な観点について授業を展開し、人が自然と共存し持続可能な発展についての講義を介して、自然環境について自分で考える能力を身につけさせることを目標とした。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 環境地理学 |
| 授業コード | 46D14-001 |
| 教員名 | 藤本 潔 |
| 教員コード | 100100 |
| 登録人数 | 197 |
| 回答数 | 85 |
| 回答率 | 43.1% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は2017度から新たに開講した科目であり、これまでの4回の授業評価の結果を踏まえ、いくつかの改善を試みた結果、項目3-14の平均が2017年度4.15、2018年度4.30、2019年度4.48、2021年度4.50と徐々に向上し、今年度も4.48と、200名規模の授業としては高い評価が得られた。各項目の値に注目すると、昨年度まで項目5（到達目標の理解）と項目6（到達目標に対する力がついたか）が相対的に低い傾向にあったため、初回授業で到達目標について説明すると共に、各回の授業でも到達目標との関係を意識しつつ講義を行ったところ、項目5は昨年度の4.19から4.26へ向上したが、項目6は昨年度とほぼ同じ4.09に留まった。定期試験の結果を見ても平均点が60点程であり、正答率が25%と低い問題も見られた。今後は定期試験の結果を分析し、学生の理解度が低い部分についてはより丁寧な解説を行いたい。Q4はコロナ関連でオンライン受講を希望する学生が続出し、年末年始にかけては欠席者が全受講者の3割程度にまで増加したが、毎回授業動画をDLサーバにアップすることでこれらの学生に不利益が生じないように配慮した。自由記述欄を見ると、資料や写真、動画等を適切に利用しわかりやすい授業だったと記載してくれた学生が多数いた一方で、リアクションペーパーやレポートの負担の割に授業参加度（今年度は3割）が低い点を指摘する学生もいたことから、今後授業評価の割合について検討したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 統計解析

授業コード 46E03-001

教員名 水落 正明

教員コード 102745

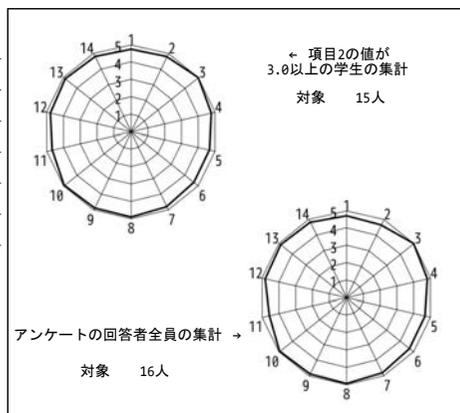
登録人数 32

回答数 16

回答率 50.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の目標は、統計ソフトRおよび統合開発環境Rstudioを使って、統計解析（主成分分析、クラスター分析、因子分析）について理解し、分析手法を身につけることであった。3回のレポートの内容からは、おおむね目標は達したと考えている。総合的な満足度（設問14）については4.81と、総合政策学科の平均4.33を大きく上回っている。統計学およびプログラム言語（R言語）の理解など、通常の講義に比べると内容ははるかに高度であることを考えると、かなり良好な結果であると言える。今年度から担当した科目であり、どのように授業を進めていくかは手探りであったが、単に分析作業をすすめるだけでなく、得られた分析結果について講義中に学生に解釈を求めたりすることで、分析結果の社会に対する意味を考えさせるなど、バランスのとれた内容にすることで、学生の興味を引くことができたと推察される。各項目について見ると、総合政策学科で平均値が公表されている14項目において、すべての項目において上回るという結果となった。良好な結果の原因としては、自由記述にもあったように、教員が教室内を巡回しながら学生が困ったところについてアドバイスをしたり、自分で分析作業することで理解しながら授業を受けることができたことが考えられる。一般的な講義系の科目に比べてかなりの負荷がある授業となっているが、今後とも学生の能力向上に資する授業にしていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語III4

授業コード 46F03-004

教員名 O'CONNELL, Sean

教員コード 100448

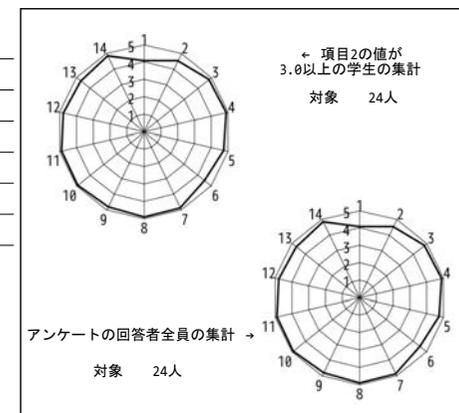
登録人数 35

回答数 24

回答率 68.6%

休講回数 2 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set for this course remain the same as they always have for the past six years:

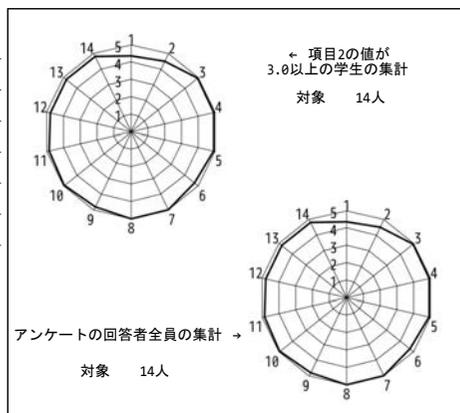
- (1) to give the students opportunities to use the four core English skills to deepen their knowledge of policy studies
- (2) to help the students improve their discussion and presentation skills in English using core content
- (3) to enhance the students' intercultural awareness and understanding

In terms of goal achievement, as the results of the evaluation show, the students showed a strong awareness and sense of improvement in all three of the above-mentioned areas. The overall average of 4.80 suggests that the students were also satisfied with the course content and methods of instruction, so I will endeavour to provide the same levels in both areas going forward.

With regards to future improvements etc., some students did express the desire to hold more discussions related to their presentation content which was something I didn't do this semester. Accordingly, I will try to incorporate those requests in future classes. Overall, I will continue to strive to deliver classes that are thought-provoking and are based on a solid active-learning approach.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語III6
授業コード 46F03-006
教員名 CROKER, Robert
教員コード 100082
登録人数 34
回答数 14
回答率 41.2%
休講回数 1回
補講回数 1回

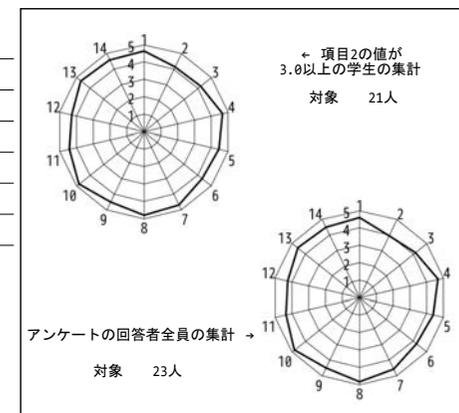


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was an introduction to comparative sociology class. The goals of the class were to learn about one country in depth and the basic concepts of sociology through exploring topics such as education and gender and diversity. The students chose which country they wanted to focus upon and each week researched about that country. In the first week, students read a book about their chosen country. From the second class, each week a different sociological theme was explored: education, health, population change, and gender and diversity. In the final class, each student gave a 10-minute presentation to two other students about the country that they had researched about. The results of the student feedback were positive. The students seemed to enjoy the class very much, and found it useful. In students' written comments, students wrote that they enjoyed learning about different countries. Having a template for each report was useful, as was recycling key words and sentences each class. Finally, students really enjoyed spending a lot of time speaking in English each class. From my perspective, I found the students worked hard, and were a real pleasure to teach.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 対外政策論
授業コード 46L03-001
教員名 平岩 俊司
教員コード 103613
登録人数 83
回答数 23
回答率 27.7%
休講回数 0回
補講回数 0回

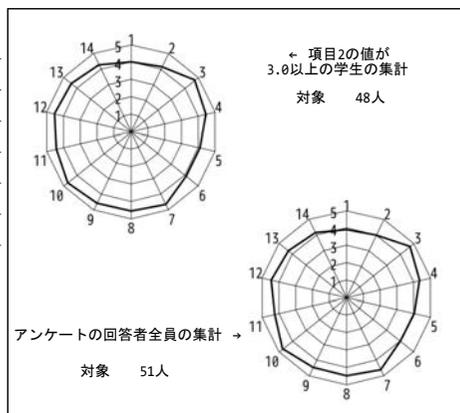


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
対面講義ということもあり、学生の反応を見ながら進めることができたので、当初設定していた目標についてはある程度到達できたと思っている。但し、テストの結果から判断すると、講義で説明したことを応用してより深い理解につなげることができたとは言いがたい。より普遍的な理解を意識しながら講義する必要があると感じた。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
オンラインで受講した学生がいたためハイブリッドの講義となったが、私の理解不足もあって、オンラインの設定に手間取り、事務局からの応援をお願いするなど、対面の受講生を待たせてしまうことが度々あった。かりに次回以降ハイブリッドで対応する必要があるのであればそのあたりを含めて準備する必要があると感じた。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
日本の対外政策決定過程、朝鮮半島政策については概ね理解してもらえたと思うが、それを他国の対外政策に普遍することを意識して講義内容を充実させていこうと思う。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域経済論
 授業コード 46N06-001
 教員名 澁谷 英樹
 教員コード 151974
 登録人数 173
 回答数 51
 回答率 29.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

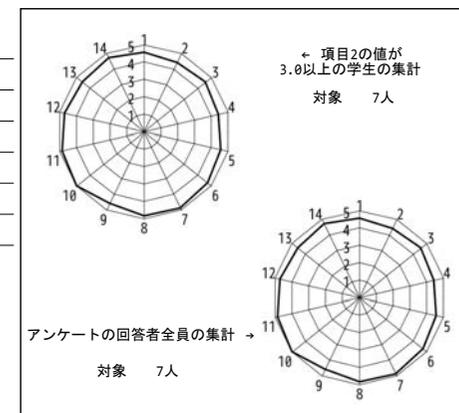
今年度の地域経済論は、全体としてかなり好評であった。今年度の講義として設定していた目標と、教員としての新しい試みとして、地域経済史に非常に力を入れたことがあげられる。そもそも、私は中部地方出身の文系南山生ならば中部地方の地理歴史については知っていて当然だろうと考えていたが、実際に講義をおこなってみると予想よりも学生にとってなじみの薄い分野であることが判明した。そのため、事前の理解度は4点を下回ったのに対して、事後の理解度は4点を大きく上回った。

いっぽう、残された課題として、本講義はレジュメの数が多すぎるという問題を抱えている。これは、自分たちが暮らす日本、しかもごく身近な中部地方とはいえ、その中には様々な地域が存在するため、資料が多くなるという本質的な問題である。これについても、来年度のレジュメ作成にむけて産業博物館・資料館等をめぐり、受講生に最も伝えるべき内容を再考する。

また、本講義は留学生にとってはいささか難しいという問題もある。もっとも、わが国が誇るトヨタグループを中心とした自動車産業や、今や日本の製造業を支える名古屋圏経済の分析は、留学生にとって最も研究してほしい内容のひとつである。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 開発政治論
 授業コード 46N11-001
 教員名 POTTER, David M.
 教員コード 100098
 登録人数 27
 回答数 7
 回答率 25.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



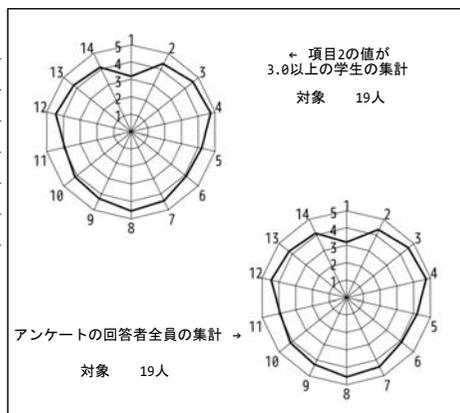
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course is a lecture-based course that covers major development strategies undertaken by developing countries since independence and then takes up development issues relevant to a particular group of those countries.

This was my first department course taught since I returned from sabbatical in the fall. The numerical responses were very high, indicating student satisfaction with the course content and pedagogy. There was only one student written comment, which was favorable. I expect to continue teaching this course in this manner next year.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[FB・FF・FG]5
授業コード 10C01-019
教員名 金山 知俊
教員コード 019455
登録人数 33
回答数 19
回答率 57.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

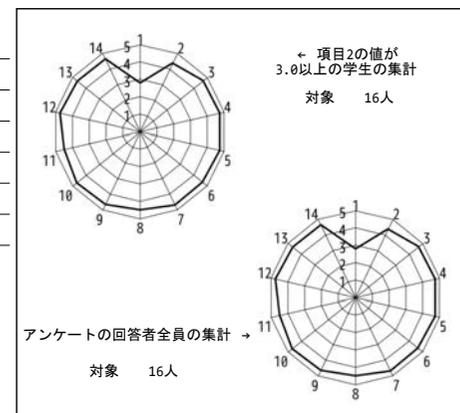


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 本科目は情報社会におけるネットワーク環境の適切な利用方法について、e-learningを用いた自習学習と、レポートのピアレビューおよびグループでのディスカッションや発表による学習で構成されたアクティブラーニング形式の授業を行なっている。コロナの影響により発表は事前収録した動画再生で行なっているが、予定通りの対面授業を実施することができ、シラバスの到達目標は達成できたと思う。
2. 授業評価の結果は項目1~14の平均が4.24、項目3~14の平均が4.32であり、情報科目全体の集計結果より少し低い値であった。個別の項目では項目1が3.16、設問11が3.95であり、他の項目より低い値であった。この結果は第1クォータに他学科で行なった同内容の授業と同じ傾向である。自由記述欄の設問15にはオンライン教材により自分のペースで学習できることや、他者のレポートを評価できることに肯定的な意見がみられた。項目16には発表に慣れておらず大変だったという意見が1件のみであった。ただ、アンケートの回答者は受講生のおよそ6割弱だったので、表明されていない不満が存在する可能性はあると思われる。
3. 本科目の内容はネット社会で生活する人々すべてに必要な知識である。その重要性を受講生に周知することができれば、項目1,11の評価も改善が期待できると考える。今後は受講生の興味を引き、積極的な授業参加を促す工夫として学生が関わるネット環境でのトラブル事例などを初回ガイダンスや対面授業で紹介することを考えている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[FS・FA]4
授業コード 10C01-026
教員名 杉原 桂太
教員コード 101115
登録人数 25
回答数 16
回答率 64.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

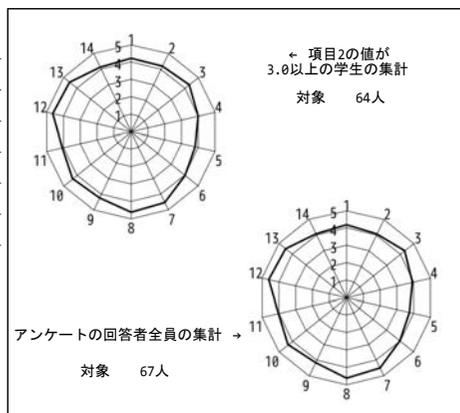


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 本授業では、「アクティブラーニング」を採用し、「反転授業」を行うという共通方法が複数教員で行われた科目であった。そのため、そのような授業が問題なく展開し、受講者が情報倫理をより理解できるようになることが目標となった。項目（1-14）では多くの項目で4点台の評価が得られたが、3点台もあった。設問1（2.81）から、受講者はインターネット利用のルールや法について興味を持つ傾向がそれほど高くなかったことが分かる。自由記述からは、設問15について、「みんなとグループワークし協力する大切さを知れた。」、などの評価がある一方で、項目16では、「話すスピードが速い。」、という記述があった。この項目16については、今後の授業では十分に気を付けたい。
- 設問項目14（4.63）は一定の値とはなっているが、同時に、学生にとっての授業での目標の達成につながっているかについては常に留意していく必要がある。さらに、回答率の向上のために効果的な実施方法を目指したい。
- 以上を踏まえ、目標の達成のためには改善点が必要であることが分かる。次のクォーター以降のこの科目においても、「反転授業」等のこの科目の狙いがより効果的に実施できる授業を目指したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング応用[TC]1
授業コード 50A28-003
教員名 名倉 正剛
教員コード 103899
登録人数 82
回答数 67
回答率 81.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

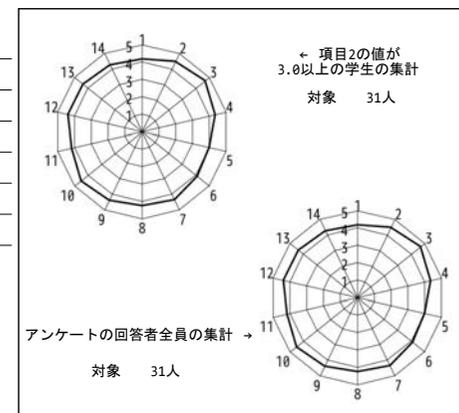


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① プログラミングの一通りの流れを学ぶという目標は達成できた。設問21の回答でもそのことがわかる。
- ② 自由記述会等より、丁寧であったとの回答が多くみられる。学生の満足度を見ても、4点程度であり、満足度が高かったということで継続的にこの科目の指導を実施していきたい。ただし、全体として身に着いたかどうかの設問に対する回答が若干スコアが低かった。おそらく学生の知識に対して内容が過多になってしまっているのではと推察するが、内容を容易にすると次学期の科目との内容のギャップが大きくなる。他のアンケート回答のスコアと比べると相対的に低いですが、定期試験での平均点と見比べるとこのスコアは妥当なところと考えるので、問題が無かったと考える。
- ③ 実習授業の進め方として、最初に概要を解説してから実習をさせていたが、受講生によっては進度が速いと感じることもあるようで、改善する必要がある。ただし、受講生によって進度が異なるので、概要の解説を、最初に課題を解かなくても十分理解できるように丁寧に説明する以上の方策が今のところ思いついていない。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング応用[TM]1
授業コード 50A28-004
教員名 蜂巣 吉成
教員コード 019448
登録人数 72
回答数 31
回答率 43.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- プログラミング応用はQ3のプログラミング基礎に続き、手続き型言語のプログラムを学ぶ学部必修授業である。今年度は木曜3,4限にプログラミング言語の文法や概念を学ぶ講義、金曜4限に補足的な講義、月曜3,4限に実際に貸与PCを用いたプログラミング演習の形式で行った。授業評価は木曜3,4限を対象として行った。
- (1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
授業内容は予定通り行った。多くの学生は到達目標に達していたが、中間試験、定期試験が不十分な学生も少なからずいた。
 - (2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
各設問の平均値は4点以上で総じて高い。自由記述欄も説明が丁寧など概ね好評であった。2021年度の講義を録画していたので、授業後に参考として動画を公開したが、それを評価する意見もあった。授業の進行度については、早いと遅いの両意見があった。
 - (3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
学生が発言しやすい状況を作って質問を聴きながら進めるなど、学生が興味を持って真面目に取り組み、ほとんどの学生が到達目標に達することができるようにしたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 卒業研究IVD
授業コード 52A16-004
教員名 井上 克郎
教員コード 047811
登録人数 6
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) 6名の学生に対して、クレーム文クラスタリング、部品分別評価、コードクローン分析の3つのグループに分け卒業研究を行った。当初の目標として、それぞれのグループにおいては既存研究の成果をふまえ、新たな知見を得て、研究会や大会発表に相応しいレベルの成果を出すこととした。結果、それぞれのグループでは、研究会や大会発表を十分に行えるレベルになっており、目標以上の成果を出した。
- (2) 今のところ学生アンケートの結果は得られていない。今年度の各学生は真面目にミーティングに出席し、議論し、研究を進めていた。ミーティングにおいては、話しやすい雰囲気を出すように努めていたが、引き続き会話が十分でできるような環境を作っていく。また、Pythonやshellの使い方などがアドホックに指導になった嫌いがあったので、事前学習として書物やドキュメントの輪読などをした方がよかったかもしれない。
- (3) 来年度は学生数が大きく増えることが予想され、個々の卒業研究指導の時間が減ることがないよう、スケジュールを組む予定である。また、卒業後、修士への進学することへの誘導も引き続き行っていく。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 卒業研究IVD
授業コード 52A16-007
教員名 佐伯 元司
教員コード 100223
登録人数 6
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

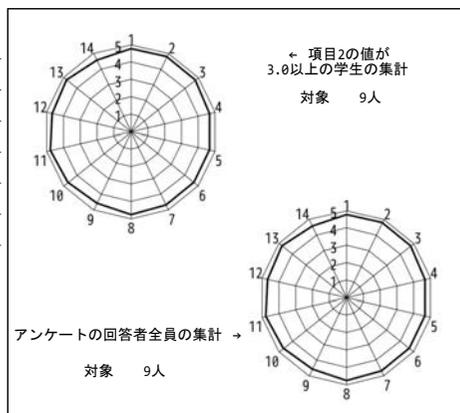
レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、卒業論文執筆の最終段階として行われ、シラバスに挙がっている4つの到達目標のうち、特に論理的な説明能力、文章校正能力、質問への的確な回答能力に育成に重点をおいて指導した。研究テーマ別に2つのグループに分け、対面式にて、全体では進捗報告の発表、質疑応答や議論を行い、グループ個別では進捗状況に応じて適宜指導を行っていった。学生同士の質問や議論は当初はそれほどなかったが、授業が進むにつれて徐々に増えてきた。論点を提示したり、学生を指名したりするなどの工夫を行っていった。質問への回答能力については、講義内では的確に回答できるようになったが、卒論発表会では一部回答が不十分な面が見られた。これは実際の不特定多数を聴衆にして質疑応答するという訓練不足であったと思われる。卒論発表会の前に、もっと積極的に学会に参加させたり、進捗に応じて学会発表をさせたりするなどの実践の場を通じた能力の育成が必要であったと思っている。与えられたテーマの重要性の理解、十分な文献調査と現状からの問題認識、問題の解決能力、計画立案能力、専門分野の十分な知識については、授業中の進捗報告、質疑応答から概ね達成できた。なお、1つのグループが3月に学会発表予定であり、さらに論理的説明能力や回答能力、論理的思考能力の向上が期待される。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報システム開発実習2
授業コード 54A10-002
教員名 横森 励士
教員コード 101114
登録人数 34
回答数 9
回答率 26.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

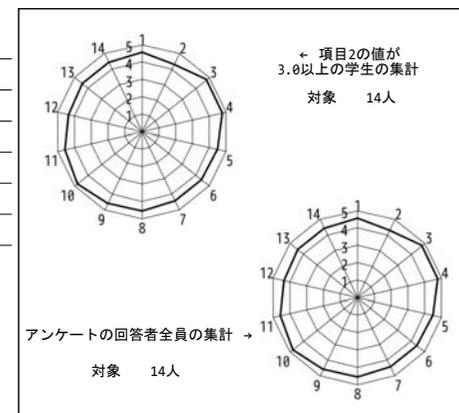
本科目は、lego Mindstorms を題材に、C言語プログラムからクロスコンパイラを用いてLego Mindstorm 上で動作するプログラムを作成し動作させることで、組み込みシステムとはどのようなものか、どのようなことに気を付ける必要があるかを体験してもらう実習科目である。2クラス開講し、今年度からその1クラスを担当することになった。もう片方のクラスの金山先生から授業の進行についてのアドバイスをいただきながら、クラスを運営していった。幸い脱落者もなく、ひとまず無難にクラスの運営を行うことができた。最後のプレゼンテーションも、こちらからの改善依頼にもとづいて適切な修正がなされていた。

そのため、本年度の目標は「破綻のないようにクラスを運営する」ということにしていたが、まずはこの最低限の目標はクリアできたと考えている。レーダーチャートからは、まずまずの評価であったことがうかがえる。今年の経験を活かしながら、来年度以降によりスムーズな運営ができるように努力したい。また、実習のサポートをしてくれたTAにも感謝したい。

現在利用している機材の都合で、機材、題材の置き換えが来年度以降に発生することが想定される。今年度から質を落とさずに、題材の置き換えをスムーズに行い、来年度以降も楽しく組み込みシステムを体験できるようにしたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報1
授業コード 13E09-001
教員名 三浦 英俊
教員コード 102259
登録人数 29
回答数 14
回答率 48.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

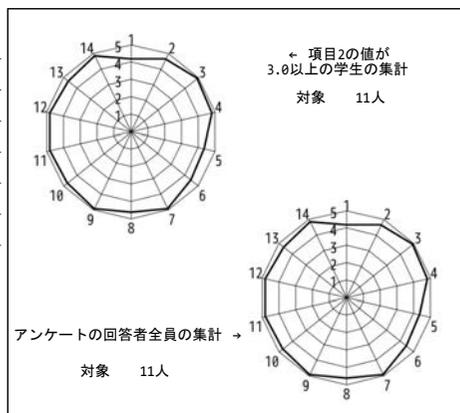


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
以下の3つを設定していた。
 1. ORが実社会でどのように使われているか、いくつかの例を知っている。
 2. ORの基本的な手法について理解している。
 3. 実社会の様々な問題解決のためにORの一連の考え方が有効であることを理解している。それぞれについて、授業中に教科書を使いながら実社会での問題例、基本的な手法について講義を行い、問題例の解や演習を用いながら問題解決のためにORの一連の考え方が有効であることを述べた。演習の学生の提出物などを見て、目標に到達できていることを確認した。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
この授業は2015年度以来8年目となり、講義内容を毎年改善しつつ進めてきたことが効果を奏して、多くの学生により評価がもらえるようになったと感じている。ORを専門でない学生向けに面白く授業することに重点を置いているので、理工学部の学生にはやや物足りないかもしれない。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
授業後の演習課題だけでなく、授業中にグループワークを行うことを検討する。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報4<国際科目群>
授業コード 13E09-901
教員名 鈴木 敦夫
教員コード 016469
登録人数 38
回答数 11
回答率 28.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

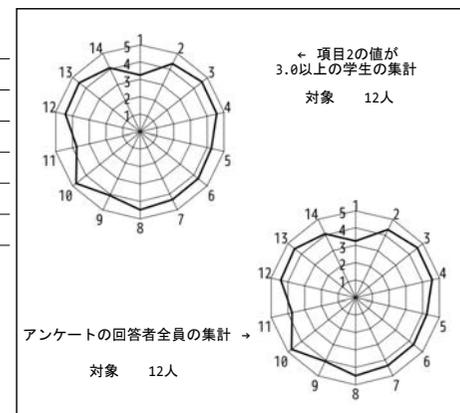
1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
オペレーションズ・リサーチについて、概略を理解してもらい、実際の問題解決にどのように活用できるかを考えられるようにするという当初の目標はアンケートの結果、またレポートの内容から判断するとおおむね達成された。国際科目群ということで英語での授業であったが、アンケート結果から学生は、毎回の資料を見ることによって、また授業後には、録画した授業を視聴して復習することで、内容を理解したと考えられる。

2. 毎回の出席者が10名程度だったので、出席していた学生がアンケートに答えてくれたと思う。授業の内容には、私が実際に企業や病院、大学で取り組んだプロジェクトの解説が含まれていたため、そのことが学生の興味を引いたと思う。現実の問題をどのように解決したかというストーリーが学生の興味を引くことが分かった。

3. 実際のプロジェクトを解決していくプロセスをもう少しストーリー的に解説することで、さらに学生の興味を引く講義になることが考えられるので、そのような話を増やしていくことを考えたい。体調を崩して出席できなかった学生のために、Zoomの録画機能を利用して、授業を録画し、WEBクラス上にアップロードして受講生が視聴できるようにした。これは、学生の復習にも役立つようなので、来年度も引き続き何らかの方法で授業を録画して、学生があとから視聴できるようにしたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 線形代数学II[TS]
授業コード 54A05-001
教員名 塩濱 敬之
教員コード 104524
登録人数 74
回答数 12
回答率 16.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

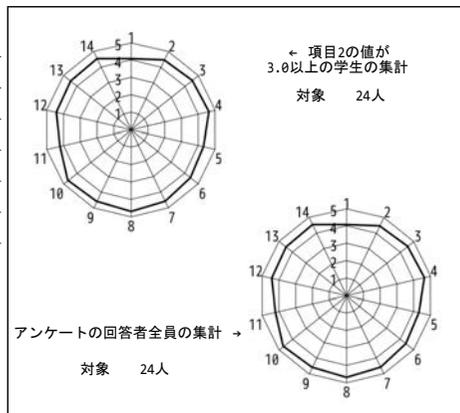
① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
線形代数学IIの目標と到達の程度は次のようであった。
1. 逆行列を計算することができる。
2. ベクトルの一次独立性と一次従属性を理解している。
3. ベクトル空間を説明できる。
4. ベクトル空間に関する基本的概念（基底や次元など）を理解している。
設問項目のアンケート結果から、概ね目標は達成できたと思う。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
特に記述すべきことはない。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
コロナ感染や、発熱による体調不良、濃厚接触者となったから欠席するといった連絡をたくさん受けた。講義や演習の欠席に対して、個別の事由を考慮した対応は困難だと感じる。また、学生の希望に応じて、講義は毎回録画し、視聴できるように対応したが、このような対応は本当に必要か？講義科目や教員によって、対応が異なることも学生に不利益になっているような気がする。来年は、コロナの影響がない環境で授業ができれば良いと思った。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-------------|
| 科目名 | 線形代数学II[TD] |
| 授業コード | 55A05-001 |
| 教員名 | 小市 俊悟 |
| 教員コード | 101691 |
| 登録人数 | 73 |
| 回答数 | 24 |
| 回答率 | 32.9% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

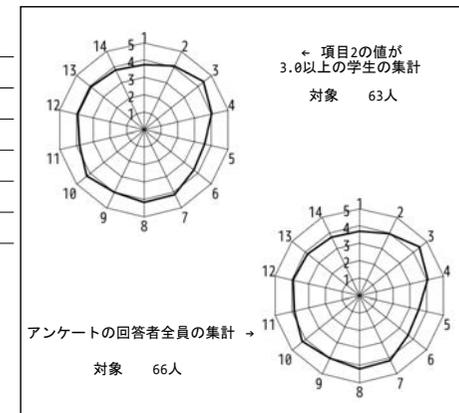


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 到達の目標は、逆行列やベクトルの一次独立性、ベクトル空間とその基底などの線形代数学の基本事項を理解することであった。授業も滞りなく進んだので、例年の状況からすれば、目標をおおむね達成してもらえると考える。ただし、新型コロナウイルスに関連して、例年に比べれば、やや欠席が多かったので、その点が気がりではある。欠席者には資料の配布などの対応を取ったが、学生が自習できたことを願っている。
- ② 評価値および自由記述については、おおむね好評だと考えるが、設問21と22については少し下がる。これが、「理解した」と「身についた」とには乖離があるのか、学生のがかった気ではいるけど、その確信はないことの表れなのか分からない。抽象度の高い内容であるので、「身についた=実践できる」という意味では、なかなか実感することも難しいのかもしれない。
- ③ 昨年度、学生がつまづいていた集合の包含関係を（線形代数学以前の内容ではあるが）、授業内容に取り組むなど改善を行い、今年度は、その効果も少しあったと信じている。来年度に向けて、内容を大きく変える予定はないが、演習問題を工夫するなどの改善を続けたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 機械学習の数理 |
| 授業コード | 55A09-001 |
| 教員名 | 河野 浩之 |
| 教員コード | 048595 |
| 登録人数 | 183 |
| 回答数 | 66 |
| 回答率 | 36.1% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 2 回 |

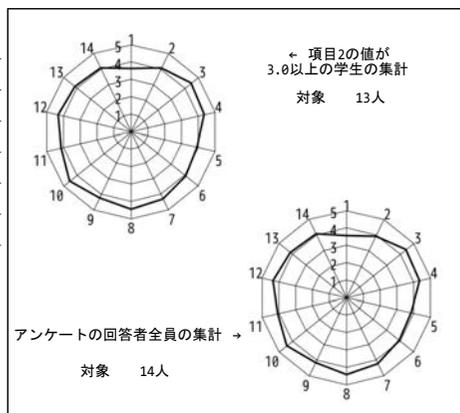


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
新学科における、今年度「新規開講科目」であり、講義内容・資料・レポート課題・試験の全て新たに作成した。最近の機械学習（人工知能）に関わる社会的動向が激しく変化していることを踏まえ、例えば「GPT-3に関する話題」を含めた講義を行っており、当初目標は十分に達成したと考えている。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
講義前半で、前回説明した内容を発展的に復習し、前回出題した問題解答を行った。講義後半は、新たな内容を説明し、関連技術用語に関する演習問題を出題し、WebClassで解答する形式とした。自由記述から、前回r復習・演習問題解答、新範囲説明・関連演習問題出題、のサイクルは好評であったように思われる。また、レポート課題として講義内容に関するプログラム作成を行ったことで、機械学習の利用に関して理解を深める学生が一定数いたと考えている。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
技術的变化が激しいことから、教材の継続的修正を行ないたい。前提科目である「数理技術プログラミング」と、より密接に接続できるレポート課題提出を実施したい。資料提示を中心にし、配付資料の舞数を減らすことを考えたい。（全配布を求める学生が生じるかもしれない）なお、コロナ罹患ならびに濃厚接触者対応のハイブリッド（Zoom接続）提示を実施したが、原則対面であり、移行期の措置と考えている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数理最適化
授業コード 55B02-001
教員名 佐々木 美裕
教員コード 019463
登録人数 46
回答数 14
回答率 30.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

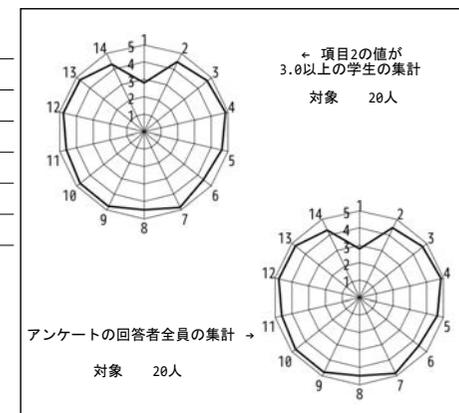


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 副専攻の選択必修科目であるため、基礎的な内容を中心に説明し、毎回の授業内容を確実に理解して積み上げ式で学習効果を上げることを目標とした。そのため、授業内容の確認を目的としたクイズ形式の小レポートを8回実施し、すべてのレポートの解答について次の授業の冒頭で解説した。また、質問の機会を十分に設けるために、授業の前半70分で解説、後半30分で課題等に対する質問に回答する形で進める計画を立てていたが、実際は説明に80分～90分程度かかり、質疑応答の時間は10分程度が多かった。この点については十分に目標を達成できたとは言えないと感じている。
- ② 項目12の平均値が4.36と比較的高いことは意外な結果であった。回答数が少ないので明確なことは言えないが、設問5と設問6の平均値が4.0を下回っており、毎回の授業内容を理解できなかった学生が一定数いることがわかった。
- ③ 毎回の授業内容を確実に理解して積み上げていくためには、授業に出席することが重要であると思うが、出席率は高いとは言えなかった。講義資料や練習問題を充実させることが逆効果になっている可能性もあると感じているので、出席率が低い理由をさぐりつつ、自習をサポートする体制を見直したい。また、授業の後半に設けた質問の時間帯にもあまり質問はなかったので、質問しやすい環境の提供を心掛けたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[FS・FA]1
授業コード 10C01-023
教員名 栗原 寛明
教員コード 103522
登録人数 30
回答数 20
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



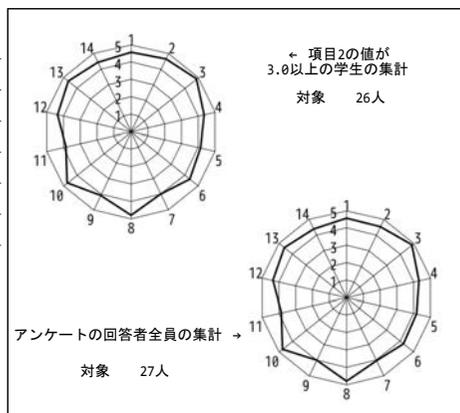
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出し、授業に積極的に取り組んだ受講生は、到達目標をおおよそ達成できたとみなしてよい。

本科目はe-learningと対面授業を組み合わせ実施した。e-learningの学習内容に対する理解度を確認する課題、レポートのピアレビュー、指定課題に対するグループ発表、を通して理解を深めるようになってきている。e-learningの教材と課題の分量は適切であり、しっかり取り組んだ受講生は各テーマについて十分に理解を深められたと思われる。一方、e-learning教材に十分取り組んでいない受講生が多いことは非常に残念である。e-learning教材は対面授業に参加する上での基礎となるため必ず取り組んでほしい。対面授業では、レポートのピアレビューとグループ活動に十分な時間を確保するように努めた。発表内容の検討から発表動画の作成までオンラインで行ったグループも多かったようであるが、成果物を見る限り問題なくグループ活動ができたと思われる。情報通信技術の進化や社会の変化は常に継続しているため、教材には含まれない最新の話や出来事も取り上げていく必要がある。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ソフトウェア工学実習[S12]
授業コード 52A05-002
教員名 宮澤 元
教員コード 019422
登録人数 45
回答数 27
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【事前に設定した目標とその達成状況】

情報システムの仕組みや開発方法について、ウェブアプリケーションを試作する実習を通して理解させ、ソフトウェア工学に関する知識を深めることを目標とした。授業への取組や全体の満足度は概ね高い評価を得られたが、設問21以降の評価が2点台と理解度の点では目標が十分達成できたとは言えない。

【担当科目に関する総合的な自己点検・評価】

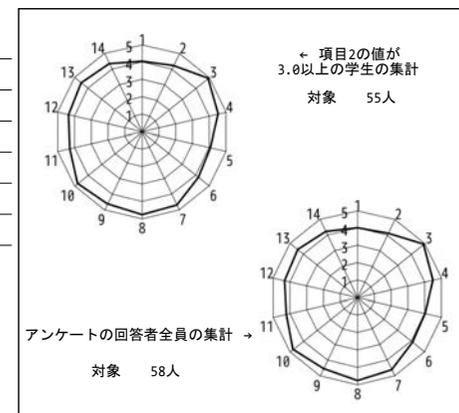
ウェブアプリケーションの試作には興味を持ってもらえたようで、自由記述でも肯定的な評価が多い。一方、上述以外では設問11の評価がやや低いのが目立つ。事前提示の資料に沿って個別に演習を進める形式だったが、状況を見ながらヒントを示すなどの働きかけをもう少しすべきだったかもしれない。解説スライドを講義資料DLサーバに置いていたことの周知が十分でなかったことも反省点である。

【今後の改善】

演習問題の解答が欲しいという要望が複数あった。学生にはウェブアプリケーションを自分で自由にアレンジできるようになってもらいたいので、正解や模範解答がわかれば良いというものではないと考えている。ただ、その手前でつまづいているのかもしれないと考え、例題と比べて難しいと感じられる問題には実習の中で解説を示すようにしていたが、それでは十分ではないということなのかもしれない。この科目の担当は今年度が最後だが、こういった要望に対するよい対応については今後も検討したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報通信セキュリティ[S]
授業コード 53B08-001
教員名 石原 靖哲
教員コード 103810
登録人数 178
回答数 58
回答率 32.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

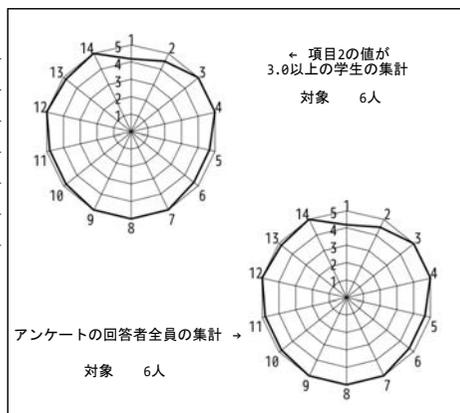


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 昨年度は設問6に対する評価が低かったため、今年度は少し教える内容を絞り込み、その分授業時間中の練習問題を増やすことで、より深い「知識・技術の定着」を図れるよう配慮した。
- ② 自由記述の改善意見で「デジタル板書の文字が小さくて見にくかった」という意見が複数あったのが大きな反省点である。昨年度もS21にてデジタル板書で実施したが、こういった意見が全くなかった。今年度はS22だったため、スクリーンのサイズが大きく影響したと思われる。不注意であった。講義は録画して資料DLサーバで配信していたため、受講生は読めなかった文字をそちらで確認していたようである。肯定的な意見としては、練習問題を多く用意した点、デジタル板書による授業、録画の配信などが評価されていた。特に「大学に入って初めて授業が楽しいと思えた」という、3年次Q4の授業としては最大の賛辞もあった。どのような部分・内容が楽しいと思えたのか、こちらから詳しく聞きたいものである。
- ③ 学部改組にともない、この授業科目は今年度が最後であるが、読み替え先の科目でも好評だった授業方法を継続したい。そして、板書の文字の大きさへの配慮といった基本を飛ばしてしまわないよう、注意深く授業を行いたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|---------------|
| 科目名 | 人間と機械5<国際科目群> |
| 授業コード | 13E04-901 |
| 教員名 | 大石 泰章 |
| 教員コード | 101405 |
| 登録人数 | 6 |
| 回答数 | 6 |
| 回答率 | 100.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

○当初の目的と到達の程度

この授業は国際科目の1つとして、動的システムの基礎と応用について英語で講義し、数学が実世界においていかに役に立つかを伝えることを目的とする。文系の学生が履修できるように、高校で必修の数学だけ（数学Ⅱ、数学Bまで）を仮定し、必要なことはすべて授業中に説明する。

予定通りすべての内容を講義することができた。

○数値データおよび自由記述をふまえた自己点検・評価

数値評価はすべて4点を超えており、「英語で数学」というハードルの高い授業であることを考え合わせると、満足すべき水準に達していると思われる。

評価できる点（設問15）には、「わかりやすい」「質問がしやすい」などがあった。一方、改善すべき点（設問16）には特に記述はなかった。学生にとって満足できる授業になっていると解釈して素直に喜びたい。しかし教員から見ると、全員が同じように授業内容を理解できているとは思えない。説明は非常に丁寧に行なっているが、英語なので理解につながっていない可能性があり、悩ましい。

○今後の改善点、抱負、方針など

この授業のことを学生に周知し、もう少し受講者を増やせるとよい。事前の授業内容への興味（設問1）が高くないことも、このことの必要性を示すと考える。自分が担当する他の授業で宣伝しているのだが、さらに努力が必要である。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 卒業研究IVG |
| 授業コード | 53A14-005 |
| 教員名 | 稲垣 伸吉 |
| 教員コード | 104255 |
| 登録人数 | 3 |
| 回答数 | |
| 回答率 | |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

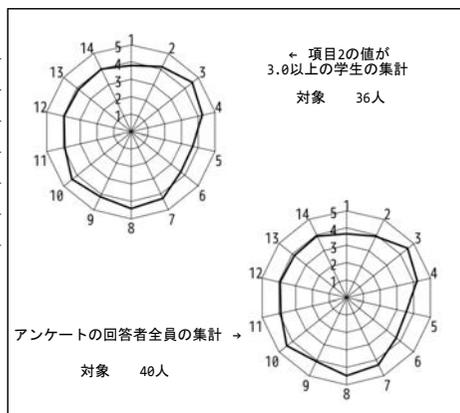
レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 本科目の目的では、指導教員の指導を受けながら、研究課題に纏わる現状を調査し、新たな解決方法を考え、その方法を実験的にあるいは実現することによって評価し、その成果を卒業研究としてまとめることである。研究課題に関する技術や研究の背景については参考文献を調査させ、解決すべき諸問題の重要性を理解させることができた。そして、研究課題を明らかにして問題解決に繋げることができた。研究活動においては、機械の設計製作や制御系の設計、プログラムの開発などを、これまでに学んできた専門知識を応用して進めることができた。また、定期的に技術文章を作成して報告させ、指導教員と議論し、研究計画を立てながら研究を遂行できた。最終的に卒業論文としてその成果をまとめ、成果発表を行うことができた。
- ② 学生は指導教員との頻繁な議論を通して、精力的に研究活動に取り組み、定期的な技術文章の報告も欠かせず提出した。最終的な研究成果も学術的な貢献度が高く、本授業は総合的に高く評価することができる。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けて、より円滑なコミュニケーションと研究遂行の効率化を図るために、情報交換・情報共有ツールをより活発に利用することが改善点である。本クォーターで実施したように、次クォーターでも学生と頻繁に議論しながら授業を進めていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 応用解析学[TD]
授業コード 55B01-001
教員名 杉本 謙二
教員コード 104614
登録人数 62
回答数 40
回答率 64.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



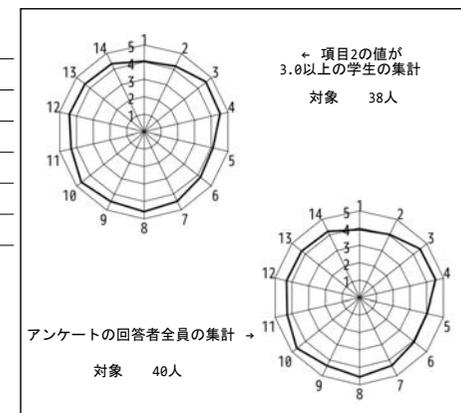
授業評価結果を踏まえた点検・評価

多くの受講生が真面目に取り組んでいたとのことで安心しました。確かにそのような手応えを教室内でも感じていました。私が「授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さ」を持っていたと評価されたのもうれしいことです。しかし高度な複素関数論の内容は、やはり難しかったようです。次年度はできる限り理解してもらえるよう工夫を続けたいと思います。具体的には、教室内でのミニッツペーパーによる自己採点は好評だったものの、内容をしっかり自分のものにするには講義後の復習を促進する仕組みをもっと整える必要があると感じました。例えば、こまめに宿題を出す等によって自ら学び取る姿勢を涵養することができるのではないかと考えています。特に後半は積分計算が続くので、手を動かして多数の例題を解く練習をしてもらおうのが良いようです。

なお、項目22については私の趣旨理解が不足していたこともあり、十分に周知できなかったために回答があまり良くありませんでした。次回は気を付けます。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 機械工学基礎
授業コード 57A09-001
教員名 中島 明
教員コード 103140
登録人数 147
回答数 40
回答率 27.2%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、旧学科3年生向けの選択科目を新学科2年生向けの必修科目として改定したものである。

構成は変わらず、2年生向けに前提となる知識の増補を行った。

内容は4単元から構成されており終了時にレポートを課した。

一部理解が出来ていないように思われるレポートもあったが、概ねそれなりに解答できており、授業内容の理解はできていると思われる。

評価としても概ね4以上であり、「真面目に受講した学生」とっては好評であったと考えて良いであろう。

旧学科から新学科での開講となり、「必修科目にも関わらず、3分の1未満(40/147)の学生しか出席しない」という問題も発生した。

理由としては、「1.1限開講」「2.出席がない」「3.講義動画の配信」「4.受講生のレベルが下がった」などが挙げられる。

1限に出たくないという怠惰な性根、出席がないという甘え、講義動画配信による先送り気質の助長、そして、これらの緩みきった人格の割合が多い低レベルな受講生(4学科で最も偏差値が低い、副専攻不人気による低GPA学生の吹き溜まり)というコンボがきまった結果であろう。

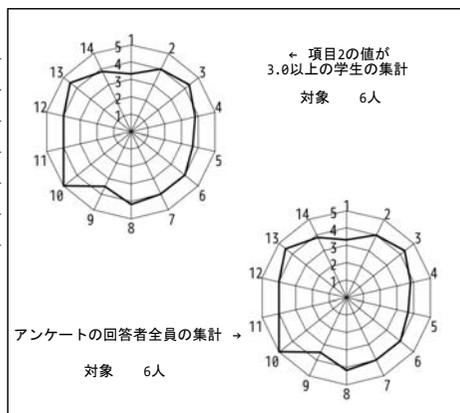
しかし、講義動画の配信は、自由記載では復習に有効であるとポジティブな回答がある。

対面参加40名程度、アンケート回答も40名であり、これがイコールであるなら、真面目な学生にとっては学習を助ける重要な要素である。

来年度は中止すべきか悩みどころである。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 計測工学
授業コード 57B02-001
教員名 陳 幹
教員コード 100770
登録人数 6
回答数 6
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 1 回

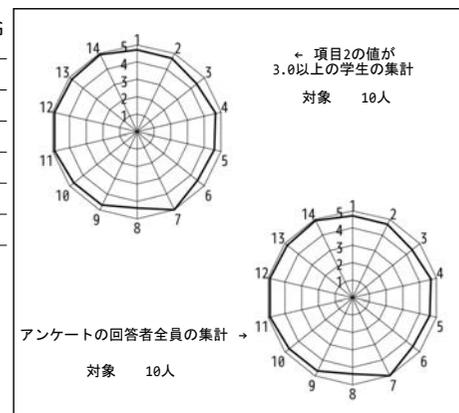


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. シラバスに記載した計画を一部変更した。受講人数が少なく、演習が可能になったので、インクリメンタルエンコーダの演習を行った。当初の計画と異なる内容になったが、当初の到達目標は達成した。
2. 数値データからは受講生は、適切に学習し、おおむね満足していると判断できる。この講義はしっかりとノートをとることを前提とするよう構成し、受講生にもそれを周知した。自由記述欄からは、それが学生から見てもよい方向に向いていることが見受けられる。一方、ノートを取る速度が講義の速度においていないことも自由記述欄からよみとれた。講義の枠組み基本方針は間違っていないと考えられるが、その速度については学生の実力にふさわしくなかった。設問20,21,22の低さからもそれがうかがえる。毎回の講義での小レポートと、予定を変更して追加した演習は学生から見てもよいものであったようだ。
3. 枠組みに問題はなさそうなので次年度も同様におこなう。受講生の人数が少ない場合は次年度もインクリメンタルエンコーダの演習を行いたい。進度を下げることは講義内容の削減と等しいのでこれはおこなわない。受講生にがんばってもらおう。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオールラウンドコミュニケーション[G]
授業コード 11A04-035
教員名 YARDLEY, Gabriel
教員コード 016998
登録人数 24
回答数 10
回答率 41.7%
休講回数 2 回
補講回数 0 回

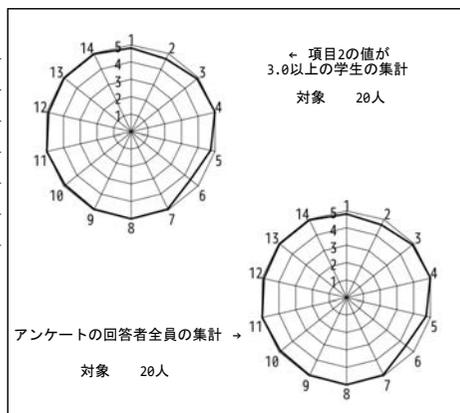


授業評価結果を踏まえた点検・評価

How satisfied participants were with the course is perhaps not completely accurate: despite reminders, several students did not complete the survey. Those that did appeared to find the course motivating and of interest. Responses to Q8 (the lowest score) require the instructor to ensure that he can be heard clearly by all in the classroom. In general, there appeared to be general satisfaction with the course in terms of adherence to the syllabus, the methodology employed, the revised and contemporary teaching materials used and the knowledge acquired. The objectives for this subject as presented in the course outline were met in full. Students appeared to be find the frequency and length of assignments required of them reasonable and appropriate. Regrettably, it was difficult to make up two classes cancelled through illness as students would overwhelmingly have found it difficult to attend on suggested make-up dates. Although unorthodox, a 100-minute extensive feedback and consultation session was nevertheless offered via Zoom at the end of Q4 which some students managed to attend. Overall, except, rarely, for a few sessions immediately following PE classes, students were dynamic and good-humoured, they completed their assignments punctually, participated actively in class activities and were a pleasure to work with.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオールラウンドコミュニケーション[G]
16
授業コード 11A04-037
教員名 MILES, Richard
教員コード 101363
登録人数 23
回答数 20
回答率 87.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

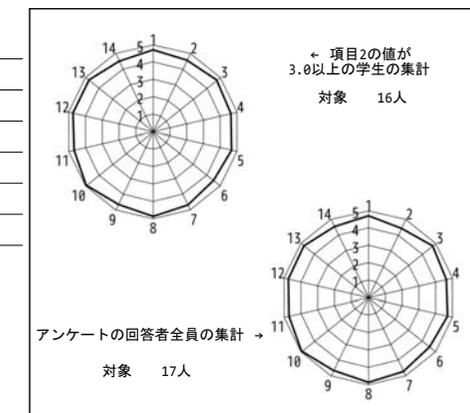
1. Overall, I am very satisfied with the Oral Communication in English IV course evaluations. The students were very positive overall in terms of their comments and the scores they gave the course. The course was designed specifically to help students become more independent English speakers, which I feel has largely been achieved. The students responded to question 13 (acquiring new knowledge) and 14 (overall satisfaction) with a rating of 4.95. As with any English class, there is always concern about the wide range of student levels, so I was particularly pleased to see the students felt satisfied and comfortable and scored question 4 with an answer of 5.00.

2. The written comments from the students were all positive and reflected particular happiness with the atmosphere in the class. The students in this class were very good at working together and were a delight to teach. Many students commented favourably on the listening activities I conducted, involving news articles. Many students also wrote positively about having an opportunity to speak in English, in a supportive environment. I was also particularly gratified to see that the students all felt they had had ample opportunities to obtain feedback and to consult with me (questions 11-12).

3. For next year, I will not actually be teaching this course, but I intend to focus on further encouraging students in all my courses, as some in this Oral Communication in English IV course indicated (question 6) that they were not quite sure how much they had progressed during the course.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]1
授業コード 11A08-032
教員名 DEACON, Bradley
教員コード 046920
登録人数 17
回答数 17
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

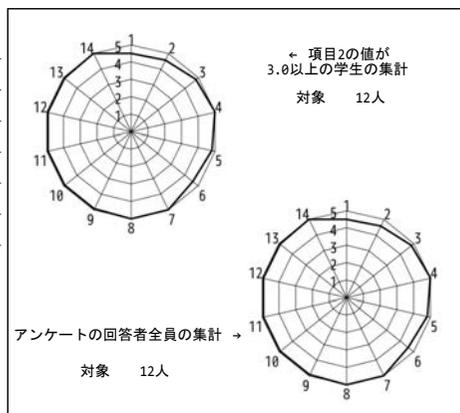
The general goals of this course are to provide students with an advanced level of academic challenge in literacy skills (reading and writing) and other academic skills (critical thinking, learning strategies) in order to successfully write academic essays on academic topics.

From the student data results, the goals of this course were achieved. Their comments suggested that the course stimulated their ability to interact more critically with the content and to formulate their essay arguments both effectively and appropriately in line with the course goals. I was also pleased to notice that students also picked up some "life lessons" from the short lectures that were offered in the course, thus demonstrating their ability to apply the course content more meaningfully to their lives outside of the classroom.

As I will be teaching a lower level course in literacy next year, one challenge will be to adapt the course content to lower level learners while also aiming to still meet the overall goals of the course.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]5
 授業コード 11A08-036
 教員名 鹿野 緑
 教員コード 101092
 登録人数 23
 回答数 12
 回答率 52.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

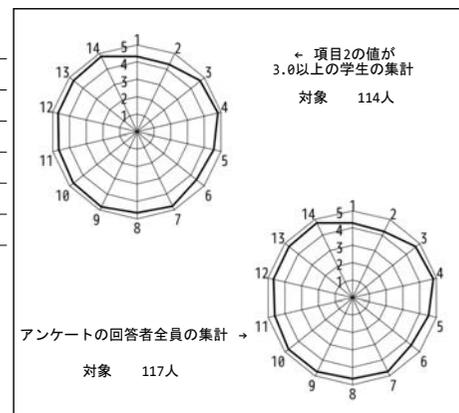


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 学修目標は、例年通り、アカデミックな内容（環境・文学作品）の読みと、英文ペーパーライティング（narrativeとargumentative）をAPAフォーマットに則って書けるようになることであった。読み取りはもともと基礎力のある学生が多く、きちんと読めていた。発展的に、英詩や寓話を構造を捉えながら味わったり、自分の好きな洋楽のリリックを分析的に読むなど楽しむことができた。一方、書く点においては、細かな作業を積み重ねていくことができた学生は完成度の高いもののができあがっていたが、出席が安定しない学生は、滞りがみられた。
- ② 総合的には、学生の習熟度と取り組み度のばらつきをもう少しコントロールする必要があった。教科書内容が短く易しいものであったようにも感じられ、「アカデミックな深さのある長い教材」が必要だったようにも思う。授業評価集計によれば、項目1～14平均が4.85、項目3～14平均が4.90とある程度満足のいく数値であり、クラス自体は生産的であった。
- ③ 次回は、もう少しチャレンジングな教材を多く準備し、言語経験の少ない学生には使う理由づけのあるタスクを準備することなどが、改善点である。留学や国際科目群、英語での学びを視野にいれた方向付けをし、2年以降のカリキュラムとの結びつきを自覚させるような組み立てをしたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相8
 授業コード 13C04-008
 教員名 林 徳仁
 教員コード 104615
 登録人数 359
 回答数 117
 回答率 32.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

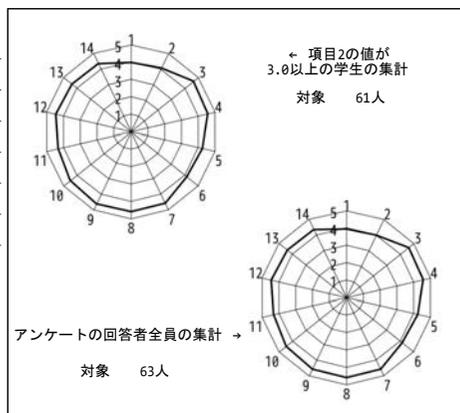


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 本授業は、現代韓国社会の形成と変動の観点から韓国社会の特徴について理解を深めることを目標とした。毎回の授業の後に提出されたコメントペーパーと期末レポートから判断すれば、多くの受講生が、授業前と比べて、現代韓国社会への関心を高め、韓国の現代社会に対する理解度が上がったことがわかった。ゆえに、開講当初に設定した目標に到達したと考える。
- ② 全項目平均は4.61、項目3から14の平均は4.67であった。これは、国際教養学部科目の平均（それぞれ4.66、4.71）より、やや低い評価であった。しかし、質問項目1の授業を履修する前の授業内容についての興味において4.30であったものの、質問項目14の満足度は4.75であったため、概ね肯定的な評価を得たと理解している。特に、自由記述の回答から「写真や映像などの補助教材があり非常に充実していた」、「現代韓国についてさまざまな観点から詳しく学ぶことができた」、「楽しく授業を進めてくださった」、「人数が多いが、しっかりと対応できていた」などのコメントを確認でき、学生にとって有用な授業になったと判断できる。
- ③ 本授業は、多人数かつ受講生の専門分野や学部も多様であったため、学生の興味・関心を満たすための授業をどのように設定するかが課題であった。そのため、学生の理解度把握のための工夫として、授業内容に関する質問を問いかけ、またコメントペーパーやズームでのチャット機能を使用しての意見交換の機会を作るようにした。しかし、全ての質問に回答することが難しかったため、次回の授業からは、時間的な制約に関して見直すことにより改善したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境と倫理問題4
 授業コード 13D01-004
 教員名 神崎 宣次
 教員コード 103280
 登録人数 254
 回答数 63
 回答率 24.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

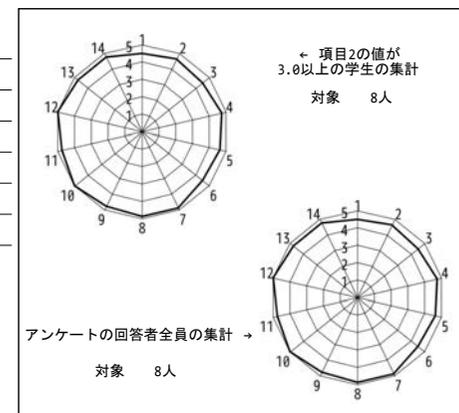


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度については、十分に達成したと考えている。
- 2) 総合的な自己評価としては、内容的にはやや難しいところを含んでいるため脱落する受講生もかなりいるが、授業アンケートの回答を見る限りそちらに合わせて水準を下げる必要はなく、適切であったと考える。
- 3) 授業で扱う情報量は年々増えている。過剰になりすぎないように、一定の整理が今後は必要と考える。授業内容の方針としては、これまでと同様に、できるかぎり授業時点で生じている出来事も十分にカバーする内容にしていく。成績評価の方法については、改善の余地もあるかと考えているが、大人数授業という制約を前提すれば現在の方式が適当であるだろう。また来年度については水曜1、2時間目の連続2時間の縦置きになるので、授業の区切りが2コマごとにくるような内容構成を検討する必要があるかもしれない。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS中級インドネシア語III
 授業コード 48A47-001
 教員名 森山 幹弘
 教員コード 100090
 登録人数 8
 回答数 8
 回答率 100.0%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回

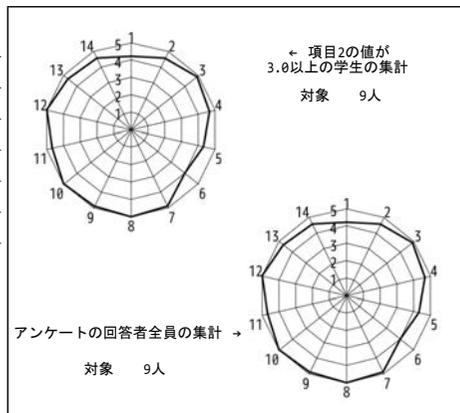


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では当初に設定していた目標は、学習してきたインドネシア語の文法知識を活用してエッセイや小説などの文章を読み、文法知識の定着を目指すとともに、ある程度のまとまったインドネシア語の文章を読むことができる能力を養うことであった。8名の受講者のほとんどがこの到達目標に達することができたと言える。しかし、ごく一部の学生については十分に到達させることができなかったことが課題である。学生のやる気を引き出すこと、丁寧な説明を心がけて理解を促すことなど、次年度の授業では一層の工夫をしていきたい。少人数の授業であるが故に受講者に呼びかけた結果、全員の学生がアンケートに参加してくれたことは良かった点である。また、自由記述からこの授業のねらいと目標が学生に正しく理解されていたことが窺えることも喜ばしいことである。しかしそれは全員にではなく、全員が到達目標に達すべく、今後はより丁寧な授業運営を心がけたい。新カリキュラムとなって初めてのインドネシア語の授業の一つであったが、インドネシア語とその社会と文化に興味を持ち、約2年間のインドネシア語の学習の後に、3年次に開講される「GLSフィールドワーク」に参加を希望する学生を多く出せなかったのは非常に残念である。彼らの興味を引き出し、もっとインドネシアのことを学びたいと思えるような授業が提供できるように改善していきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Topics in GLS C1
授業コード 48A50-001
教員名 塩寺 さとみ
教員コード 104489
登録人数 10
回答数 9
回答率 90.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業のねらいは国際教養学科で扱われる専門分野の内容を英語で学ぶ力、とりわけ専門的・学術的内容の著書や論文を読む力を養うことである。本授業では特に地球環境および生態学に関する内容を扱った。到達目標は以下の4点である。

By taking the course, students will be able to:

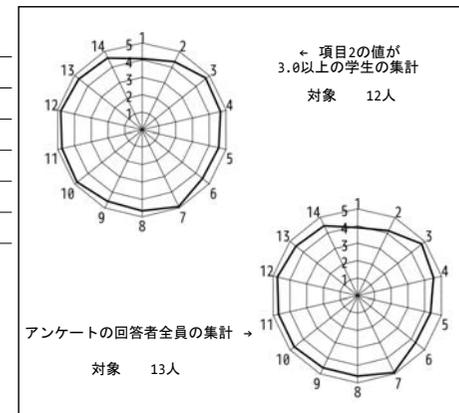
1. attain a functional level of literacy in reading academic articles and books
2. increase academic vocabulary and terminologies
3. build the academic foundation in English to prepare for future learning and research
4. become familiar with conceptual frameworks related to the selected discipline

本授業評価において、4～5評価は「到達目標の理解（設問5）」では100%、「到達目標の達成（設問6）」では89%であった（回答者9/10名）。本授業は今年度から新規に開講されたものであるが、これまで詳しく学んだことのない専門分野について、英語で精読を行うという非常に挑戦的なものである。このため、授業の到達目標については十分に理解されていたものの、教科書の内容を理解するのに大変苦労する様子がみられ、「到達目標の達成」には至らなかったという印象を持たれたようである。しかし、少人数の利点を生かし、毎回、教材の内容についての質問の時間を取り、何らかの形で全員に発表させるなどの工夫を行ったため、学生の英文読解技術の向上、および生態学という分野についての理解を深めることができ、全体として十分に学習の効果を挙げることができたと考えている（項目15の回答参照）。

今年度の授業により、2年次の学生の英語学習の習熟度を把握することができたため、来年度はそれに合わせて教材や授業内容を改善する予定である。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Topics in GLS C2
授業コード 48A50-002
教員名 MUNSI, Roger Vanzila
教員コード 101925
登録人数 23
回答数 13
回答率 56.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

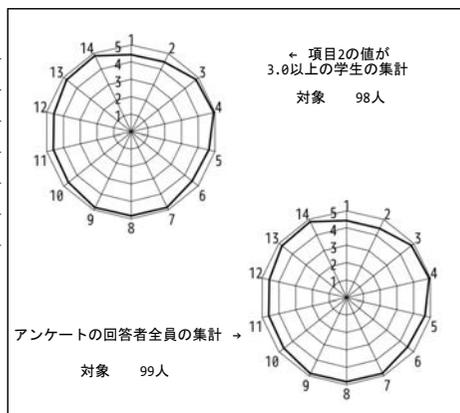


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course on Topics in GLS aimed to empower students to develop their reading and writing skills in GLS from the perspective of the anthropology of sustainability. After a background information on anthropology, its theories and methods, I motivated students, through selected reading materials and lectures, and two required individual essays, to enhance their knowledge of how anthropology can contribute to sustainable development of local communities. This illustrated by some case studies gleaned particularly from Asia and Africa. I am happy that most students were satisfied with the course and testified to have received necessary input from anthropology of sustainability. This has been in fact reflected on their individual essays and final term reports. My overall impression is that students participated actively in the lectures, though a slight number of students remained passive. Questions and reflection papers from students also allowed me to constantly review some lessons or chapters of the course to allow the overall comprehension of the issues. Given that this course was taught for the first time, I take into consideration some shortcomings mentioned by students and try to improve those areas in the future. It could be stated that not only students learned much from this course, but I have greatly improved my knowledge in the field of sustainability after researching on the various topics and reading the feedback from students.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 シティズンシップ論 / Citizenship
授業コード 48B09-001
教員名 大竹 弘二
教員コード 101968
登録人数 170
回答数 99
回答率 58.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は国際教養1年次生を対象とした必修科目である。私が担当するのが恒例となっているが、150名を超える1年生全員が履修することに伴う授業運営の難しさをつねに感じている。必修科目である以上そもそも授業のテーマに興味のない学生も履修していることを念頭に、なるべくそうした学生も授業内容に関心を持てるよう、身近な時事的な話題を多く例示したり、映像資料を多用するなどして、飽きない授業を心掛けた。それでも授業に興味を持ってない学生もいたようだが、総じて悪いリアクションはなく、安堵しているところである。また、授業の双方向性を確保するため毎回授業のリアクションペーパーを求めた。読むのは大変であったが、授業で扱ったテーマに対して学生たちが自分たちなりにいろいろ調べ、思考を深めてくれている様子が分かり、私も得るものが多かったし、学生たちにとってもある程度有益であったのではないかなと思う。

ただし、授業テーマについて学生たちが相互に自分たちの意見を交換し、互いに議論を行う機会が作れなかったのは残念である。これだけの大人数の履修者だとディスカッションなどのアクティヴ・ラーニングを行うのはたしかに困難であるが、とはいえ学生同士がお互いに何を考えているのかを知り合う機会をもう少し作るべきであった。また、毎回時間が足りずリアクションペーパーへのフィードバックも十分に行うことができなかつたので、この点も来年度以降の改善点である。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法学演習BII
授業コード 44D04-003
教員名 永江 亘
教員コード 103861
登録人数 4
回答数
回答率
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、これまでのゼミでの成果を踏まえ、個人で設定したテーマについて、自ら資料収集・分析・プレゼンテーションの構築を行うことを目標としている。商法学のすそ野は広く、広く企業が関わるジャンルであることにかかわるテーマという形で進めているので、学生たちはそれぞれ個性的なテーマを設定する。比較的新しい問題を好む傾向にあるが、その場合には、このような制度や社会的現象の発生の背景にはどのような時代背景・社会制度等があるのかを探るうえで、過去の知見を活用する場面があり、学生たちは当該テーマに従ってこのような知見に触れる機会を得ることを企図している。本演習でのプレゼンテーションを見る限り、上記狙いには、一定の成果が見られているように評価できる。

次年度以降は、学部内の講義改訂により、本講義は不開講となるが、より深化した形で開催される次年度の演習に、本講義での経験が生かされるべきであると考えている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 司法特修講義II
授業コード 44N02-001
教員名 北川 ひろみ
教員コード 101017
登録人数 9
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

当職は、司法特修講義Ⅱの内、6、法律実務②を担当したのみであるため、本報告書は、当職の担当した上記授業（法律実務②）限りでの報告となることを冒頭で申し述べます。当職の授業では、学生に対し、民事を中心に、法的思考方法、法律文書の読み方・書き方などについて講義を行い、検討を促しましたが、学生の発言の内容などから、それらについて一応の理解をしていると思われました。学生の中に多少のばらつきはあるだろうと推測しますが、一度の授業ですからそこまでの判断はできておりません。当職は本年度が初めての担当でしたので、学生の知識レベルなどを十分に把握できていませんでしたが、次学期については、本年度の経験をもとに、より実践的な授業が可能ではないかと考えております。具体的には、過去の司法試験を参考に、複雑かつ多角的な思考の必要な事例を提示し、事実認定と法的評価、それらを口頭及び文章で言語化する作業などの実践を検討したいと考えております。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 司法特修講義II
授業コード 44N02-001
教員名 久志本 修一
教員コード 101928
登録人数 9
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

② 学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

法律実務③の1コマを担当し、法的思考・法律文章のライティングの基本をテーマにレジュメ（パワーポイント）を用意し、レジュメに従い授業を行ったが、学生の受講態度は大変真面目であり、教員からの質問に対し、各学生からはしっかりと受け答えがなされ、予定していた授業内容を終えることができた。学生においては、授業内容について基本的な理解はなされたものとする。法律実務の3コマを3教員で分担して行っているため、来年度は、今年度の結果を踏まえ、法律実務に関する授業内容については、さらに3教員間でのすり合わせ、調整が必要と考える。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 司法特修講義II
授業コード 44N02-001
教員名 杉浦 徳宏
教員コード 104634
登録人数 9
回答数
回答率
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

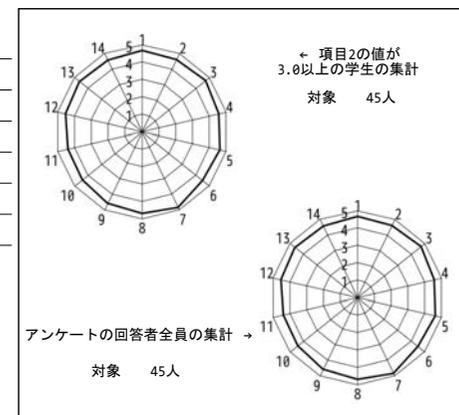
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講座における当職の役割は、いかに法曹（法律家）が魅力的で目指したい進路であるのかを1年生に実感させるものである。そのため、司法試験合格から裁判官として転勤してきたことの自己紹介とこれまで勤務した裁判所と法務局の紹介をした。裁判所については最高裁のホームページからデータを取り出して三審制、職員数等を説明し、さらに民事裁判の現状を説明した。法務局については大阪法務局時代に作成したパワーポイント「ゆりかごから墓場まで」を使用して説明した。その上で、明治維新後、早期に不平等条約を改正するため、明治政府は西洋の法制度を直輸入したこと、その過程でお雇い外国人や留学帰りの学者に依頼して急いで民法刑法などの基本法を作成したこと、その結果法律が国民に分かりやすいものでないこと、専門家でないと法律および法制度が理解できない歴史があることを説明した。

噛み砕いて話したつもりだったが、反応からみると難解であり十分な理解が進まなかったと反省している。来年度はもっと分かりやすく説明したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教職入門2
授業コード 15A02-002
教員名 宇田 光
教員コード 100494
登録人数 52
回答数 45
回答率 86.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

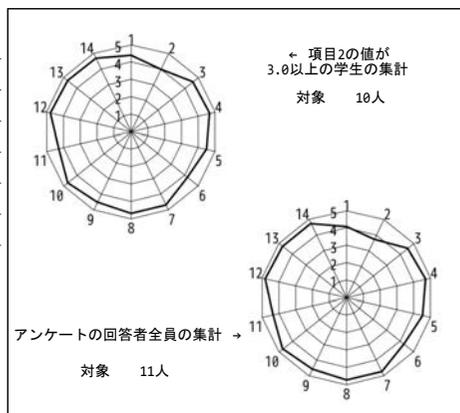
教職課程を受講する学生向けの入門科目である。前半がBRD方式を用いた講義、後半がグループ・プロジェクトとなっている。項目1から14の平均値は4.60と、ほぼ良いとの評価である。筆者の例年の数値や、資格科目の評定平均と比較しても大差ない。

自由記述で良かった点を指摘した人は多数あったので、抜粋を以下に示す（いずれも原文ママ）。授業レポートのために自主的に予習する姿勢を推奨しており、その効果があったと感じられること。/先生の細かな仕事についてしれた/自分の書いたレポートに評価を貰えることでモチベーションに繋がったこと。/グループワークやペアワークが多くあったこと/授業の進行速度が適切だった。/主体的に授業に取り組むように授業構成がされていた点。一方、改善すべきとされた指摘は、次の2点のみであった。「レポートを書く時間が設けられていたが、学生の私語が多いにも関わらずそのままだったことが何度かあり少し煩わしかった。」「話し合いが終わると、やる事がなくなるためおしゃべりで時間をつぶさなければならないときがあった。」

私語に関する指摘があったのは久しぶりだった。以前に何度か意見があって改善したが今回は少々油断したかもしれない。グループワークの運営とあわせて、あらためて改善したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 学校カリキュラム論2
授業コード 15A06-002
教員名 米津 直希
教員コード 104277
登録人数 35
回答数 11
回答率 31.4%
休講回数 2 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

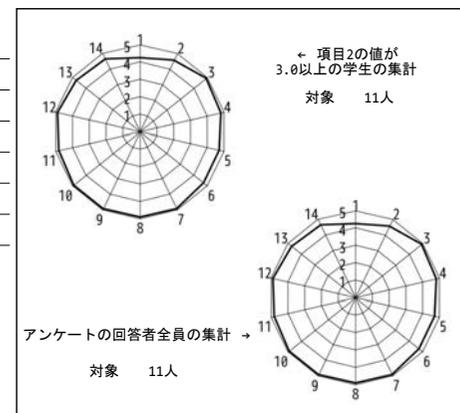
開講当初に設定していた目標については、提出された感想および最終レポートなどからある程度達成できたと思う。教育課程の変遷を踏まえながら、教育課程における現代的な課題について、受講者なりの課題を組み立てることができていた。

アンケート結果からは、概ね問題なく授業を実施できたと思料する。受講生数に対して必ずしも回答数が多くない点については留意する必要があるが、本授業では毎回の授業の感想提出の際に、学生からの要望と授業評価を実施しているため、ある程度は学生の声を反映した授業を実施できていると考える。また、学生同士、学生と教員のコミュニケーションを重視した取り組みを行っている点については例年通り好評だった。ただし時間外の学習の促進については引き続き重要な課題である。

時間外の学習を促すことができるような工夫を行いたい。3年生を主な対象とした教職科目であることも考慮して、教員採用試験につながるような時間外学習も取り入れることで、学生のやる気を引き出したい。本授業では授業者の体調不良により休講が2回続いたため、そうした際のケアについても検討していきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 道徳教育指導論2
授業コード 15A07-002
教員名 笹尾 幸夫
教員コード 103858
登録人数 30
回答数 11
回答率 36.7%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

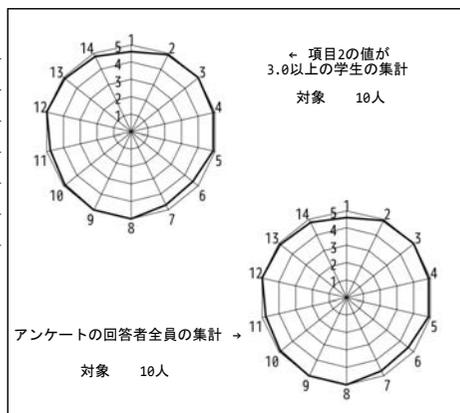
「特別の教科 道徳」は他の教科指導と異なるところがあるため、道徳とは何かから説明し、熟練した教員による模範授業の視聴を2回実施し、学生による模擬授業実習を取り入れている。

27名の受講者中、アンケートに回答した学生が11名と少ないが、平均値4.8と高い数値であった。2018年度Q2は4.0、2019年度Q2は4.5であったため、理由として、2019年度から学生による模擬授業を取り入れていること、この授業の指導が5年目となりポイントを押さえた指導ができてきたことなどが考えられる。学生の自由記述にも、内容がとても分かりやすかった、レジュメが分かりやすいなどの記述が見られた。また、受講者が27名と春学期の76名より少なく、模擬授業を1班あたり3~4名の少人数で実施できたことも高い数値につながったと推察できる。

今回、台風による休講があり、また特別支援学校での介護等体験のため出席者が少ない授業が1回があったが、成績面では従来とほぼ同等の成果が現れている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]1
授業コード 11A08-020
教員名 TAYLOR, Jamie
教員コード 104100
登録人数 22
回答数 10
回答率 45.5%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

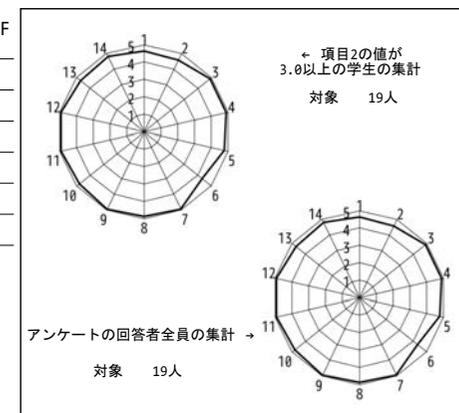


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Goals for this quarter included reading 4,000+ words a week in English, writing two essays with multiple drafts, passing a vocabulary quiz over words practiced in class, and improving writing fluency. Most students were able to write their drafts successfully and get a good score on the vocabulary quiz and timed writing/fluency assignments. Some students far exceeded the 4,000 words/week reading goal, while a few had some difficulty meeting the goal. Next year, this course will have regular deadlines for essay drafts, and more of the assignments will include topic and format choices. The same textbook will be used throughout all four quarters. I also hope to have time each quarter to conference with students one on one about their writing.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションズスキルズ[F
A, FF, FS, FG]3
授業コード 11A12-017
教員名 都築 千絵
教員コード 103924
登録人数 20
回答数 19
回答率 95.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

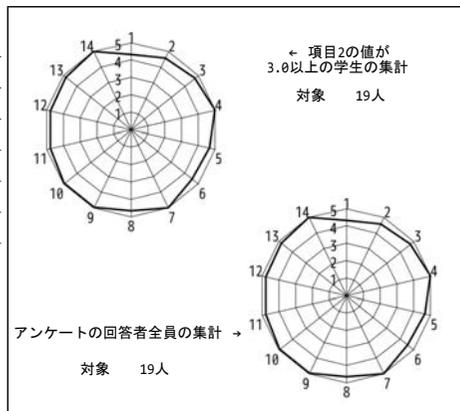


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① このクラスは通年の必修科目であり、今回Q4での授業評価アンケートなので、設定目標と到達の程度をはっきり比べることができる。目標はCan-doの形で27項目に渡り細かく設定されていたが、その内容全部をカバーすることができた。学生の到達度は、当初からの英語力の差はあるものの、授業に参加した全員が到達できた。
- ② ほとんどの学生が5か4を選択した中で、設問3から設問14の中で、設問3、設問8、設問10で3を選んだ学生がいた。設問3については、終了時間がランチ時間に少しかかってしまったことがあった。設問8は、マスクをして話しているため、後ろの席では聞きにくいことがあったのかもしれないので今後気をつけたい。設問10に関しては、授業の妨げをするような学生はおらず、対処する必要もなかった。
多くの学生が書いた自由記述では、ポジティブなことばかりだった。質問や相談がしやすく授業の雰囲気が良かった、ペアワークやグループワークでクラスメートと仲良くなれた、英語の授業が楽しく思えた、説明が丁寧だったなど嬉しいコメントが多かった。またZoom授業で使っていたスマホで行う語彙クイズを対面授業でも使い好評であった。
- ③ 学生の授業評価は概ね良かったので、これからも一人一人の学生としっかり向き合い、自分も楽しみながら学生の英語スキルを向上させることができるようしっかりと授業準備をしていきたいと思う。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションズ[E]
12
授業コード 11A12-026
教員名 HOWREY, John
教員コード 100371
登録人数 24
回答数 19
回答率 79.2%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is designed to improve students' overall English ability, particularly speaking, listening, and reading skills. Students worked on reading strategies, vocabulary building, reading for speed, and reading aloud. They wrote reports of extensive readers and shared them with classmates. Students also learned and practiced speaking strategies for starting, maintaining, and concluding conversations, and gave two short presentations each quarter.

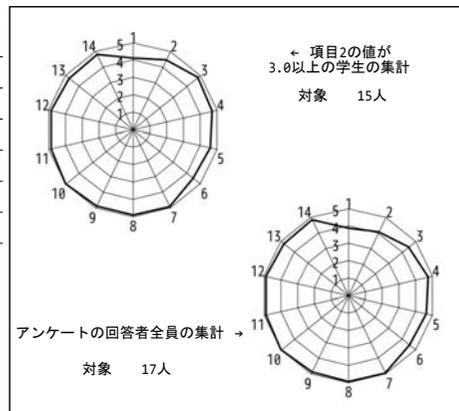
I was very pleased and pleasantly surprised with the results of the questionnaire. The scores were high in every category, with questions 7 (classroom management) and 14 (overall satisfaction) receiving a “5” from all 19 respondents.

Students commented that my English explanations were easy to understand, that I made things fun, and that I gave them many opportunities to use English in class. They seemed to enjoy the active learning approach to the class. One negative comment, which is fair, is that after a while the activities seemed repetitive. Since this was quarter 4, this is perhaps to be expected, but I will think of ways to keep things fresh and to experiment more with other kinds of projects.

Most of the students in the class were active, attended regularly, and could improve throughout the year. Sadly, there were 3-5 absences in most class sessions, perhaps because of the lack of an attendance policy. This is also why only 19 students responded to the class survey.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションズ[T]
19
授業コード 11A12-057
教員名 KUMAI William N.
教員コード 000204
登録人数 22
回答数 17
回答率 77.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

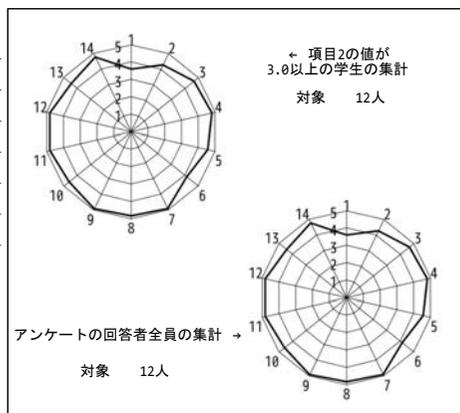


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Persuasion was the main communication goal of Q4 and students understood the various techniques that could be used in a variety of settings. The biggest event was having the Crossfire Debate. In Crossfire Debate students had structured interaction between Pro and Con sides, but then had free-flowing conversational debate during the Crossfire, where they are able to use the conversation skill learned in earlier quarters. The other big event was having a job hunting simulation, where job hunters had to persuade interviewers that they were the correct fit for the job being offered. The numerical data showed a high evaluation of the class but a low self-evaluation of the students. This matches the expected profile for students of engineering and computer science, for whom learning a foreign language is not a priority. The comments trended positive, which reinforced the methods used in lessons, that of emphasizing practical communication over textbook exercises. As for improvements for next year, students should be reminded of the preparation necessary to succeed in the various activities in English communication. This need emerges from the low self-evaluations the students had.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 科目名 | 英語IVコミュニケーションスキルズ[H A, HP, HJ]15 |
| 授業コード | 11A12-062 |
| 教員名 | GAGNON, Greg |
| 教員コード | 103474 |
| 登録人数 | 22 |
| 回答数 | 12 |
| 回答率 | 54.5% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

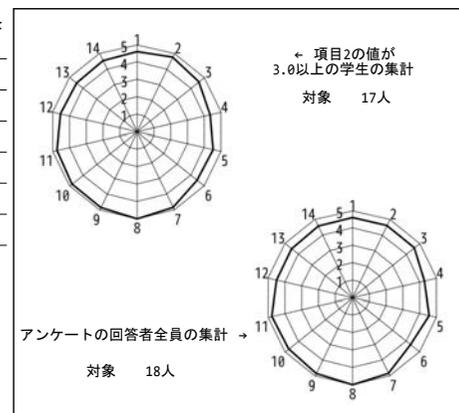
The goals of this course are to increase students' ability to use and understand the English language through communication activities and reading principles. As for the first goal, we used a textbook designed for that, and as for the second, I used of sustained, silent reading as means for students' reading stamina and enjoyment.

In the student evaluation, the first question response was an above average interest in the class. Students registered a 4.83 when asked if they thought the class speed and content were appropriate. One commented: 分からないことについてしっかり教えてくれた。 A score of 4.58 was given when asked if the goals of the class were understood; 4.17 thought they grew stronger because of it. For question 7, 4.92 was given for instruction sincerely towards the subject. Scores to other questions were also high. Students were asked about sustained, silent reading time, and the results were positive, with one student answering: "The silent reading time is nice."; and another: "It was fun with lots of group activities. I was happy that you made time to read an English book for 20 minutes."

I will use a different book for communication skill, and continue to use sustained silent reading.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|--|
| 科目名 | 英語VIコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]1 |
| 授業コード | 11A14-001 |
| 教員名 | ELLIOTT, Darren |
| 教員コード | 101579 |
| 登録人数 | 21 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 85.7% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



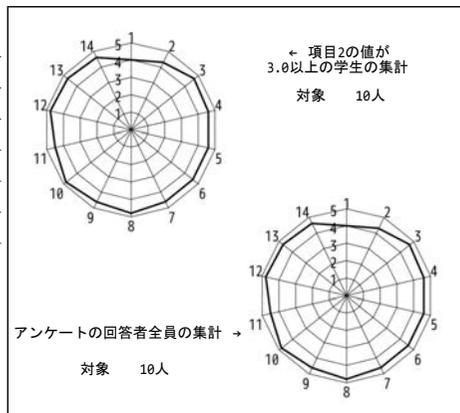
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was a new class for me, and although the feedback is positive I feel like I have a lot of improvements to make. The students were more proficient than I expected, so I changed my original plans and made the class tasks more demanding early in Q3. The students reported that they were satisfied with the level, and also that they liked that I gave them freedom to choose from different activities. I would like to retain this level of autonomy in next year's class, but within a tighter structure and with more guidance. Because this year's class was a little loose, the amount of autonomy students were afforded came at a cost to the the amount of feedback I was able to offer.

I will rework my (self-designed) textbook materials to include a portfolio, in which students can gather their work in one place. This will allow both the students and myself to keep better track of their progress, as well as recording in writing the decisions they make over assessed tasks. For example, this quarter students were offered a choice between completing Extensive Reading through MReader online, or through written / video book reports. By formalising this in a 'contract', I will be better equipped to offer guidance.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]5
授業コード 11A14-005
教員名 CAPITIN-PRINCIPE, Abigail
教員コード 102955
登録人数 22
回答数 10
回答率 45.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

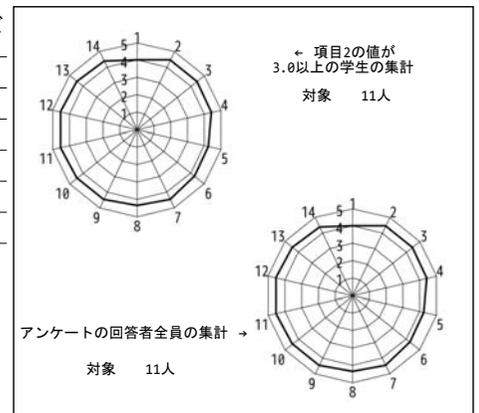


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the start of the course, were for the most part, achieved. The concepts discussed in class met the goals set at the beginning of the quarter, there were enough speaking and reading activities done. English was always used as the medium of instruction and discussion in the classroom. The students were engaged in learning from the textbook and the online materials. Quizlet was particularly popular for some students, and this helped in vocabulary learning. Looking ahead, I plan to continue the activities that help students use English comfortably, encouraging the use of English in daily life. Activities will be done to develop language use and understanding, and to further improve their communications skills in English, in and out of the classroom.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIIコミュニケーションスキルズ
[T]2
授業コード 11A16-002
教員名 PEO, Jared
教員コード 104673
登録人数 22
回答数 11
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of the class were achieved for the most part. I was most satisfied with the participation and effort that most students showed in class.
2. Despite the evaluation being positive, I felt the students were burnt out by the end of Q4. Next year, I hope to focus more on feedback and find a way to keep them focused at the end of the year.
3. As I said above, I want to focus on feedback. I believe students struggled with understanding assignment requirements and my expectations for in-class participation (especially in Q1 & Q2). I also want to find a way to connect to their interests. Most of the students were men, which was different from my other courses. Thus, I would like to find more ways to bring their field and knowledge into the content.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|------------------|
| 科目名 | 英語IIディスカッション2 |
| 授業コード | 11A20-002 |
| 教員名 | TIDMARSH, Andrew |
| 教員コード | 104101 |
| 登録人数 | 11 |
| 回答数 | 2 |
| 回答率 | 18.2% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 1 回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

For this course, there are 2 main goals: to improve students' discussion skills in English and to raise their capabilities in applying critical thinking skills.

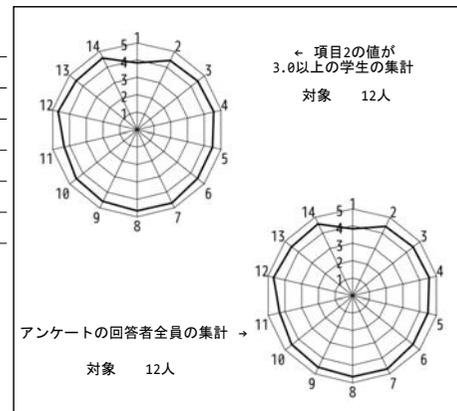
From looking at the final reports and final discussions, it is clear that there has been some improvement in both for most students in this class.

Unfortunately, because the group was small and many students were absent during the course, it is difficult to come to conclusions based on the data provided. I'm afraid that many students clearly took advantage of the lack of S grades this year, and it was rare when more than 50% of the class roster attended at the same time.

In the next quarter, if we are still unable to use the S grade, I will add vocabulary tests to every single class as a way of pushing students to attend.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|------------------|
| 科目名 | 英語IIディスカッション3 |
| 授業コード | 11A20-003 |
| 教員名 | 加藤 尚子 |
| 教員コード | 103630 |
| 登録人数 | 19 |
| 回答数 | 12 |
| 回答率 | 63.2% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講当初に設定していた目標の到達では、学生がトピックについて自分の意見を明確に述べ理由・事例を挙げ論理的にサポートをする。また、文献を用いる時には、習得した情報を要約してあくまでも自分の意見をサポートするツールする方法の目標はほぼ達成したと思われます。また、自分の意見だけでなく、相手の意見を尊敬の意をもって発表する機会を持つという事の目標もほぼ達成する事ができました。しかし、その一方で適格に反論する方法については到達するにはまだ指導が必要であると思われます。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

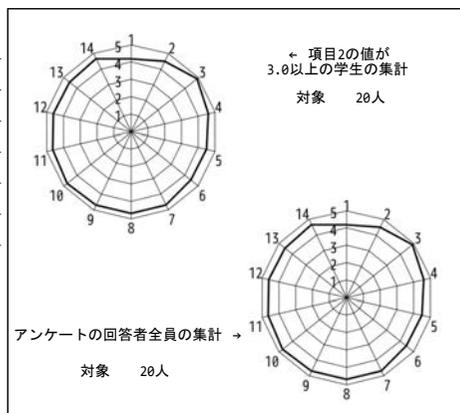
設問1によりますと、履修前から学生がこの授業の内容に興味があまりなかったという事が判明いたしました。その為、学生の意欲を促す資料提供と指導の向上に力を注ぐべきだと思われます。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

前記の様に、学生の興味が授業の内容に対してそれほど高くない事を踏まえ、より細やかな的確な指導と資料提供に力を注ぎます。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全・T>4
授業コード 11A24-004
教員名 LEAR, Christopher Adam
教員コード 104290
登録人数 24
回答数 20
回答率 83.3%
休講回数 0回
補講回数 0回

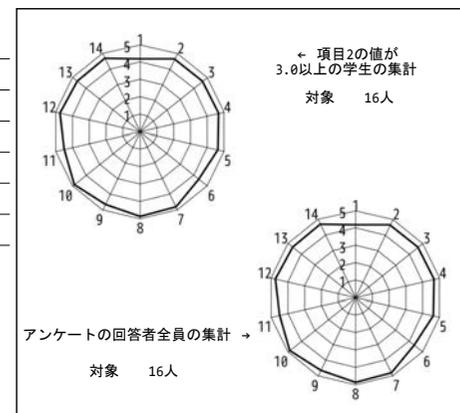


授業評価結果を踏まえた点検・評価

All goals set at the start of the course were achieved.
Looking over the data, I believe my course successfully introduced the concepts of reading-related signposts and how to deal with them in unfamiliar text.
I will continue identifying and refining activities that achieve the course goals in future courses.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全・T>8
授業コード 11A24-008
教員名 中田 晶子
教員コード 055624
登録人数 22
回答数 16
回答率 72.7%
休講回数 0回
補講回数 0回

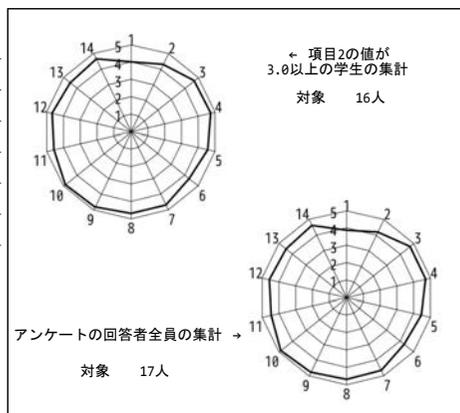


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① この授業では、より高度な英語の読解力を身につけることが目標である。効果的かつ適切に内容を理解する力と批判的思考力を身につけ、アカデミックな語彙を増やすことを目指した。「到達目標の理解」は4.63、「到達目標の達成」は4.38だった。最終成績からは、8割の学生がおおむね目標に達したと判断される。
- ② 項目1から14の平均が4.63、3から14の平均が4.67、それぞれ開講主体の平均数値と同じであった。項目13「知識・理解の深まり」が4.63、項目14「全体としての満足度」が4.69となり、数値的には、学生にとってある程度以上満足できる授業となった模様である。自由記述では、良かった点として、講義がわかりやすかった、授業の進度が適切だった、単語テスト・対話練習・リスニングで語彙が定着した、プレゼンテーションがよい経験となった、があげられた。教材は今回初めて使用したもので、使われている語彙の難度が高いものであったが、消化不良にならずに終わったようである。他に課題の説明が口頭だけでなく、WebClassに詳しく記載されていたことを評価する記述があった。
- ③ 単位未充足となった学生はほとんど授業に出席しなかった場合が多いが、中には途中まで出席し、通常の課題も提出しながら、最後の方で力尽きて諦めたいらしいケースも見られる。後者の学生をできるだけ脱落させない方を工夫したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全・T>12
授業コード 11A24-012
教員名 丹羽 牧代
教員コード 055715
登録人数 24
回答数 17
回答率 70.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は選択科目であり1年生から4年生までが登録するので、毎回焦点を合わせるのに苦労しているが、今回もまずまずの評価であった。

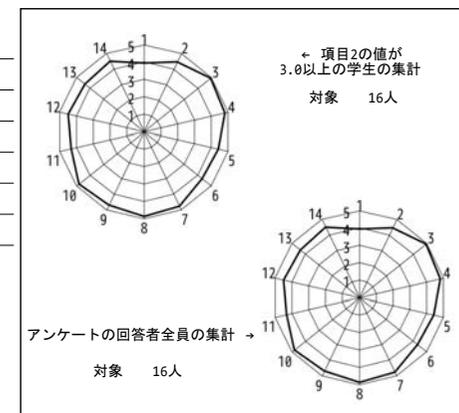
① 毎回シラバスの目標となっている、ゴールに合わせた問題を配布して到達度を見ていたため、回ごとの理解度のチェックにより、一番のゴールである「英文の全体構造をどうやって見わかるか」についてはもっとも学力が上がったところであることを確認している。ただし、ゴールのひとつになっているcritical readingに関しては、全体の底上げこそできたかもしれないが、個々の学生の基礎理解力に差がありすぎて、英文の批評読解として到達してほしかったレベルには届かなかった学生が少なからずいる。

② 選択科目ということもあり、学生の授業前期待値はそれほど高くない。ただ、COVID19の状況下なので、発話コミュニケーションの部分を最低限に抑え、個別のワークやWebクラスの利用などを駆使したことが、逆にこれまでの授業ではできていなかった英文構造の読み取りに焦点をあてることになっている。ロジカルに英文を読む方法・スキルを知り得たことを評価する学生の声から、それが必要な学習でもあったことがわかる。学生のレベルに合わせてながら毎回授業内用を微調整して自己作成教材を利用していくのは、労力がかかるが、結果は出ていると自負している。ただし、学外学習の一環としているテキスト教材付属のデジタルサイトに、今期初めて不具合が出たことで、学生の学習には一部不便・不足があったのは残念であった。

③ この科目担当は今期が最後となるが、学習内容としてはこれくらい歯ごたえのあるテキストの使用継続、外国語読み取りの訓練が肝要ではないかと感じている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリスニング<全・T>2
授業コード 11A26-015
教員名 ELMETAHER, Hosam
教員コード 104289
登録人数 24
回答数 16
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



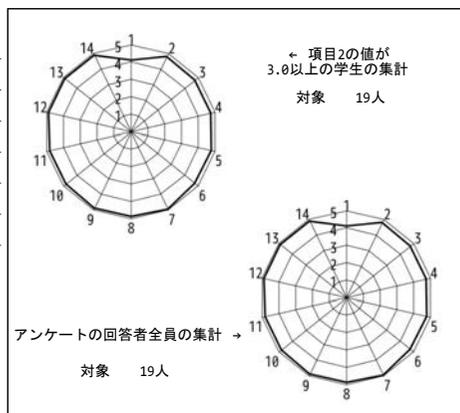
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall
I have taught various English subjects, each with a different specific teaching goal; overall, the main goal is to develop students' academic and communicative English skills. I have developed and used my own teaching materials (e.g., a new multifaced receptive vocabulary test). Students were always well-informed of their academic progress through feedback on their weekly homework, quizzes, progress tests, and final tasks. My classes were always within the designed course syllabus and planned objectives. Students were encouraged to provide feedback in the evaluation of my classes. My teaching materials worked well and the students enjoyed the classes while demonstrating an overall improvement in their English language skills.

For this specific class evaluation
This class was designed to develop students' academic listening skills. The students have worked on different weekly assignments. Assignments include integrated listening and speaking tasks, vocabulary quizzes, and progress tests. Group and individual feedback were provided through both Webclass and individual conferences. Based on the class evaluation, students very much enjoyed the class and have confirmed their listening skills development. For the next quarter, I aim to provide more of progress tests in all my classes.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語IV<J・P>2
授業コード 11C04-009
教員名 KOISEGG, Karl
教員コード 103972
登録人数 32
回答数 19
回答率 59.4%
休講回数 0回
補講回数 0回

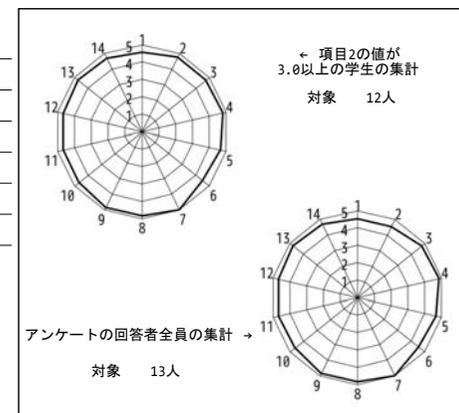


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Since this had been my first year here at Nanzan, it was quite challenging to meet the goals of the lesson plan and create an exam that was appropriate for my students level. I believe, I have tried to understand my students needs and tried to focus on what they needed to learn in order to understand the content of my lessons. At times, when I realized that students struggle with a certain grammar point etc. I created a handout to give my students a deeper understanding. Like some students mentioned in their comments, I made time for students to work with their partner or in groups to actually use German in speaking exercises. I am happy to say, that I am quite satisfied with the tests that I have created and the manner I have taught the class. Not only because I tried hard, but also because I was lucky to work with a group of wonderful students who were interested in the lesson and very respectful towards me. From April 2023, I would like to go over and improve on my worksheets. I also realized that I need to emphasize a little more on some grammar points. I also want to keep reflecting on my work and keep understanding my students needs in order to help them.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(読解)2
授業コード 11L17-002
教員名 山口 薫
教員コード 019406
登録人数 14
回答数 13
回答率 92.9%
休講回数 0回
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、留学生が日本語で書かれた文章を読むことにより、文法の時間に習った文型の定着を図り、語彙を覚え、内容を正確につかめるようにすることである。授業評価の集計結果と実際の到達度を同等に考えることはできないが、項目3から14の平均値の高さ(4.75)から、本授業の目標は概ね達成されたものと考えられる。特に、設問4(授業の構成や進行速度)、設問7(担当教員の授業に取り組む姿勢)、設問9(学生の理解度への配慮、教材の適切さ)、設問13(新たな知識や技術の獲得、理解の深まり)などの項目で高い評価を得たのは、担当教員として嬉しい限りである。自由記述のコメントを読んでも、「読解のトピックが面白い」「以前より日本語の文章が読めるようになった」「イラストや写真を使って、わかりやすく教えてくれた」「日本文化に関する知識を得た」などの評価が多く、受講した学生たちの満足度の高かったことがうかがえる。一方、「改善したほうがよいと感じた点」として、「もっとinteractionがあった方がよかった」との意見もあった。本授業は「読解」なので、もともと相互交流を目指したものではないが、読んだ文章の内容について教員と学生、または学生同士で意見交換するような活動がもっと多くてもよかったのではないかと感じている。来学期以降は、このような点にも配慮しながら授業を進めていきたいと考えている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化との接触6

授業コード 13A02-006

教員名 佐々木 陽子

教員コード 019695

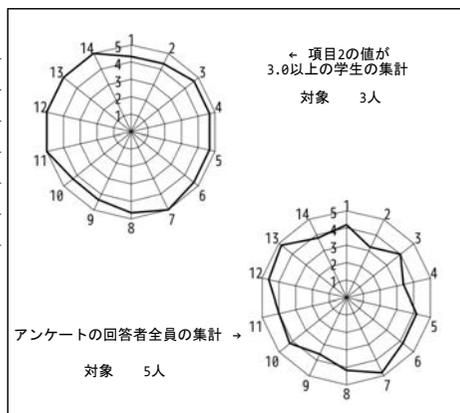
登録人数 19

回答数 5

回答率 26.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年は映画資料を利用し、現地フィールドワークのようなシミュレーティブな授業展開にすることで、知識重視ではなく対話を通じた理解を目指したが、概ね目標を達成できた。

平均点は4.15点(Q3-14)で、最高点はQ7(教員の誠実・真剣さ)4.8点、およびQ13(知識を得、理解が深まった)4.8点、最低点はQ2(予習復習など主体的参加)3.2点とQ4(授業構成や進行速度)の3.4点。イスラエルパレスチナ紛争という複雑な要素の絡み合う世界的課題に対し、世界史や宗教科目を深く学習している学生とそうでない学生が混在するため、映像、写真、証言など資料を組み合わせて提示したものの、理解が難しい部分があったと思われ、基礎的な積み上げ型学習を追加する必要があると感じている。

自由記述で良い点として「内容の充実性」「専門的な詳しい知識が得られた」の記述があり、パレスチナ問題やユダヤ人問題について何らかの既習経験のある学生から評価が高かった。改善要望点として「アクティブラーニングがメインだと初回の授業で言われたが、毎回先生が一方向的にずっと話していた点」の記述があったが、実際には、学生間の議論に一回当たり15-30分程度提供していたうえ、協働ワークとその発表、学生によるプロジェクト発表会(最終回100分全てを提供)が実施されていて、これらに参加していない学生のコメントと思われる。むろん今後はなお一層、ディスカッションの時間帯を確保するように努めたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ科学演習B

授業コード 12D11-001

教員名 笹川 慶

教員コード 103190

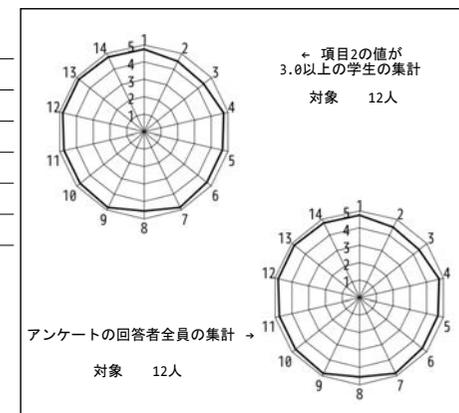
登録人数 25

回答数 12

回答率 48.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について：

設問項目番号6『あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。』の得点が4.67と比較的高かった。また、各受講者のレポートの内容からある程度理解できていたと考えられる。以上のことから、到達目標はおおよそ達成されていたと考えられる。

②について：

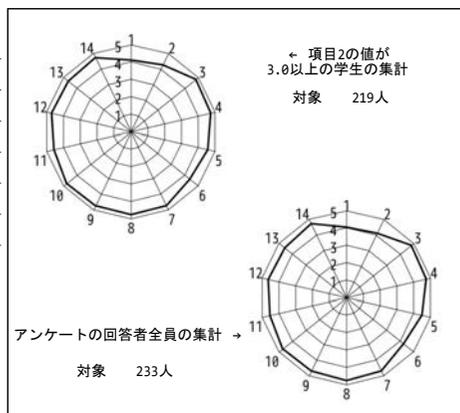
本授業の設問3-14の平均点(4.72)が全体(4.47)と比べて高かったため、本授業は総合的に評価できる。一方、設問項目番号8『授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。オンラインで受講した場合でネットワーク環境が不安定だった場合は「どちらとも言えない」を選択してください。』は比較的平均点が低かったため(4.58)、改善すべきと考える。

③について：

設問番号8については、授業時間の関係上、補足説明が少し早口になっていたかもしれない。次回はもう少しゆっくり・ハッキリ声を出すよう心掛ける。受講者の理解を更に深められるよう、レポートの設問内容、補足説明を改善し充実させていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 人間と環境3 |
| 授業コード | 13D02-003 |
| 教員名 | 加藤 孝基 |
| 教員コード | 104117 |
| 登録人数 | 556 |
| 回答数 | 233 |
| 回答率 | 41.9% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 1 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、履修者多数であったため、定員500人の教室に収容できなかった。したがって、2クラスに分割し、隔回対面にてオンラインの同時配信を行うハイブリッド形式を用いた。さらに、本方式では双方のクラスが理解を深めるのに不十分と考え、講義後に資料をDLサーバにアップロードし、オンデマンドの小テストを行うことで理解度を上げる工夫を行った。成績は、授業参加度、オンデマンド小テスト、レポートをもとに評価した。

① 本講義にて設定した到達目標は、多くの学生が概ね達成できたと考えている。なかでも、実験形式等を用いて進めた講義もあったため、理解がより深まったのではないかと推察する。オンラインで受講した学生については、学習が不十分と考えられたため、翌回の冒頭に復習を行う等のフォローアップを行った。

② 概ね、授業内容に対して満足している回答が散見されたが、一部「ズームで資料が共有されなことがあった」等のテクニカルな不注意についての指摘があった。次回の授業形式にもよるが、これらのミスは極力避けられるよう細心の注意を払いたい。

③ 受講者が多かったために、ハイブリッド形式を用いたが、それにより授業運営が円滑に進まなかったこともあった。当初は不慣れな点が多かったが、講義を重ねるごとに改善できたと考えている。また、講義後に質問を受け付け、翌回冒頭に回答するというのを毎講義で行った。自由記述回答をみてもこれに対してポジティブな意見が散見されたため、これについては次回以降も継続していきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|------------------------|
| 科目名 | スポーツ実技(フィットネス)ストリートダンス |
| 授業コード | 14E06-003 |
| 教員名 | 飯田 祥明 |
| 教員コード | 103610 |
| 登録人数 | 9 |
| 回答数 | 2 |
| 回答率 | 22.2% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

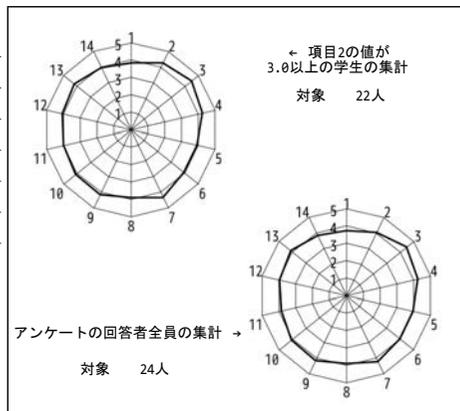
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本科目の設定目標は、ストリートダンスのジャンルとリズムの概念について理解できる、リズムにのってダンスを楽しめるようになる、グループでダンスルーティーンを作れるようになるの3つであった。序盤ではヒップホップやハウスといったジャンルのダンスを、後半ではロックやポップといったジャンルのダンスに取り組み、リズムの取り方を中心に展開したため、1つめの目標は達成できたものと考えられる。2つめの目標に関しても、リズム取りも初回から中盤まで丁寧に取り組み、全員がアップとダウンを使い分けることができていた。3つめのグルーブルーティーンに関しては、受講数が少なかったため、個人ルーティーンかグルーブルーティーンかを選択してもらい実施した。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
毎年Q4科目の傾向でもあるが終盤の時期に体調不良や濃厚接触による欠席者が増え、アンケート回答数が少なかった。より信頼性の高いデータを得るために、web掲示などを活用したい。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
来年度はルーティーンづくりを序盤から実施するほか、危険でないブレイクダンスのスキルも取り入れていこうと考えている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[E]3
授業コード 10A01-020
教員名 DANCAR, Aleksander
教員コード 104655
登録人数 120
回答数 24
回答率 20.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

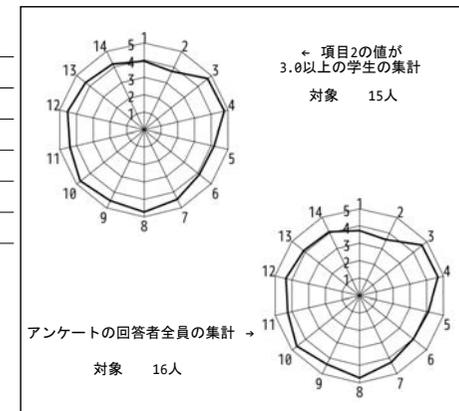


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) 学生のリアクション ペーパーと期末レポートに基づいて、このコースの目標は概ね達成されたと思います。
- 2) 経済学の学生に宗教を教え始めたとき、私が最初に疑ったのは、学生が必要としないことを教えているのではないかということでした。
学生にとっても私にとっても退屈に違いない。それ以外にも、さまざまな形で講義を欠席する学生も多いでしょうと思いました。しかし、私の推測は、私が経験した現実とはかけ離れています。ほとんどの学生が積極的に参加しているため、退屈することはありませんでした。嬉しいことでした。学生は一般的に宗教に興味があることがわかりました。というわけで、今私にはこの宗教論が学生にとって必要であると判断する勇気があります。確かに、宗教論は学問ですが、実際には宗教そのものはすべての人間の生活の不可分な部分であると思います。
- 3) 日本語を上達させ続ける必要性を感じています。もし私が日本語を上手にマスターできれば、このコースは学生にとってさらに役に立つと確信しています。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代の哲学
授業コード 22C09-001
教員名 長滝 祥司
教員コード 100764
登録人数 64
回答数 16
回答率 25.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

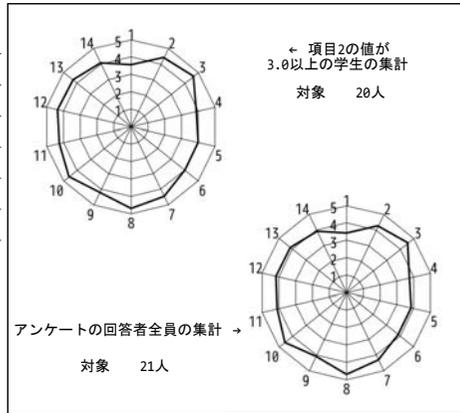


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 授業の目標と到達については、規定回数の質問の内容やレポートの内容から斟酌することができた。概ね到達できていると考えられるが、個々の学生をみると、到達度の高い者とそうでない者とに分かれた。
- ② ほとんどの項目で4を越えているのでその点は満足しているが、2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」の数値が3.56と低めに出た。ときおり質問をするなど参加型でやるようにうながしたが、あまりうまくいかなかった。受講生数にもよるが、もう少し主体的に授業に参加できるよう工夫したい。
- ③ 6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」と14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」とについても、よりよい結果になるように工夫をしたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 統語論 |
| 授業コード | 22C13-001 |
| 教員名 | 田中 秀治 |
| 教員コード | 104125 |
| 登録人数 | 29 |
| 回答数 | 21 |
| 回答率 | 72.4% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

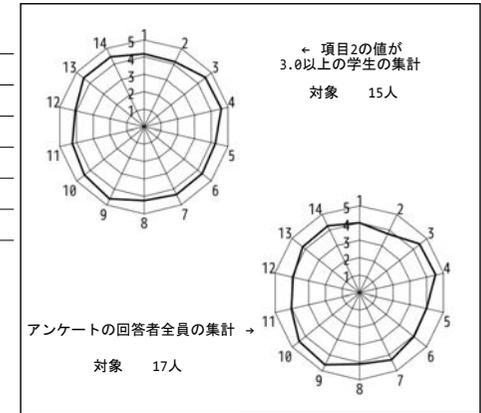


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① この授業の目標は、各学生が授業で学習した「生成文法の理論概念と専門用語」と「各研究者の主張内容と支持根拠」を説明できるようになることであった。到達の程度としては、発展的な内容を正確に説明できるかという点では学生間で差があり、完璧に説明できる学生もいれば同じような誤りを繰り返す学生もいたが、基礎的な内容を説明できるかという点では多くの学生が正しく説明できるようになった。
- ② まず、項目3から14の平均評価が「4.17」であることを踏まえると、授業内容・運営方法・課題設定は概ね妥当だと考えられる。もちろん、一部の学生からは「授業スピード・課題の多さや難易度」に関して否定的な声も上がっているが、別の一部の学生からは同じ点に関して真逆の肯定的な評価をもらっている。よって、やる気のある学生に対してはやりがいのある適切な授業を提供できたと考えられる。
- ③ 次クォーターに向けては、今回の授業内容・運営方法・課題設定を土台にしなが、やる気のある学生に対してより受講価値のある授業を提供できるようにする。ただし、一部の学生が「授業スピード・課題の多さや難易度」に関して困難を感じたことは考慮すべき事実であるため、そういった学生も興味を持って受講できるように、質問の機会をより多く設定しながらモチベーションが上がるような指導を行うつもりである。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 応用哲学A |
| 授業コード | 22C19-001 |
| 教員名 | 竹下 至 |
| 教員コード | 103135 |
| 登録人数 | 88 |
| 回答数 | 17 |
| 回答率 | 19.3% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

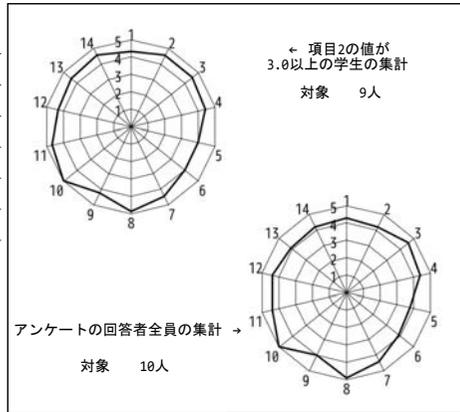


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① について
 - 開講当初に設定していた到達目標は（１）死と生についての理解を深める、（２）様々な哲学的議論について知る、というものだった。アンケートの結果と小テストおよびレポートの結果からそれらは概ね達成できたと判断した。
- ② について
 - ・学生の事前学習および事後学習を十分に促せなかったように思われる。
 - ・わかりやすさやスライドの見やすさを考慮して細かい情報を省くこともあったが、そうした情報を欲する学生もいたようだった。また配布資料が見やすいという意見も見づらい（字が小さい）という意見もあるので少し判断に迷うが、なるべく多くの学生のニーズに応えられるように工夫したい。
- ③ について
 - 授業時間の見積もり・配分を誤って講義が短くなってしまったことがあった。過度に短くならないよう、見積もり・配分を見直すつもりである。あるいは、事前学習や事後学習を促すためにそうした学習の確認作業（簡単なテストなど）にあてるなど講義以外の時間を設けることも検討したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 文化と進化 |
| 授業コード | 22C32-001 |
| 教員名 | 小田 亮 |
| 教員コード | 104486 |
| 登録人数 | 36 |
| 回答数 | 10 |
| 回答率 | 27.8% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について:

開講当初に設定していた目標は、シラバスにもあるように

1. 生物の進化と、その主要な要因である自然淘汰について正しく理解できる。
2. 遺伝と行動の関係について正しく理解できる。
3. 血縁淘汰理論について正しく理解できる。
4. 文化が人類の進化に果たした役割について理解できる。

の4点である。概ね到達できた。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価:

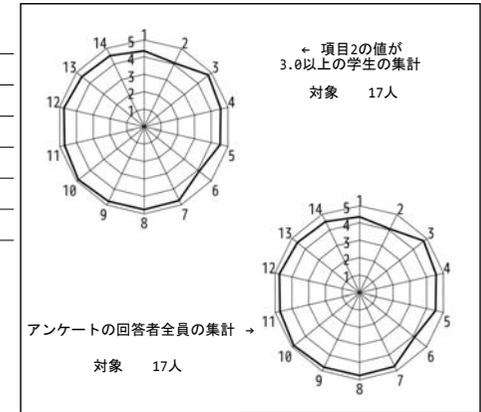
アンケートによる講義の評価には意味が無い。講義が成功したかどうかは試験の成績で判断すべきである。なぜ意味が無いのかというと、ひとつはそもそも正しく評価できるようなら講義を受ける必要が無いからである。また、大学で教わることは、その後の人生においてある時期に意味や価値が初めて分かる、というものが少なくない。現時点で学生に講義の価値など分かるわけがない。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など:

特になし。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|----------------|
| 科目名 | 地域の文化と歴史(西アジア) |
| 授業コード | 22C48-001 |
| 教員名 | 門脇 誠二 |
| 教員コード | 102240 |
| 登録人数 | 53 |
| 回答数 | 17 |
| 回答率 | 32.1% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

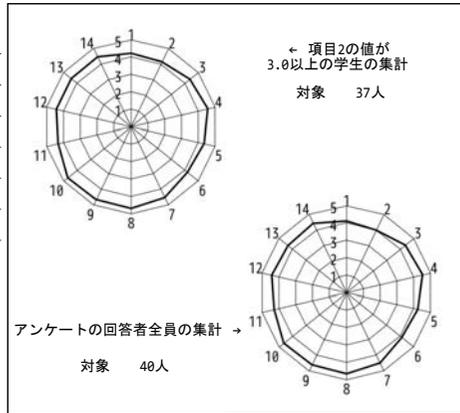


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 2つの目標を掲げていた。1つは「多様な自然や文化が交錯する西アジアの地理的特徴とそれに起因した西アジア特有の文化と歴史について知識を有している。」2つ目は、「2. 西アジアの歴史と文化に関する研究は、人類全体に共通する課題でもあることを理解している。」これらの目標を達成するために、ほぼ予定通りに講義内容を行うことができた。パワーポイントのスライドを印刷し、学生のノート作成の補助を行った。目標達成ができたかどうかについては、学生のレポートと期末試験を見る限り、良好な結果と思われる。
- ② アンケートの数値を見る限り、授業に対する評価はおおむね平均以上だった。すべて対面で講義を行ったため、できるだけ毎回、講義に関する実物資料(考古遺物やそのレプリカ、関連文献)を回覧してもらおうようにした。また、動画の利用を増やし、興味と理解を上げる工夫を行った。その点に対する高評価をアンケートでもいただいた。
- ③ 100分授業で2時限続けての授業であったため、単調だと学生にとっても集中力が欠けると思う。そのため、配布資料のキーワードを穴埋めにして、注意力が少しでも持続するようにした。来学期も実物資料を見せるなどアクセントをつけたり、途中でミニクイズなど学生が主体的に行う活動を組み入れて、受講者の集中力が続くような工夫をしたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 障害児教育論
授業コード 23C19-001
教員名 伊藤 修毅
教員コード 103837
登録人数 74
回答数 40
回答率 54.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

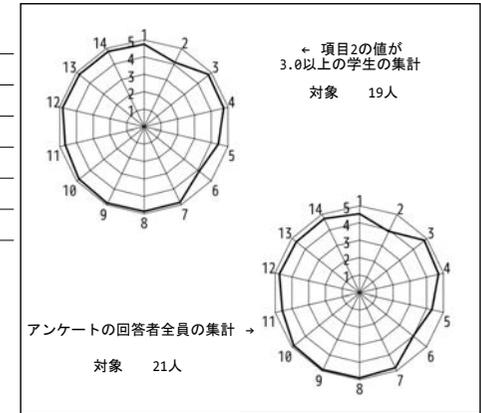


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① オンライン講義ではなくなった昨年度よりシラバスを一部変更し2年目となるが、当初の目標はおおむね達成できたと考えている。Q4の特性として、年末・年始の間に3週間空くということがあり、年内は知識・理解に重点を置き、年明けは「考えること」に重点を置いた設計にしているが、この形は継続していきたい。
- ② 数値データは、おおむね良好なものとなっており、安心している。予習・復習の項目が相対的に低くなってしまっているが、期末試験の結果を見る限り、アンケート入力後に多くの学生たちはしっかりと復習に励んでくれたものと感じている。自由記述もおおむね好意的なものであったが、「私語に対して厳しい」という意見があった。講義中の私語は、他の受講生に著しい迷惑を与えており、厳しく指導することは当然のことと考えている。
- ③ 科目設置の性質上、教職を目指している学生とそうでない学生が混在しており、いわゆる「レディネス」の点で大きなギャップを感じざるを得ない。この点を意識して、より多くの学生が十分に理解できる内容を模索していきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理的アセスメント2
授業コード 23C62-002
教員名 井村 安之
教員コード 048439
登録人数 30
回答数 21
回答率 70.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

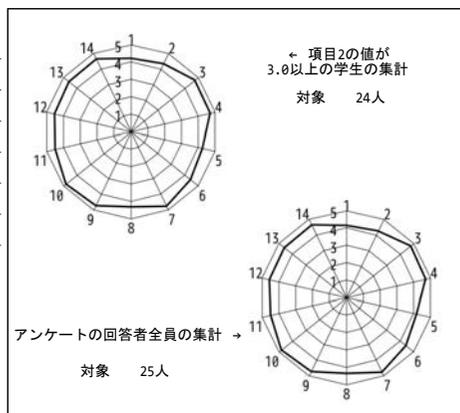


授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体的な数値分布をみると比較的良い評価をしていただいたようであるが、さらに改善していかなくてはならない点もいくつかみられた。本授業では、心理検査を予備知識なしで、まずは自らが受けてみて、その体験に基づいて解説を行っていくという形式をとっているため、予習はしないように伝えている。したがって、設問2が低くなっているのは、授業の性質上、やむを得ないことであるといえる。授業の到達目標に関する設問5、6も低くなっているが後半の授業が各心理検査の紹介という形の内容であるため、余計、授業の目標が曖昧になってしまうところがあるように思われる。毎年、本授業の評価は同じような結果であり、到達目標については意識して授業を行ってきたつもりではあったが、今回も残念ながら例年と同様の結果であった。その点を、もう一度、よく考えてみると、一応、受講生は毎回、その都度の授業には関心をもってきているようであり、満足度も比較的高いようではあるが、すべての授業が終わったとき、何を学んだかという曖昧な感覚になっているのかもしれない。個々の心理検査について正しく理解することが一つ大きな到達目標であるが、それでは何を学んだが今一つ残らない、つまり、授業全体としての到達目標が曖昧になっていることが推察される。そう思うと、毎回、丁寧な説明は行っているが、“丁寧な説明”ばかりに終始し、教員が何を伝えたいかという点が足りなかったように感じる。難しい部分もあるが、個々の心理検査の概説を通して、全体として何を理解してほしいか、明確に伝えていきたい。また、意見や質問などを書いてもらい、それに対する回答をする時間を十分に取るようにしたのは良かったが、もう少し生で学生とやり取りをしたり、学生同士が話し合う時間を持つなど、教員だけが話しているという一方的な授業にならないよう工夫していきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会言語学
授業コード 24C53-001
教員名 安井 永子
教員コード 102889
登録人数 67
回答数 25
回答率 37.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

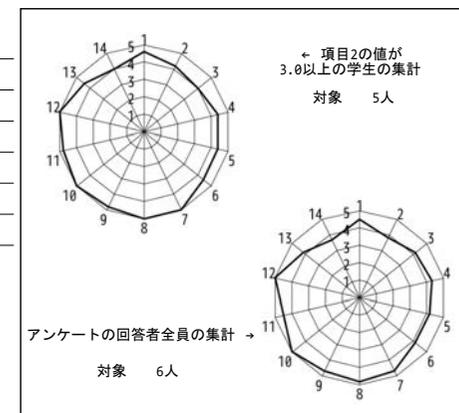


授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生の回答から、授業の目標は概ね到達できていたと考えられる。これは、受講生の多くが、内容に対する理解を深めることができたと感じていたことから判断できる。授業の運営については、受講生からの質問や要望に応える時間を多く取ったことが、受講生から評価されていた。自由記述欄におけるコメントでは、グループワークが良かったという意見が複数あった。受講生が多数いるため、受け身の授業にならないよう、ワークシートを配布し、1人で作業してもらいだけでなく、グループでのディスカッションの機会も複数取り入れたが、それが効果的だったと考えられる。一方で改善点もある。自由記述欄では、PPTスライドの字が小さくて見えにくかったという意見もあった。授業で使うPPTのスライドは、ソフトコピーをwebclass上で、ハードコピーを教室で配布しているため、受講生はそれらを参照することもできる。しかしながら、スライドの字の大きさや色には今後工夫が必要である。また、大きい講義室だったため、マイクを用いても音声が届きにくいこともあったことがわかった。今後は、教室の後方に座る学生への配慮として、マイクの使用にも気を配る必要があると感じている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語の音声教育
授業コード 24C69-001
教員名 金村 久美
教員コード 104428
登録人数 17
回答数 6
回答率 35.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

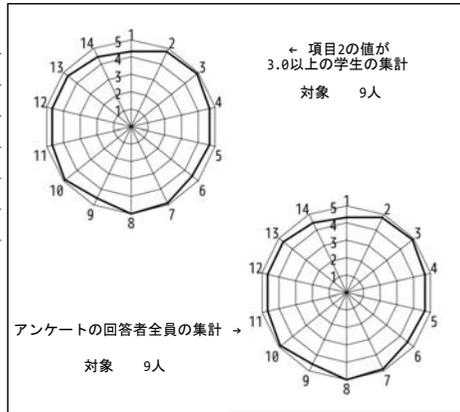


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この科目では、日本語教育の実務に初めて携わる上で最低限身につけておいてほしい、日本語の音声教育に関する知識と考え方・姿勢を学ぶことを目標としている。この点について、到達度は中程度と考える。学習者によって基礎知識にばらつきがあり、基礎知識を備えた学生については到達度は十分に満たしたと考えるが、そうでない学生も一定数いたと思われる。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
高い評価を得た項目は、7（教員の熱意）8（聞き取りやすさ）9（理解度への配慮）10（授業の妨げへの対応）11（自主的な参加の促し）12（質問等の機会）である。この科目では、学習者の発言点を評価に加えたり、学生のコメントに対する返答を授業内で行なったりしており、この点が高く評価されたと考え、今後も続けていきたい。
一方、評価の低かった項目は、2（予復習の努力）3（授業時間厳守）4（授業構成や進度）5（到達目標の理解）6（到達目標の達成）13（新しい知識の獲得）14（全体的な満足）である。これについては、講義の構成の整理が十分でないこと、到達目標の提示がはっきりしていないことなどが要因であると受け止め、次年度はぜひ改善したい。特に、履修生の基礎知識にばらつきがあることが、講義内容や到達目標の設定に影響しており、次年度はこの点に留意してシラバスを改善したい。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|---|
| 科目名 | Special Topics in English: International Studies A4<2021生用> |
| 授業コード | 31B04-004 |
| 教員名 | ROBINS, Anthony |
| 教員コード | 104759 |
| 登録人数 | 25 |
| 回答数 | 9 |
| 回答率 | 36.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

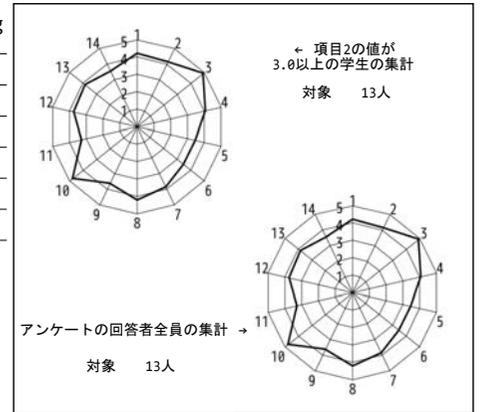


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This quarter was part of my first semester of teaching at Nanzan, so it was certainly ‘a learning experience’ for me. I feel that my goals were achieved by the students, particularly with the improvements I saw in their presentation skills and that they gained a clearer understanding of UK lives and contrasts with Japan. The latter was indicated both in this evaluation and also in an evaluation I gave to students in the final class. I was glad to see that the scores I received were positive, but will take on board four questions (1, 9, 11 and 14) where there were scores of 3. Question 1 also had one score of 2, but I see that it focussed on students’ interest in the topic before they took the course. Therefore, I presume that those who answered ‘1’ or ‘2’ to that question became more interested which is gratifying. With this course being offered in the next semester, I will certainly consider two key points raised here by students: More use of Webclass for materials rather than in paper form, which I will put into effect, and the level of activities. The latter issue does depend more on each student's perception, so I will endeavour to get more feedback on this in the future.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|--|
| 科目名 | Special Topics in English: Language E1 |
| 授業コード | 31C15-001 |
| 教員名 | 吉田 江依子 |
| 教員コード | 103084 |
| 登録人数 | 36 |
| 回答数 | 13 |
| 回答率 | 36.1% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

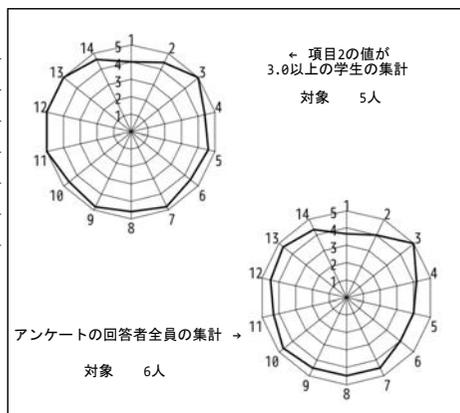


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について：本講義では、さまざまな角度から論じることによって人間のこととは何か、その本質についての内容を提示することを目標としていた。その目標に従い、シラバスどおりに授業をすすめることができた。
- ② 担当科目に関する総合的な自己点検・評価：内容および評価基準については基本的に昨年度と同様であったが、今年の学生の中には内容が難しいと感じる学生が、例年より多かったようだ。また、評価の対象となるレポートについても、負担が大きいと感じる学生もいたようである。同じ科目名なので、学生の理解度に応じて評価を変えることはできないが、学生の理解度に応じて、自由記述にも指摘があったように、講義内でより平易なわかりやすい英語を用いて行う工夫が必要であったのではないかと考える。また、英語による講義なので、あとから学生が復習しやすくようにパワポ資料にも同様の内容を記載するように心がけた。ただし、かえってそれが台本を読んでいるようである、との印象をもつ学生もいたようだ。
- ③ 次年度に向けての改善点：今年度でこの講義は終了するが、自由記述にある指摘を踏まえ、今後同様の講義を担当する機会が生じた場合には、改善していきたいと考える

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカの政治
授業コード 32C22-001
教員名 中川 智彦
教員コード 102940
登録人数 12
回答数 6
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

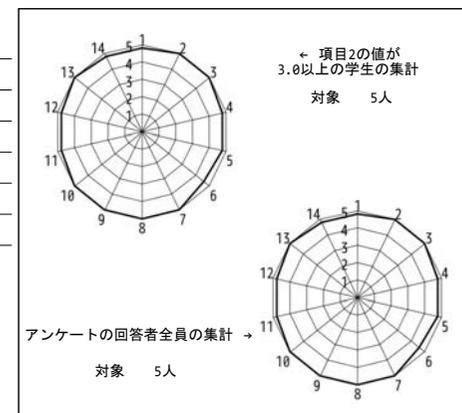
今期は受講生が例年より若干少なくなったこともあり、一人一人の到達度については概ね満足いくものとなった。自己達成感を示す項目4は、全体では4と低めだが、積極的に学ぶ姿勢のある回答者の平均で4.5ほどであった。自己達成感評価が4以上あれば、十分であると思う部分もある。

一方、教員の授業に対する評価に関わる項目7から14に関しても、全体平均で4.5前後で、積極的学習者の平均を示すグラフでは、全体的満足度を示す14(4.5)以外は、全項目で5ポイント近くを示しており、全体的には高い評価を得られたようである。これは、今期が比較的少人数授業であったため、受講生の反応をみて説明を加えたり、質問することで、理解を深めてもらうための時間も取りやすかったことが背景にあると考えている。

今期、高く評価してもらった点を、来期以降も生かせるように工夫していきたいと考えている。自由記述では、評価点として、「説明がわかりやすかった」「自分じゃ知り得ない情報が学べた」「毎回の小テストやグループワーク」、改善意見として「資料にハイライトが多すぎてどこが重要か分かりづらかった」とあった。資料にハイライトが多いのは、小テストで出題される部分だけでなく、他の重要事項にも注目してもらうためであり、受動的ではなく、自分で読み解いてもらうために、敢えて残してある部分でもあるので、どん欲に学んでもらえると嬉しいと思っている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIIB1
授業コード 33A16-001
教員名 HERGOTT, Florian
教員コード 101725
登録人数 19
回答数 5
回答率 26.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course objectives were met.

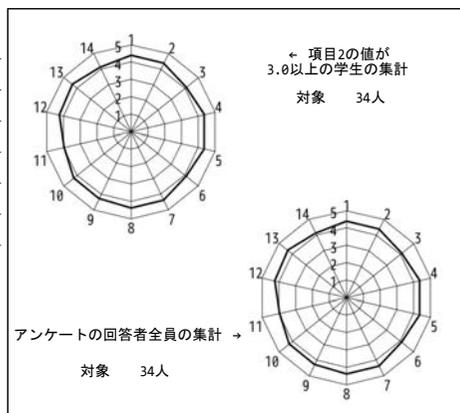
The fact that we are at the end of the cycle with regard to the manual used in the course makes it much easier to carry out the lessons. Each document has been done several times in the past, which makes it easier to anticipate how the students will react.

Regarding student feedback, one student seems to have been bothered by the use of a social networking discussion group.

The use of such a process could be reviewed.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語II読解2
授業コード 35A10-002
教員名 張 静萱
教員コード 048047
登録人数 50
回答数 34
回答率 68.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

これは「中級中国語Ⅱ読解」という授業で、教科書の様々な内容の文章を通して、学生諸君の中国語の精確な読解力養成し、また正確な音読の練習、中国に関する知識の拡充を目指して、授業を進めてきました。

「文法で忘れていたところが、この授業できちんと確認することができ、説明もとても分かりやすかったです。」「中国語だけでなく文化まで学べて良かった。」などの学生の記述からわかるように、授業は開講当初に設定していた目標におおむね達したと思われまます。

今後評価されたところを引き続き努力し、またさらなるいい授業運営を目指し、学生一人一人の勉強意欲と積極性を引き出すよう工夫していきたいと思ひます。それと同時に授業の内容もさらに充実にし、学生の興味ももっと沸いてくるように受講生全員にとって満足度の高い授業運営を続けて努力していきたいと思ひます。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語IV会話2
授業コード 35C06-002
教員名 趙 晴
教員コード 100960
登録人数 13
回答数 4
回答率 30.8%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

少人数のクラスなので、殆ど毎回クラス全員音読したり解答したりすることができました。時間の関係で発表できなかった学生もいて、すごく残念だと思ひました。皆真面目に明るく勉強していて、開講当初に設定していた目標にほぼ到達したと思ひます。学生のコメントを見ると、主に評価された点は以下の二点です：

「先生は上級会話中国語の日常会話でよく使われる言い方や教科書に載っていないフレーズを教えていただけことと、他の生徒の発表を聞くことで、中国語のリスニングの練習をすることができたことです。」や「よく使う単語やフレーズを強調していたため、覚えて使いたいな～という気持ちになった。」
分かりやすく説明して、楽しく覚えて貰おうというのは授業の方針なので、学生は「覚えたい」「使いたい」という気持ちになってくれたことに非常に嬉しく思ひます。

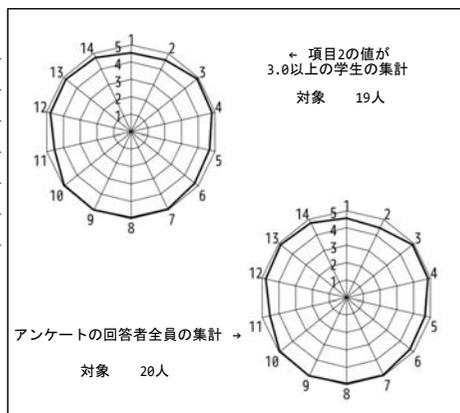
とても雰囲気の良いクラスで、自主的に勉強する学生も多く、たいへん教えやすかったです。

学生たちにもありがとう！と伝えたいです。

謝謝！加油！

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 法学概論 |
| 授業コード | 40F08-001 |
| 教員名 | 滝谷 英幸 |
| 教員コード | 104298 |
| 登録人数 | 34 |
| 回答数 | 20 |
| 回答率 | 58.8% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

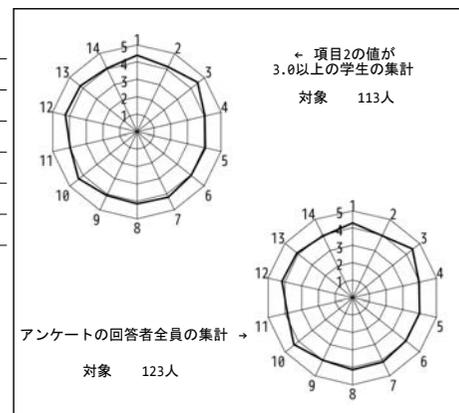


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① この授業は法学部以外の学生を主たる対象としているため、知識を伝えることよりも法的な思考を体験・習得してもらうことに重点を置き、さまざまな問題について教室で学生と意見交換を行いました。授業での発言や授業後の感想、また、今回のアンケートの自由記述をみると、学生のモノの見方・考え方に変化が生じているケースが少なからずあったように感じられ、ある程度目標を達し得たものと受け止めています。
- ② アンケート結果をみると、回答者（履修者34名中20名）の間では概ね好意的な評価であったように思います。昨年度のアンケート結果をふまえ、今年度からは、学生同士でディスカッションをする時間を設け、その上で教員から意見を求める、という方法を導入したのですが、これが学生の知的好奇心を刺激し、理解を深めさせることに有効だったのかもしれません。一方、項目2や項目11については一部に低い評価もあったため、「授業に参加する意欲をもたせる」ことが課題であると感じました。
- ③ 上記②でも触れたとおり、より多くの学生により前向きに授業に参加してもらう工夫が必要だと思っています。すべての学生が満足するということはないのですが、取り上げるトピックの内容、授業の進め方（近くに座った学生同士で自由にディスカッションをさせたのですが、この授業に知り合いのいない学生にとってはその時間はやや苦痛だったかもしれないと反省しました。また、居眠り・内職・スマホいじりの類は他人に迷惑をかけない限り放置という「ゆるい」スタンスだったのですが、それを不満に感じた学生もいたかもしれません）など、検討いたします。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 会計原理B |
| 授業コード | 40F17-001 |
| 教員名 | 白木 俊彦 |
| 教員コード | 101090 |
| 登録人数 | 244 |
| 回答数 | 123 |
| 回答率 | 50.4% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

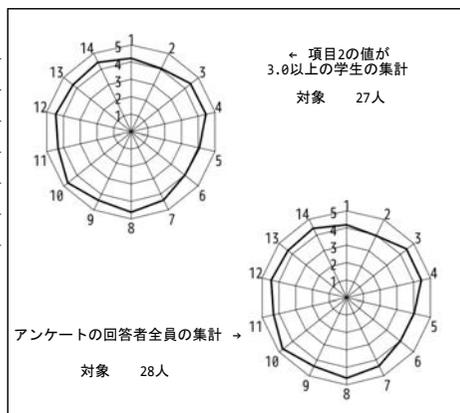


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、決算手続きにおける精算表の作成を通して、基本財務諸表である貸借対照表および損益計算書が理解できることを目的としている。さらにキャッシュフロー計算書の意義について理解し、会計情報から企業の経済実態を読み取ることができるように解説してきた。今年度から担当したが、昨年度まで使用されてきた教科書に基づいて講義を進めてきた。本テキストは、会計学を専門とする学生向けというよりは、専門外の学生にも理解できるように工夫されており、内容的にも難易度が高いものではなく、繰り返し読むことでおおよその理解はできるものと考えます。講義においても、テキストにそって解説し、演習も繰り返ししてきたので全体的には理解できたものと考えます。しかし、試験の結果をみると、予想よりも低い結果が見られた。授業評価の結果からみても、関心を持って受講しているが、結果としては満足のいく成果にはつながっていなかったようである。毎講義に提出する質問票を通じて、疑問点を解決する方法に関しては高評価であり、解答したことについても役立っていたことは良かった。他方で、毎回の講義における重要な点の解説に関して、理解できなかったという評価もあり、工夫が必要であることが判明できた。大人数の授業で、全員の理解を達成するためには、各自の演習が要求されるのであるが、この点は授業運営上の今後の課題として対応していかなければならない。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|------------|
| 科目名 | 現代産業論(起業論) |
| 授業コード | 42F05-001 |
| 教員名 | 藤榮 幸人 |
| 教員コード | 103879 |
| 登録人数 | 49 |
| 回答数 | 28 |
| 回答率 | 57.1% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

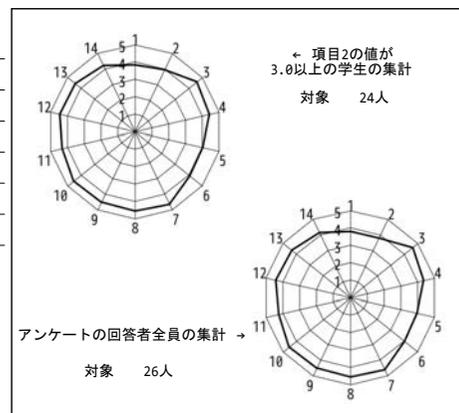


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
- ・日本における起業のダイナミズムの必要性理解
 - ・起業家やフリーランスとして働く意義やリスクを知っている。
 - ・企業の成長ステージ毎にそれぞれ取り組むべきこと、陥りやすい事象を理解することができる。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
- 設問項目番号2の主体的に授業に取り組むというものの点数が相対的に低くなっていることは反省事項である。
- ディスカッション授業を2回取り入れているが、その際は積極的に参加している様子が見られたことから、一方的に伝える授業の割合を少なくし、学生が参加しやすい取り組みを増やしていく必要があると認識した。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
- 学生の興味関心があるとこたえていた、社会起業についての内容も追加して、より起業のテーマが身近に感じられるようにしていきたい。
- 授業参加度を高める工夫もしていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | アジア政治社会論 |
| 授業コード | 46L02-001 |
| 教員名 | 鈴木 隆 |
| 教員コード | 102972 |
| 登録人数 | 78 |
| 回答数 | 26 |
| 回答率 | 33.3% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

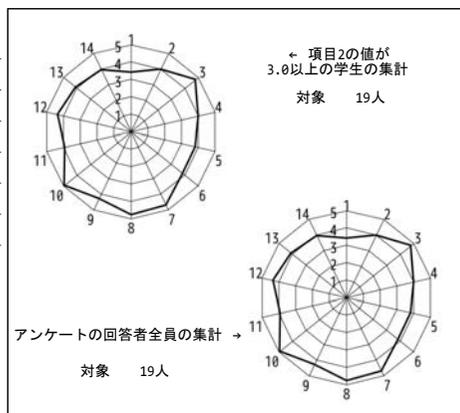


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 設問項目のうち、以下の項目は平均値が4.5以上で、比較的に高い評価が得られた。
- 項目番号3 オンラインで受講した場合、事前に予告された開始時間は守られていましたか。対面で受講した場合、授業の開始と終了の時間は守られていましたか。4.62点
- 項目番号7 担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じる事ができましたか。4.62点
- 項目番号8 授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。オンラインで受講した場合でネットワーク環境が不安定だった場合は「どちらとも言えない」を選択してください。4.58点
- 項目番号9 教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。4.50点
- 項目番号10 授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていましたが。4.54点
- 項目番号7について、担当教員としては素直にうれしいと思う。
- また、自由回答記述についても、以下のような回答があった。
- 「高校の世界史と異なり、噛み砕いて説明をしていただいたので、中国という国がどのようにして今のような国になったのか、どのような考え方を持っているのかを少し理解することができ、おもしろかった。」
- わたしは今年度で貴学での授業は最後となるが、たいへんよい思い出となった。
- 履修学生と事務の方々には改めてお礼を申し上げたいと思う。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 環境と法 |
| 授業コード | 46M05-001 |
| 教員名 | 岩崎 恭彦 |
| 教員コード | 102072 |
| 登録人数 | 36 |
| 回答数 | 19 |
| 回答率 | 52.8% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

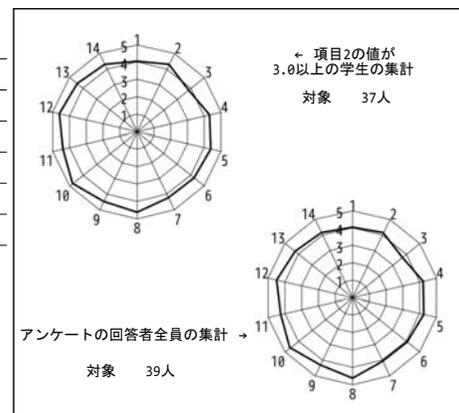
南山大学総合政策学部において担当している「環境と法」の科目では、授業の方針として、原則対面方式に戻って授業を実施した本年度も従来と同様、法学について必ずしも系統的に学ばれているわけではない学生のみなさんを対象に、法学のなかでも先端・展開科目に位置付けられる環境法を講ずるうえで、次の点に注意を払いました。

すなわち、毎週一回の間隔で開講される講義の内容についてより一層の定着が図れるように、図表やイラストなどの資料をパワーポイントで作成したスライド上で共有して学修内容をビジュアル面からもとらえられるようにすること、各回の講義において“学びのポイント”を指摘して環境法の重要論点がどこにあるかを明確に示すことなどを実施しました。また、法学関係科目の未履修者に配慮して、実際の条文を法令集を作成・配付して参照し、かつ、法学のテクニカル・タームを説明の中で用いる場合にはできる限り丁寧に解説することを心がけました。これらの点に対しては、今回のアンケートでも多くのみなさんに評価していただいているのではないかと感じています。

他方、自由記述欄では、口頭説明事項の難易度や速度等について、具体的な要望をいただきました。これらの点に関しても適宜対応を図ることを通じて、更なる授業改善を心がけようと思っています。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 公会計論 |
| 授業コード | 46N15-001 |
| 教員名 | 曾場 七恵 |
| 教員コード | 151236 |
| 登録人数 | 121 |
| 回答数 | 39 |
| 回答率 | 32.2% |
| 休講回数 | 2 回 |
| 補講回数 | 2 回 |

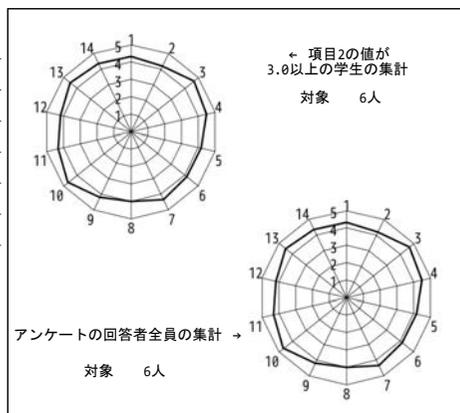


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 会計の学問領域では特殊な公会計を学ぶにあたり、当初は企業会計との違いを理解してもらうことに重点を置くことを目指していた。例年だと会計学を履修済みの学生が多く、基礎的な簿記や会計の知識、企業会計の特徴を理解しているはずが、当科目以外に簿記や会計の授業を学んだことのない学生が大半だったことから、財務諸表や数値データの比較ではなく、公会計の特質や必要性を理解できるような講義内容に変更した。
- ② 公会計への理解度を深めるために毎回復習となる課題を用意したところ、その難易度や復習材料としての活用が好評であったことがアンケートから判明した。課題に沿った解説も、学生の理解向上に繋がったようで安堵した。また、アンケートでは遅刻に関する意見が見られるが、本務校からの移動、視聴覚キーの貸出場所から教室への距離、教室付属PCの立ち上がりの遅さ、これらが重なり授業の開始時刻がどうしても遅れてしまったことは致し方のないことであったことを理解してもらえたら幸いである。今年度の授業ではzoomライブ配信の利用者がいたため、視聴覚キーの受け取り、教室付属PCの利用は避けられなかったのである。
- ③ 簿記や会計の知識のない学生に対しても決算書の構造や数値データの読み方がわかるような授業ができるよう、教材研究に励みたい。また、休講と補講の周知方法は担当部署の指示通りに行ったが、メールでの周知を希望する声があったので、迅速な連絡手段のバリエーションを確認し活用したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際協力論 / International Cooperation
授業コード 48C12-001
教員名 大濱 裕
教員コード 104578
登録人数 27
回答数 6
回答率 22.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

下記は、大学実施の学生評価に加え、最終講義時の評価アンケートならびにレポート成績評価を併せ検討した結果に基づくものである。

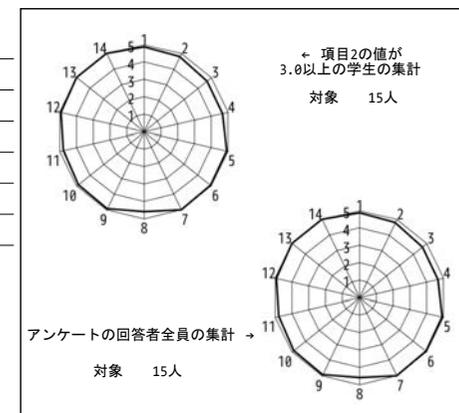
(1) 講義目標：① 国際経済システム・開発協力援助の歴史・構造的理解、② 国際協力援助の分析視点・視座の獲得、③ 問題解決への自己の立ち位置・役割への理解・認識 は、A+/ A 評価学生（35%）においては十分に、B評価学生（40%）では臨まれる基本的なレベルにおいて達成できたものと判断される。

(2) 上記（1）ならびに最終講義時の学生評価・コメントから、現在の講義の内容・構成については概ね適当・適切なものと判断している。大学実施の評価でも、回答者は少ない（6名）ものの、知識の深まり（4.5）、講義満足度（4.33）、講義の構成・早さ（4.5）ならびに教員に関する時間管理（4.67）、講義姿勢（4.33）、講義環境の維持（4.67）等であり、基本的な部分では学生諸君の了解・支持を頂いていると思われる。

(3) 学生諸君の希望を踏まえ、講義中の教員・学生間の対話のみならず、学生同士の意見交換・議論の機会を拡大し（現在は最終講義のみ）、講義内容の理解促進・共有化と共に講義への参加意識・学習意欲を高めてゆくことを試みたい。具体的には、講義テーマの括り毎に30分程度の取り組みを3回程度、次年度の目標として進めてみたいと考える。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(読解)2
授業コード 11L09-002
教員名 鈴木 照
教員コード 103293
登録人数 15
回答数 15
回答率 100.0%
休講回数 2 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

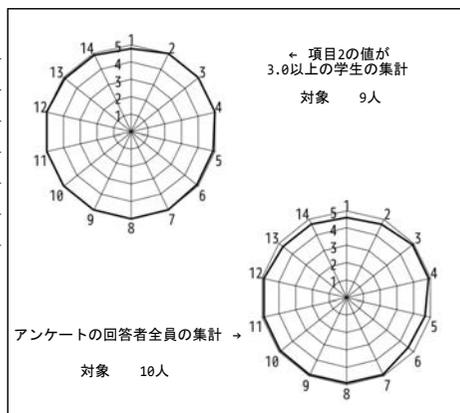
この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材やグラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。

コース開始時には初級とは異なる日本語学習の授業形態への対応に苦慮する様子が見られたが、授業が進むとともに積極的に参加する姿勢が増し、コース終了時には学習した文法等を概ね正確に使用し、読解文を理解して適切に要約することができるまでになった。学生自身も日本語の上達や理解の深まりを実感しているようである。（設問5平均値4.93、設問6同4.93、設問13同5.00）しかし、設問4、8で1という回答もあり、教員の発話が理解できず、授業についてこられなかった学生がいたことが窺える。

これらを踏まえ、次学期は今学期の授業内容を中心に、学生が興味を持ち積極的に学習に取り組める内容を組み込み、学生個々の理解度や様子にさらに気を配りながら、授業を運営していきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術A)2
授業コード 11L10-002
教員名 蒔田 雅子
教員コード 102042
登録人数 15
回答数 10
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

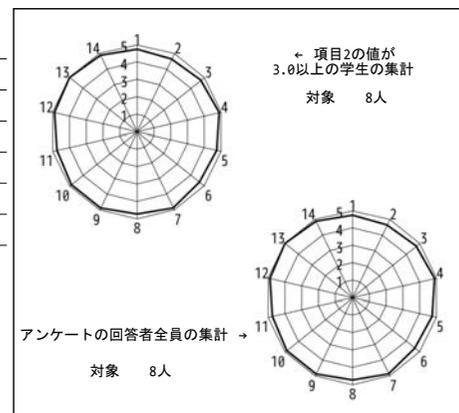


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は内容理解のための聴解力向上と発表の表現力向上の2点である。聴解時にはタイトルと図表を手掛かりにどのような発表がされるのか予測を立て聞くべき点を意識すること、1度の聴解で分かったことを自分の言葉で表現することを求めた。次に同じ素材を用いて聞き取りを重ねることで、構成を意識することに加え、図表の説明や解釈・結論の提示など、発表時に必要となる表現を学んだ。開講当初は正確な聴解にこだわり、後半部分が理解できない学生がほとんどだったが、回を重ねるごとに聞き取りの範囲が広がっていった。発表に必要な表現の定着を図るためには毎回の課題として提出させ、発表原稿や発表音声にFBをした。課題については、発表の構成を意識したものにはなっていない学生もあり、課題達成のための説明が十分でなかった可能性も否めない。さらに十分な説明を心掛けたい。学生にとって十分な力がついたかどうかの評価については4.6であったが、その他の評価については平均4.8だったことは良かった。学生1人の回答から本授業に積極的に参加できなかったこと、教員の働きかけが足りなかったことがわかり、シラバスを十分に確認してきていない学生への授業目標や達成度を説明することを今後の課題としたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術B)2
授業コード 11L11-002
教員名 三輪 志保
教員コード 103665
登録人数 16
回答数 8
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

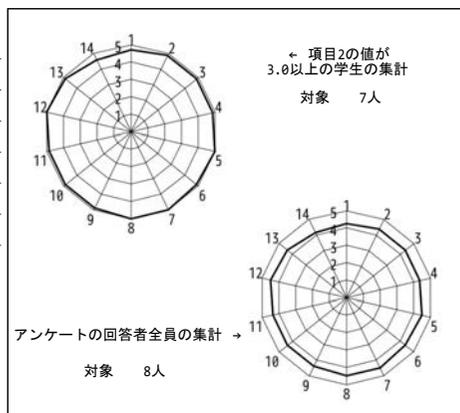


授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 本科目では、レポート作成の基礎知識を理解し、正しい文で書くこと、報告型レポートの作成に必要な表現や形式を身につけることを目標としていた。最終到達目標は、今後レポート・論文の先行研究の執筆に役立てられるような報告型レポートの作成とした。日本語初級を終えたばかりの学生に対し、今後のために少々難易度を上げてレポート執筆の基礎力を高める演習を取り入れたが、受講したほとんどの学生がレポートの基礎知識を理解し、当初の目標の1つである、出典を明らかにして客観的な表現でレポートを執筆するという点に関しては、ほぼ達成できたように思われる。しかし、期末課題である報告型レポート作成にあたり、実質的な文章表現の運用やレポートの構成、内容に関しては、個人差が顕著に表れた。② 学生からの授業評価平均値が全て4ポイント台後半から5ポイントであり、また「レポートを書く能力がだんだん上手になった」という自由記述もあり、授業内容に関しては評価できると考えられる。ただし、後半の授業内容であるレポート執筆が大きな壁となったかもしれず、完成稿が提出できなかった学生も散見されたため、更にわかりやすくレポート提出率の高い授業への改善を試みたい。③ 今学期も完全対面授業であり、学生の体調に配慮した環境作りが必須であったが、無事に予定通り期末試験が実施できた。来学期も学生の安心できる環境作りに配慮しつつ、活発な教室活動に努めたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術B)2
授業コード 11L15-002
教員名 牧野 由美
教員コード 100727
登録人数 15
回答数 8
回答率 53.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

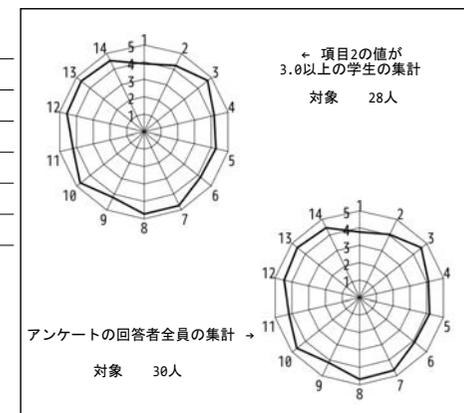
授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現および、文法的に正しい文で的確に述べたい内容を表現できる文章力の習得であった。多くの課題を課したが、まじめに取り組んで少しずつ力をつけた学生が多く、まとまりのあるレポートが書けるようになった。設問13への回答を見ると学生自身も日本語力の伸びを感じていることがうかがえる。

オンライン授業で初級の学習を始めた学生たちの中には手書きのスピードが遅い学生もおり、手書きで解答しなければならないクイズや試験で十分に力を発揮できないことがあると感じたため、今学期は毎週提出させる作文課題のいくつかを手書きで提出させた。学生間で速い遅いの差はあるが、最終試験で時間が足りなかったという学生が減ったのは成果であると思われる。

必修授業であるため、合格点に満たない学生は再履修することになるが、出席して課題に取り組む意欲を持たせること、そしてそれを維持させることは非常に難しいと感じている。気長にコミュニケーションを図っていくことは続けたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[2]3
授業コード 10A01-019
教員名 大庭 貴宣
教員コード 103877
登録人数 54
回答数 30
回答率 55.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

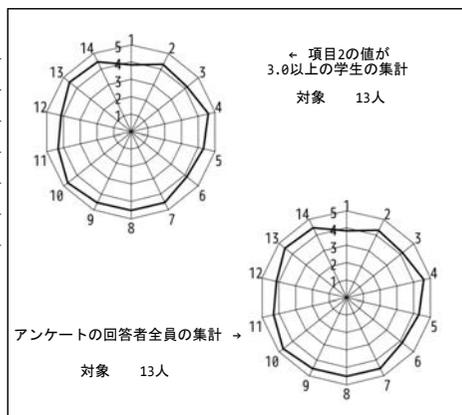


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 今学期に準備した講義内容をすべて教えることができた。講義の目標として、日本の宗教観を知ることができ、また世界の宗教の状況について知ることができていた。その内容としては、日本の宗教観でも、世界の宗教においてもそれぞれどのような教えがあるかだけを伝えるのではなく、現実にはどのような事象として現れているかまで考えることを目標としていたが、それにも到達できたと思う。
- ② 講義はPowerpointを用いて行っていた。昨年度と同じフォント、色を用いたが、教室によってスクリーンの大きさ、明るさの違いがあり、見えにくいと感じた学生がいたことを知った。
- ③ 今後は②で記したようなことにも注意を払いたい。学生にスクリーンの見えやすさを確認するとともに、自分でも一番後ろの席から確認をしたり、配慮ができればと思う。また、時々、Powerpointのページを変えることが早くなってしまうことがあった。この点は常に気を付けていることであるが、今後も心に留めておきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳3
授業コード 10D01-003
教員名 長澤 壮平
教員コード 102718
登録人数 49
回答数 13
回答率 26.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

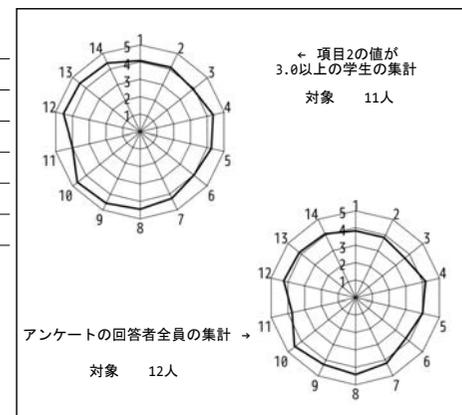


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達については、授業毎に課していたコメントペーパーの精査にもとづく、ある程度達成されているように思われた。身体
の優越という論点を、事例を通して展開するものであったため、設問13の「新
しい知識」の数値の高さにも表れたように思われる。とはいえ、設問6「この
授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」については、4.15
と芳しくない数値であり、抽象度の高い授業展開や、講義全体の軸をもう少し
明示するよう注意すべきと思われた。また、設問11の「自主的な学習を促す指
導」も4.31とふるわなかったので、事前事後の学習を促すような指導を心掛け
るようにしたい。設問12の「質問や相談の機会」も4.15とふるわなかった。授
業後に質問の機会を設けたり、少し時間に余裕のある形で授業を終えたりする
など、工夫をしたい。次クォーターに向けての方針としては、すでに述べたよ
うに到達目標の達成を実感できるような結論、そして学生のコメントを丁寧に
参照したり、質問機会をふやすなどよりインタラクティブな方法を試したい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳5
授業コード 10D01-005
教員名 浅野 幸治
教員コード 100779
登録人数 33
回答数 12
回答率 36.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

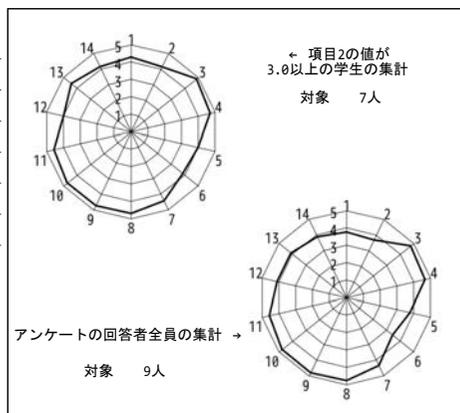


授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標はおおむね達成できたと思うけれども、到達の程度は少しあやしい。
今回、授業回数の3分の1以上欠席したら自動的に不合格になるという規則が
停止されていたためか、欠席率が高かった。近年はどこでも出席率は非常に高
いので、今回の授業は残念だった。来年度は、欠席に関する規則を復活させて
ほしい。
授業評価の数値はおおむね高く、好評だったように思われる。ただし、設問
11の評価が一番低かった。これは、「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授
業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供がありましたか」
という設問である。これは反省点なので、次回は情報提供を明確に行い、より
授業参加を促すための問いかけを増やしていく。しかし、自由記述の回答が1
つもなかった。これは、授業評価の実施のときに、できるだけ自由記述の回答
をたくさん書いてくれるよう依頼したことを考えると、意外で残念である。
今回は、学生数に比して非常に大きい教室だった。学生が教室の後ろのほう
にだけ座っていて、授業が非常にやりづらかった。次回は、この点を改善した
い。そうすると、教室の雰囲気も改善できると思う。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 人文地理学2 |
| 授業コード | 12B09-002 |
| 教員名 | 柴田 陽一 |
| 教員コード | 104342 |
| 登録人数 | 66 |
| 回答数 | 9 |
| 回答率 | 13.6% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、人文地理学の様々な見方・考え方を受講生に対してわかりやすく解説すること、シラバス通りに授業を進めることであった。前者は概ね達成できたと考えているが、後者は途中で1.5回分使ってしまった回があり、その後は当初の予定より遅れて進行することになってしまった。反省が残る。

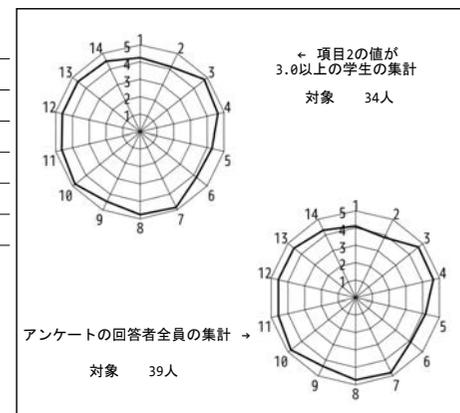
数値データを見ると、回答率は受講生の約14%ではあるものの、概ね高い評価を得た。しかしながら、授業の到達目標を理解できず、そのため到達目標に向けて力がついてきていると思えない受講生（5段階で2の評価）が、全体として授業に満足できなかった（5段階で2と3の評価）ことも判明した。言い換えれば、設問5・6・14が密接にリンクしているということである。

自由記述を見ると、良かった点、評価できることとして、「新しい知識を知ることができた」、「講義資料の参考文献について説明があったこと、講義資料が綺麗にまとまっていたこと」との回答があった。一方で改善したほうがよいと感じた点や困ったこととして、「就活や個人の予定もあるので、最初に教えていただいた予定が変更になるなら早めに教えてほしい」、「シラバスの成績評価の欄に出席率が示されていないことがあった。どちらも授業をある程度休むことを前提とした記述であり、非常に残念に感じた。特に後者は成績評価欄に出席率が示されていないければ何回休んでもよいと考えているかのようである。成績評価欄に出席に関することを書くのはルール上おかしいが、実際にはそうした記載のシラバスが横行しているのかもしれない。

以上を受け、来年度に向けての改善点としては、第一に、授業の到達目標に対する説明をもっと丁寧に行い、全体の到達目標と各回の授業の関連を分かりやすくしたい。第二に、シラバス通りに授業を進めることである。なお、成績評価欄に出席率は書けないが、授業冒頭で出席に対する方針は示すようにしたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------|
| 科目名 | 社会学A2 |
| 授業コード | 12C06-002 |
| 教員名 | 松戸 武彦 |
| 教員コード | 100357 |
| 登録人数 | 73 |
| 回答数 | 39 |
| 回答率 | 53.4% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

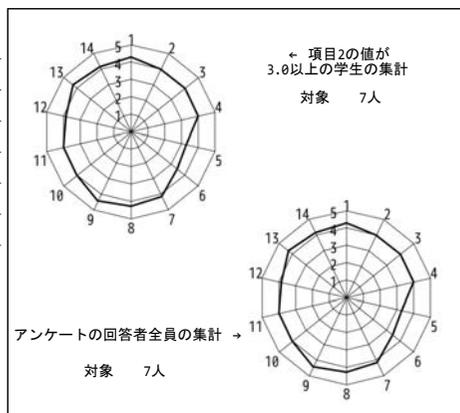


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当該授業の目標はおおむね到達できたと考えられる。特に今年度は意欲的に授業に参加する学生が例年に比べて多いと感じた。それゆえか、授業の後に任意で書いてもらうリアクションペーパーもかなりの学生が提出してくれたし、内容的にも質が高い「返信」になっていた。それもあって、とくに今年度は学生たちのリアクションに対して次回の授業の冒頭に多少の時間を取って復習方々リアクションへの返答をいくつか返した。これには真剣に耳を傾ける学生がかなり見受けられ、授業の効果を再確認する機会になった。内容としては例年のものがほとんどで、新しいトピックスを入れることはできなかったが、特に社会学的視点や視野を強調する授業を心がけた。受講生は、専門の学科の中で社会学に触れる機会が無い者がほとんどであったが、それゆえに彼らにとっても新鮮であったようで、上記リアクションペーパーでも通常の学科科目では触れられない視角と考え方に「驚く」学生も多かった。それと並行して社会科学といえども専門性の創意という意味当たり前のことを実体験できたのではないだろうか。共通教育科目としてこうした授業の存在意義を教師の立場からも再確認した授業であった。授業評価の得点の高さはこうしたことの反映と考えている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 化学2
授業コード 12D05-002
教員名 沢邊 恭一
教員コード 102686
登録人数 9
回答数 7
回答率 77.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この講義の目標は、化学的な視点から「身の回りの物質」「身の回りの現象」を学生が観察・理解できるようになることである。その目標達成のための基礎知識と化学的思考法を説明した。講義最終日には学生に「身の回りにある化学」についてのプレゼンテーション発表をさせ、自発的な化学的思考の機会を設けた。発表内容から、講義の目標である化学的視点による身の回りの製品の観察という経験を実現させることができた。

② 数値データおよび自由記述等をふまえた総合的な自己点検・評価

講義内容に関する自由記述では下記のものがあった。このことから、真面目に受講した学生に対しては講義目標を達成できたといえる。

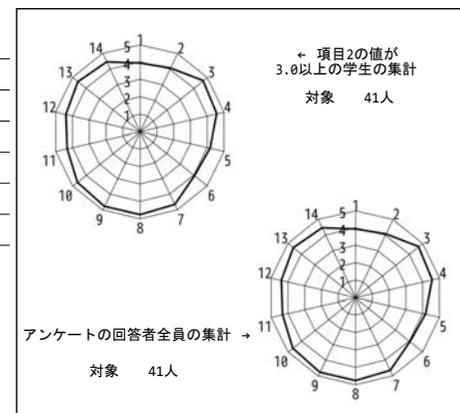
- ・映像や構造式などの図表を多用してとても分かりやすい説明でした。
- ・化学はどちらかと言えば苦手でしたが、生活する上での知識がとても身についたと思います
- ・興味を持っている科学の分野を聞いて授業に反映してくれたので、より興味を持って学ぶことができた。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今回は不合格となった学生が2名いた。これらの学生は、講義後の理解度テストなどから真摯に講義を受けていたとは言えなかった。南山大学ではそのような学生に遭遇したことがなかったので対策を考えていなかったが、今後同様な学生がいた場合に対策を考える必要を感じた。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学A2
授業コード 12D06-002
教員名 三野 義尚
教員コード 102236
登録人数 82
回答数 41
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

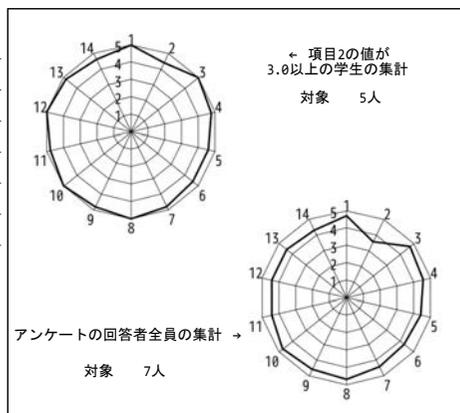


授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。地球規模の大きなスケールの現象を説明するため、講義では映像資料を多用した。また授業で得た知識をアウトプットする機会として小テスト（ミニレポート）を計11回実施した。項目3-14の平均値は4.51であり、開講科目全体（4.47）および基盤科目（4.46）の平均をわずかに上回った。また全体評価（新しい知識と理解）に関する設問13も平均スコアより0.15ポイント高いことから、おおむね目標は達したと考える。ただし設問#5、6のスコアは相対的に低かった。これらは到達目標の理解と実感に関する評価であり、前回の評価も同様だった。アウトプットの場として講義中の小テストを設けたが、評価に繋がらなかったようだ。次回は目標設定をより具体化することで理解の部分を改善しようと思う。授業運営に関する設問#9は高く評価されており、これは設問#15の回答にもあるように、映像資料・講義を組み合わせるスタイルが学生さんに受け入れられたのだと思う。引き続き、この形式をうまく活用していく予定である。一方で、授業の構成と進行速度に関する設問#4の評価は低くなかったものの、「授業の進行が早すぎる」、「話すスピードが速い」というコメント（自由記述）もいただいたので、この点は改善したいと思う。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生物学B
授業コード 12D13-001
教員名 成田 靖子
教員コード 100250
登録人数 26
回答数 7
回答率 26.9%
休講回数 6 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

22年年末に腰椎を圧迫骨折し、正月明けに悪化して授業が続けられない事態となった。大学と相談して補講の代わりに課題を課するという措置を執った。授業を最後まで続けられなかったことは、非常に痛恨の事態であり、受講生に深く詫びる次第である。

授業評価の点から述べる。項目3から14までの回答平均値は4.5で、一定の成果を得たと考えている。

項目13：授業を通して、新しい知識を得る、理解が深まったと感じるかには4.43、項目14：全体として、この授業に満足したかには4.29の数字であった。講義計画の前半は遺伝子組み換え技術・ゲノム編成技術について、後半はウイルスを扱う予定であったが、後半については中途となってしまったことは、とても残念である。

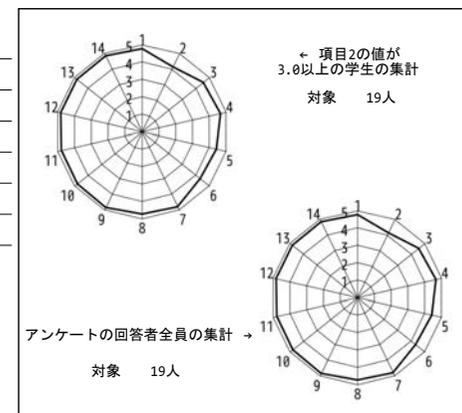
項目12：質問や相談の機会が十分に設けられていたかでは4.43。授業後に課す小レポートでも授業後でも質問があり、翌週プリント形式で全員に回答した。項目15の自由回答として質問がしやすかったとあった。

この授業の良かった点、評価できることは何かという設問に対しては動画を用いたことを複数の学生が挙げた。生物のからだの中でおこる反応については、文字や図だけでは伝えきれないことが多い。そこで、配信動画に解説を加えて補足としている。

来年度は学生が生物学にさらに興味を持つように、努力・改善していく所存である。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学B1
授業コード 12E04-001
教員名 齋藤 菜月
教員コード 104282
登録人数 74
回答数 19
回答率 25.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

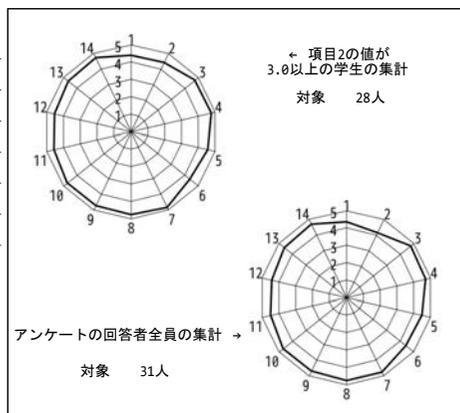
① 本講義は、心理学における多様な話題または特定の話題について基礎から深く学ぶことを目的としており、専門分野以外の学生にも広く心理学について理解していただくことを狙いとしていた。学生の興味関心によって内容の詳細さについては調整を行ったが、シラバスの計画通りに不足なく授業を進めることができた。

② 学生の評価としてはおおむね4.5点以上であった。自由記述によるとおおくの学生が、質問回答に時間を割いて密に疑問の解消や身近な問題についての議論をしていた点で評価していた。設問2（予習復習をしたか）、設問6（到達目標に向けて力がついてきていると感じているか）についてはそれぞれ4.16、4.32点で、他の項目と比較するとやや低かった。一方で自由記述を見ると、資料の共有によって予習復習がしやすかったという回答もあり、学生の意欲によって授業時間外の学習の程度に差がでてきている印象を受けた。

③ それらの点を含め、今後はこれまでどおり学生とのインタラクティブな授業を行い、興味関心を持ってもらう工夫をしていく。そのうえで、全員が授業外でも取り組んでいただけるように、理解度チェック等を行う。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較2
授業コード 13A01-002
教員名 山田 幸代
教員コード 101367
登録人数 103
回答数 31
回答率 30.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



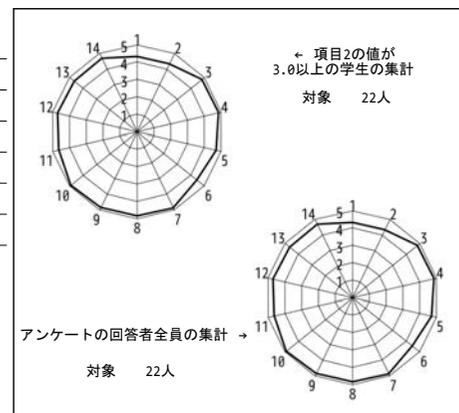
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「ケルトの文化圏について、基礎的な知識を得る」「アイルランドの歴史について、紀元前から現代まで概観できるようになる」「具体的な知識を身につけることで、今まで気づかなかった身近なアイルランド文化を再発見する」という授業目標は、おおむね達成できたと思われる。特に映画・ドキュメンタリ映像・音楽などを使用したことで「映画や映像を見ながら授業が進められたので、より理解することができた」「アイルランドの音楽や文化について写真や動画映像資料などを使ってとても分かりやすかったし興味深かった」といった好意的なコメントが寄せられていた。いっぽうで「『文化の比較』という講義名の以上、もう少し受講者に対する啓発があればいいなと思いました」という意見もあったため、今後はインプットばかりでなく、受講者自身の比較文化的な考察を促す授業内容にしていきたい。

今クォーターより2年半ぶりに対面授業に戻ったが、スライドの配布、クイズや感想およびレポート課題の提出には引き続きWebClassを使用した。この点については「毎回講義クイズをWebClassで回答させるのがとても斬新でよかった」など肯定的な意見があった。また授業の始めに前回集めたコメントをまとめて口頭で紹介しているのだが、その時間が長すぎるかと心配したが「学生の感想・リアクションを授業に反映していてよかった」「私が気づかなかったことも共有されて面白いです」という感想があったので継続したいと思う。改善点としては、中間課題などのアップロードについて「課題の提出が一回まで、適切なファイルが出されているか確認したい時どうすればいいのかわからなかった」という意見があったので、レポートの提出方法を1回以上にして学生側からもファイルを確認できるよう設定を変更する予定である。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化の理解2
授業コード 13C01-002
教員名 堀江 未央
教員コード 104284
登録人数 85
回答数 22
回答率 25.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



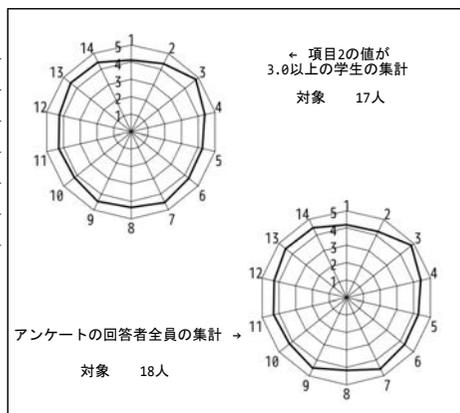
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、異文化に関心を持ち、異文化を様々な観点からとらえるための基礎を理解すること、そして自身の依拠する無意識の前提に注意を向け、相対化する力を身につけることを目標とした。これらの学びのために、ラフ族というひとつの民族にフォーカスし、彼らの歩んできた歴史や文化・社会のあり方を多面的に提示してきた。各回のコメント課題への回答では、はるか遠くの異民族の事例をもとに、自身の身の回りの暮らしや「当たり前」を問い直す意見がさまざまに見られ、最終レポートでも、ミニフィールドワークを通して自身の周囲のできごとを多角的にとらえようとする姿が見られた。これらのことから、目標には到達できたと判断している。

授業評価アンケートは概ね高評価であったが、予習・復習に関する数値が相対的に低かった。教員の調査に基づく授業であるため、事前学習の可能な適切な教材がない点が難点であり、今後は簡単な事前資料などを配布し、読解の上で授業に参加するような工夫をしていきたい。また、今回ははじめて対面で授業を実施し、同時に体調不良への配慮としてオンラインも同時並行する試みを行ったが、個々の学生との連絡がうまくいかない場面が何度かあり、混乱もあった。さまざまな学生がいるため、できるだけ多様な選択肢を用意しつつも、連絡手段やハイブリッド形式による不具合を最小限にするよう、次年度以降やり方を改善していきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化の理解3
授業コード 13C01-003
教員名 杉尾 浩規
教員コード 102055
登録人数 69
回答数 18
回答率 26.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

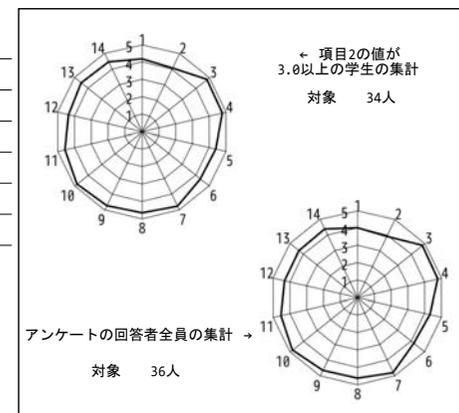


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では「集団主義」と「個人」をキーワードとしながら「日本における異文化理解のあり方」を検討しました。重視したのは「独断的・独善的な感情論に流されることの危険」と「自分の意見を他者に伝えることの大切さ」であり、「考えること」の意義を強調しました。評価は、毎回提出のリアクションペーパー100%でした。「考える」という目標の達成状況を客観的に判断することは困難です。しかし、深い自己分析を伴うハイレベルなリアクションペーパーを作成し続けてくれた人が少なからず存在したことを踏まえると、「考えること」の意義を強く打ち出した本授業に一定の肯定的評価を与えることができると考えられます。なお、アンケートに、「毎回のリアクションペーパーのテーマが聞き取りにくかったので口頭ではなく板書にするべき」「後ろの席ではマイク音量が聞き取りにくい」という意見がありました。口頭による課題文の提示は受講者が授業を聞いているか（参加しているか）を確認する目的があるので妥当な方法だと考えます。また、課題文は複数回提示していました。それを踏まえて、もしも聞き取りにくかった場合は挙手などで確認を求めることが合理的です。あるいは、席が後ろであるために聞き取りにくいならば前の方の席に移動するのが合理的です。そもそも座席は指定していません。ご自身が自分のペースで授業に最も参加できる席を選択するのが健全だと私は考えます。他に、より「考える」学びに適した授業内容に改善する予定です。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 視聴覚メディア論
授業コード 15M09-001
教員名 宮下 十有
教員コード 103580
登録人数 117
回答数 36
回答率 30.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

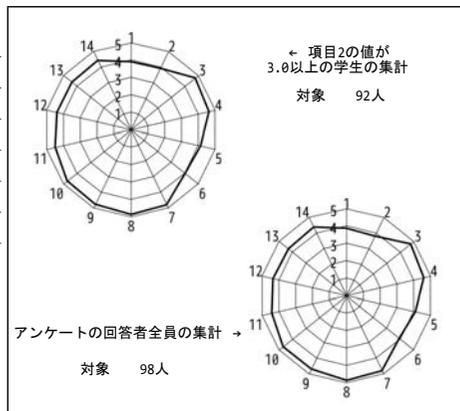


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定し、受講することで「博物館・美術館における情報・メディアの意義と活用方法とその課題の理解」「博物館・美術館、および学校教育における視聴覚メディアの活用方法の理解」を育成し、課題に取り組むことで「博物館・美術館での情報提供方法、メディア活用方法についての提案ができる」よう授業計画を立て、実施してきた。
アンケートの回答の平均値から到達目標は4.33の理解があった。
また、学生自身が力がついたことへの認識が4.19となっている。ある程度目標の達成ができたのではないかと考える
- ② 数値データから、教員の授業設計、授業運営については4.64-4.83との評価を受けることができた。
一方で、学生への情報提供、質問時間などは、非常勤で2コマ連続という時間の制限もあり、4.33となっていた。
全体としては、4.39との評価となっていた。
自由記述では、オンライン対応、授業資料の提示方法、映像資料の提示と利用についてポジティブな評価がされていた。
- ③ 次クォーターに関して、ポジティブに評価された授業計画、資料提示は継続的に維持していく。改善点として本来であれば取り組みたかったプレゼンテーションバトルなどのアクティビティーを加え、受講生自身が自らの力を評価できる構成になるよう取り組みたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生涯学習論
授業コード 15P08-001
教員名 河野 明日香
教員コード 102729
登録人数 145
回答数 98
回答率 67.6%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

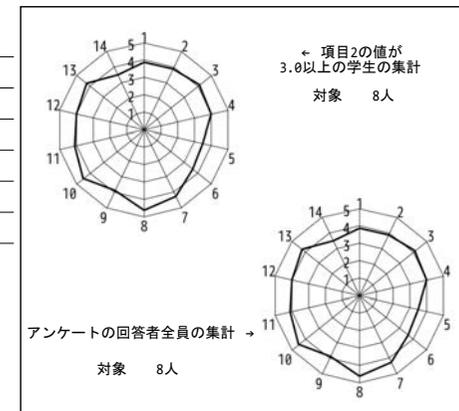


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標については、学生の受講状況や評価の状況を踏まえると概ね達成できたと考えている。授業評価においては、レジュメだけでなく、関連の動画やホームページを示した点がわかりやすかった、声が聞きやすかった、参考文献の説明があった点がよかった、配布資料があった点が助かったなどの意見があった。これらの点は来年度以降も継続し、参考文献や関連資料、動画などは最新のものを取り入れるなど、アップデートしていきたい。次クォーター以降に向けての改善点や方針については、レジュメの文字が多く読みづらかった、100分という授業は長いので、途中で動画などを挟むとよいのではないかと、動画が途中で終わるのが残念だった、という声を受け、レジュメや100分授業の構成、動画を用いる際の工夫などを行っていきたい。レジュメについては、文字が読みづらい点を想定し、授業資料サーバに毎回の授業資料をアップロードしているので、その資料の活用も含め、授業内容を改善していきたいと考えている。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(大陸哲学)
授業コード 22C67-001
教員名 星 揚一郎
教員コード 100986
登録人数 21
回答数 8
回答率 38.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

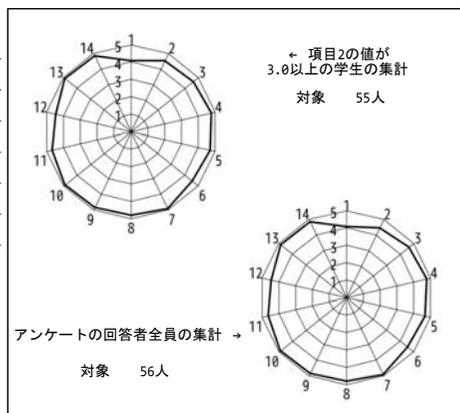


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスのとおり、クリッチリー『ヨーロッパ大陸の哲学』岩波書店(2004)を下敷きにして、フッサール、ハイデガー、ガダマーらの現象学・解釈学について、時事的な問題や周辺領域との関係をふまえて講義をしました。哲学が専門でない幅広い学生が受講しているからです。新型コロナウイルスの影響が不確定とはいえ、もはや3年目ですので、対面授業を基本としました。事情があり欠席する学生には、そのつど報告してもらい、資料と質問で対応しました。予想よりも多くの方に参加していただき、活気のある授業となりました。感謝申し上げます。とくに、きちんと資料が読め、表現できる学生がいらして、よいお手本となりました。その結果、授業の核心を各自の関心に応じて自由に展開してもらった期末レポートでは、この授業にふさわしい力作が多く見られました。他方、ほんの一部ですが、指示した条件に従っていない方、レポートの書き方の基本を習得していない方がいました(全学で一年次に徹底させるべきです)。そうした学生が厳しい評価をしているのかもしれませんが、冒頭で触れましたようにシラバスのとおり準備した内容を受講生の反応を見ながら授業で展開したことに間違いはありません。2023年度はコロナに関する特例も終わり、受講生全員の顔をつねに見ながら授業をすることで難点はクリアできると思います。引き続き、ご指導のほど、よろしく願いいたします。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ研究の基礎 (政治)
授業コード 34A09-001
教員名 山口 宏
教員コード 101552
登録人数 61
回答数 56
回答率 91.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、全体的な満足度(問14)が高い値となっていて、よかった。自由記述でも、「面白かった」「わかりやすかった」という声がとても多く、恐縮してしまう。また知識の獲得や理解(問13)も比較的高い値で、到達目標に向けての学生自身の自己評価(問6)はそこまで高くないが、到達目標もまずまず達成できているかと思う。さらに、声や音の聞き取りやすさや、教員の姿勢・真剣さなどは、高いのは当然として、資料などの効果的使用(問9)も、高めの値となった。これは、授業のなかで話に合わせて、多くのさまざまな短い映像を挟んでいたりもして、興味をひきやすかったこともあるだろう。自由記述でもそうした声は多く見られた。

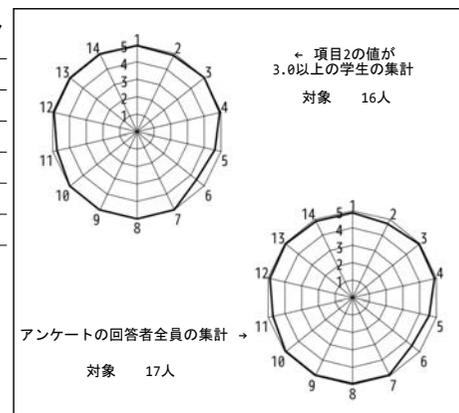
毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次回の冒頭でできるだけコメントをするようにはしていたが、十分な質問・相談の機会(問12)はやや低めで、講義形式の限界とはいえ、もう少し双方向性ももたせられればと思う。

また自由記述の改善点は、書く時間が足りないという声もわずかながらあり、頭に入れておきたい。

ともかく全体として、高めの評価の良い授業ができたのは、熱心に取り組んでくれた学生たちのおかげであり、基本的にはこのまま、さらに内容を磨いていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(個人スポーツ)バドミントン
授業コード 14E01-006
教員名 伊藤 真博
教員コード 103257
登録人数 28
回答数 17
回答率 60.7%
休講回数 0 回
補講回数 1 回

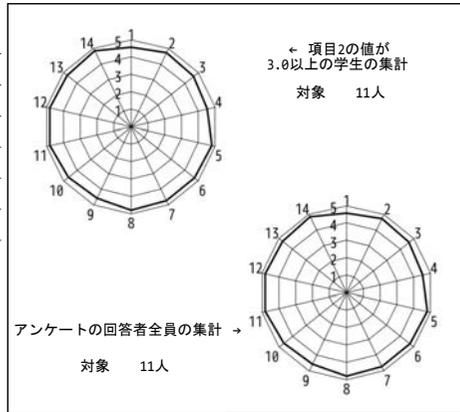


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講時に設定した目標は種目に関する知識・技能の習得、ゲームを通してのマナー・仲間とのコミュニケーションの涵養、自己の健康増進の3点である。この目標に対する指標は設問13が関連するが、4.94ポイントを得ており、学生からは一定の評価が得られたと考える。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
今クォーターはコロナ禍の影響で対面実技が危ぶまれる状況ではあったが、学生の運動への欲求、仲間づくりへの欲求が動機づけとなり、積極的な授業への参加につながったと考えている。授業満足度に関する設問14では4.88ポイントを得られており授業運営は概ね成功したと考える。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
到達目標の理解、到達目標に向けて力がついてきているかという設問5、6がそれぞれ4.59と4.41ポイントとやや評価が低い。初回ガイダンス時には到達目標を説明したものの、履修登録変更等で2回目以降から参加した学生もいたためと考える。到達目標は初回だけでなく適宜明確にしていくようにしたい。その他では授業開始時の学生の集合の遅れが気になっている。前時限からの移動や着替えの時間が必要なこともあり致し方ない面もあるが、開始時間には全員が揃うよう動機づけを与えるようにしていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会・地歴科指導法B2
授業コード 15B47-002
教員名 成田 健之介
教員コード 101555
登録人数 32
回答数 11
回答率 34.4%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

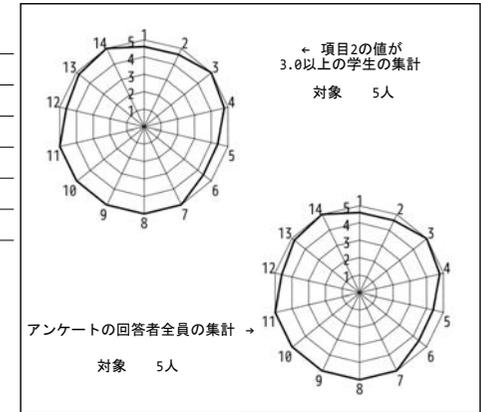
本授業は講義および演習形式、模擬授業で行った。社会科・地歴科における主体的・対話的で深い学びを促すための授業実践力を高め、学校現場での授業実践の理解や学習指導案細案の作成、模擬授業とディスカッションなどによって社会科・地歴科における授業力を高めることを目標にした。

平均値の数値データからは、項目1から項目14の平均が4.71、項目3から項目14の平均が4.72、さらに項目14の「全体としての満足度」は4.82であった。また、項目5「この授業の到達目標の理解」、項目8「教員の声や音声機器の音」、項目11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」、項目12「質問や相談の機会」の4項目も4.82であり、各項目の評価値のバランスも均等であり、概ね目標は達成したと考える。

自由記述からは、0Bの大学院生や現場で教員をしている卒業生へのオンラインインタビューなどについて「教員の生の声が聞けたこと」「ゲストを招いてくれる」という記述が見られた。また、「先生が一人ひとりにアドバイスを与えてくださる点」「他の人へのアドバイスも全体に共有されるので自分にも生かせる」と評価する記述がある反面、「Q1から毎クォーター取っている学生が多いので、慣れてきた分内容がマンネリ化してきたように感じた」という改善を求める記述もあった。こうした中で、1名の学生は各項目1～14の平均値が3.4と、他の学生に比べてかなり低い値となっている。この学生の自由記述には「対話的な学びが欲しいです」と記述されており、30名以上の授業であっても、対話的要素をさらに取り入れた授業改善を進めたい。また、後半は模擬授業の予定が詰まっているため、授業評価への告知が遅くなり回答率が低かったことは改善の必要がある。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数学科指導法A
授業コード 15B80-001
教員名 飯島 康之
教員コード 104632
登録人数 13
回答数 5
回答率 38.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

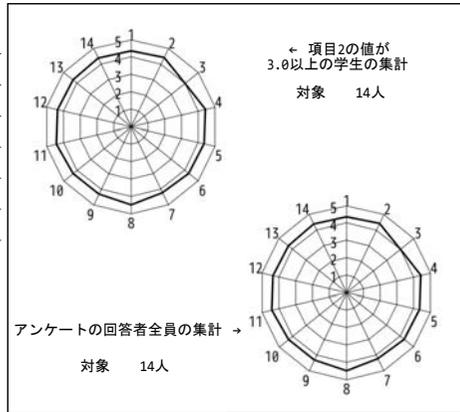
すべての項目において、かなり高い評価をしている学生の割合が高いことはいずれにしても、回答者数が半数以下なので、ある意味で好意的に感じた学生が回答をしたと考えるべき部分も考慮しなければならないと思う。

しかし、この授業の基本的な目標としての、「指導案作成や模擬授業」を、できるだけ彼らが検討し、実践し、それに対してコメントし、その場で修正してやりなおしてみても実感し、それを元に指導案を作成するという指導のサイクルに関して、授業の中でも手応えがあったが、授業評価の中でも、それは評価してくれていると理解する。

来年度を受講者数にもよるけれども、できるだけ「授業をする」ということのリアリティを学生自身に実感できるスタイルは継承しつつ、素材の選択等に関する工夫を積み重ねていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオールラルコミュニケーション[B]
14
授業コード 11A04-011
教員名 HERSCHLER, Brian
教員コード 100552
登録人数 25
回答数 14
回答率 56.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

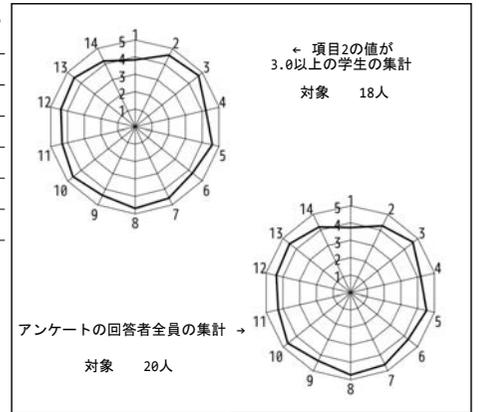


授業評価結果を踏まえた点検・評価

With a score above 4 for all questions, it appears students were happy with the class. I would also judge it a success. Students had lots of opportunities to practice and show off their skills. With the combination of listening homework and conversation practice on a variety of subjects, students were able to improve upon their English speaking and listening abilities.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオールラルコミュニケーション[P]
19
授業コード 11A04-028
教員名 佐藤 ゆかり
教員コード 047605
登録人数 27
回答数 20
回答率 74.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

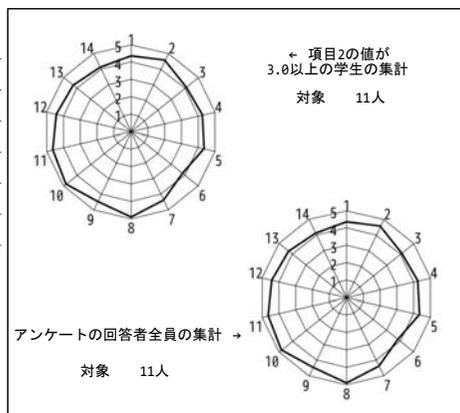


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今Qのアンケートは、久しぶりに項目1~14までの平均4.39,項目3~14の平均4.45と、外国語科目の平均を下回り残念に思う。いくつか、原因を考えてみた。一つには、最終クォーターとして一年の締めくくりの成果で、SDGsのテーマでのプレゼンテーションを扱い、それがテーマ的に彼らの興味を十分に引けなかったことと、難し過ぎたこと、難しいのに、授業配分ペースがやや早めであったことが、第Iに考えられる。途中で、予想以上に彼らに背景知識が乏しく、かつ語彙も難しいと気づいたのだが、シラバスを優先させてしまった。来年度以降は、クラスのレベルも考え、途中での軌道修正の必要性も考えたい。あとは、このクラスは他のクラスに比べて欠席率が非常に高く、そういう点からも、十分に理解して課題に望めなかったと思う。ただし、欠席率が低いのは集団心理もはたらき、年度末の中、なかなか十分にコントロールできなかった。次年度はいずれにしても、再度、シラバス調整の上、挑戦したい。ただし、もちろん熱心に参加している好意的な学生もいるわけで、彼らの存在と学習意欲には感謝している。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオールラルコミュニケーション[G
]5
授業コード 11A04-036
教員名 高野 洋子
教員コード 104147
登録人数 20
回答数 11
回答率 55.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

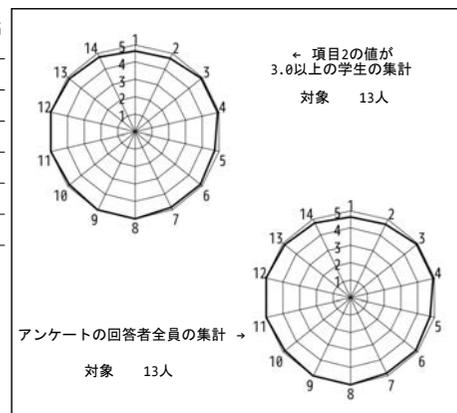


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 学生が社会的な問題について会話のストラテジーを用いながら討論できるようになり、世界でおきていることに関心をもち CNNやBBCなどのニュースを聞いて単語や時事問題についてINPUTすることが期の最初に学生に目標として伝えました また個人面談をして 学生が自己の長所・弱所について分析すること 到達目標をたてることを聞きとり、それに対してどう学習を進めるかをアドバイスしました 結果 期末には3割の学生がまとまった討論を英語でできるようになり、7割が語彙は少ないが自分の意見を英語で述べるようになりました
2. 自己点検としては積極的に発言できない学生もいるので 日本人が外国語を話す際に必要なことをアドバイスしてなっじをしました 精神的に落ち着き Q3と比べて発言量や批判的思考を楽しむ学生が」ふえました 学生の意見を意識して聞くことに努めた結果 よい結果になったと自己評価できます
3. 次回は学生同士のPEER REVIEWの時間を増やして討論のすすめかた 意見を発展する方法を実践していきたいです またTEXTの内容に沿って発展できる資料などを積極的に取り入れたいです

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオールラルコミュニケーション[G
]7
授業コード 11A04-038
教員名 木下 薫
教員コード 104328
登録人数 19
回答数 13
回答率 68.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1)
In Oral Communication IIII and IV, students worked hard to (1) gain oral proficiency, (2) explore and analyze social issues critically, (3) express views coherently and appropriately, (4) learn and practice the basics of presentations, and (5) become familiar with test-taking skills. By the end of Q4, each student developed self-confidence in speaking English through participating in one-minute speeches, pair discussions, group projects and presentations. In addition, they explored a variety of aspects of social issues, exposing themselves to multiple perspectives and opinions.
- (2)
Generally, the class content, delivery, and engagement were effective for student's learning. Students commented positively on various activities they engaged in class. Advertising video projects and presentations were the highlights of Q3 and Q4. I will continue to use activities and materials that can help students connect the course content with real-world examples.
- (3)
As part of class improvement, I will explore how I can better embrace diverse needs of individual students in the classroom context.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]2
授業コード 11A08-009
教員名 BLOWER, Luke
教員コード 104287
登録人数 23
回答数 4
回答率 17.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Seeing as this was the final quarter, I wanted to really move beyond the mere mechanics of writing and give the students the chance to create.

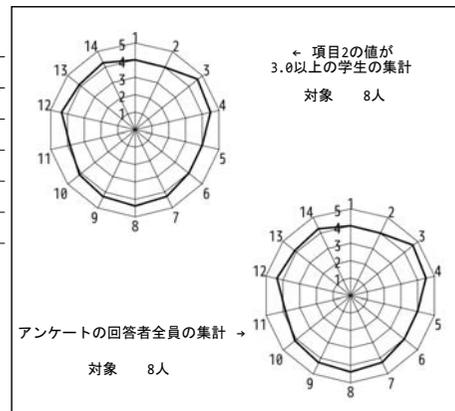
This involved a lot more language input to allow students to move away from the stock phrases that they already know. This involved having the class brainstorm new language as a class to create a shared learning culture. This was partly successful but there needs to be more of a change in mindset where accuracy always takes president over the actual content.

Due to the lack of survey feedback, it is difficult to comment. However, the students' growth in output and writing competency during the course speaks of a general warming to the course methods and teaching.

For the next teaching period, I hope to take the ideas that I introduced in Q4 and expand on them.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]8
授業コード 11A08-027
教員名 MOORE, Douglas
教員コード 100954
登録人数 23
回答数 8
回答率 34.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

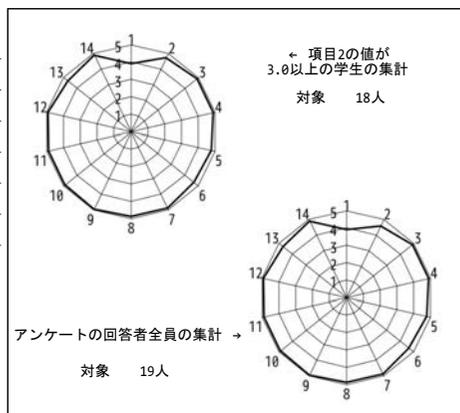


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall this evaluation was in line with previous years assessments. In particular the students seemed to enjoy the class and had overall positive reviews of the class syllabus, teaching, assignments and grading methodologies. In the next year there are a couple of adjustments that should be made to improve the class based on the comments students made in this evaluation..

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]9
授業コード 11A08-028
教員名 鈴木 愛
教員コード 103596
登録人数 24
回答数 19
回答率 79.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

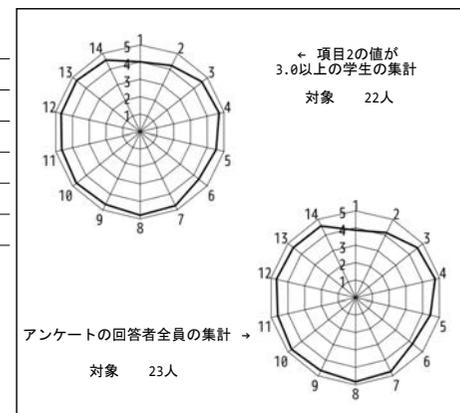
Regarding the set goals and student's achievement for this quarter, I believe I have mostly achieved their learning goals. Especially with the writing, they were able to write their second multi paragraph essay successfully. Regarding reading, I assume they were able to learn a couple of reading skills that they have never learned before.

As for my self assessment on the class, I am able to give quite high evaluation on my teaching. Especially with the writing, I did writing conference with the students, and they all said it was very helpful. I am content with the fact that students feel they are learning what they are supposed to be learning at an adequate speed.

For 2022, I would like to keep students motivated to learn English. I will try new activities related to the reading so that they will not get bored in reading the assigned textbook. As for writing, I will keep on working with informal and formal emails which will be useful for students to use even after they graduate university.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]10
授業コード 11A08-029
教員名 橋爪 真理
教員コード 104272
登録人数 24
回答数 23
回答率 95.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

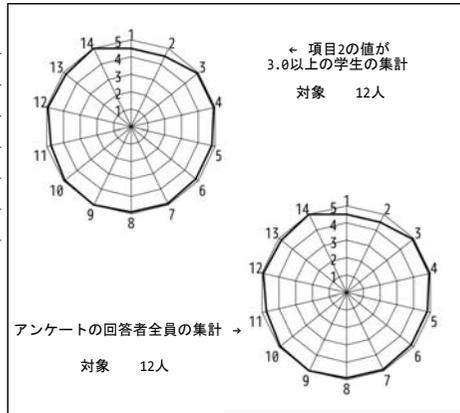


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q3,Q4もシラバスに沿って授業を展開した。授業の目標としてWritingでは英語でacademicな文章を書く技術習得を、また、readingでは英文を早く、正確に読む技術理解においた。授業は協同学習を導入し、学生が話し合いながら理解できるように進めたので、生徒にとってはクラスメイトと話し合いながら進める中で、何ができるようになり、どの項目を補充しなければいけないか自分なりに明確にできたようで、想定した目標には90%以上の学生が到達できている。授業での生徒の集中力を持続させるため、資料をパワーポイントで準備し、生徒たちがわかりやすいように時間をかけて工夫して作成したので、生徒たちの理解も深まったという感想があった。また、生徒の反応に応じて次回の授業で復習を増やしたり、重要項目を確認したりしたこと、生徒一人一人の作文を個別に指導したことが、生徒の高評価であった。学生の能力に応じて授業を展開したが、英語に苦手感を持つ生徒には課題等をこなすのが難しく、その都度締切日を変更したりすることにより対応したが、能力差のある生徒群を等しく伸ばしていくのはさらなる工夫が必要である。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]7
授業コード 11A08-038
教員名 MEJIA, Justin
教員コード 104498
登録人数 21
回答数 12
回答率 57.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

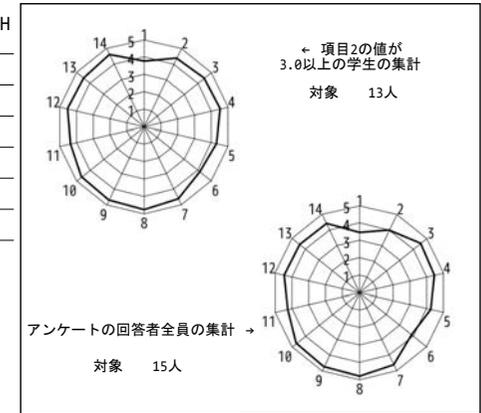


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) All of the goals of the class as set out in the syllabus were achieved. (2) The feedback received from students was not very detailed, but the overall numerical data was very positive, which I am pleased with. (3) Next year I would like to focus more on the research, citation, and references aspects of the argumentative essay, as my students seemed to struggle with a bit this year. To this end, I'd like to spend more time in class doing exercises and activities based on correctly and incorrectly using (and not using) citations before actually moving onto writing the essay. In addition, this year I made the editing and rewriting process a bit more thorough than last year. I'd like to continue this next year, making it a bit more robust and involved.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[H
A, HP, HJ]14
授業コード 11A12-014
教員名 NIXON, Richard Mark
教員コード 103559
登録人数 24
回答数 15
回答率 62.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

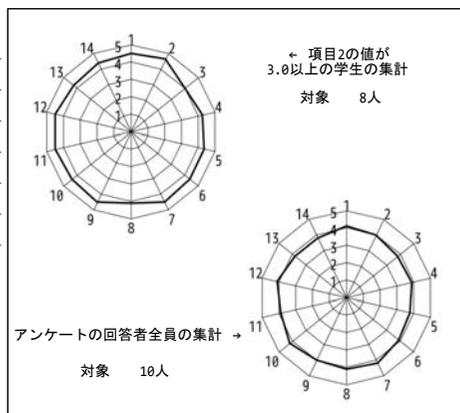


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) The English communicative goals I had set forth at the beginning of the course were achieved in the sense that the students had plenty of opportunities to practice their English skills in class and with the video speeches they prepared. I wish I had managed to cover more of the reading textbook we used in class. The book turned out to be quite dense in content and I think the book would be better used in a pure reading class rather than a combined reading/speaking class.
2) Per Answer #6 with a score of 3.87: Perhaps I could of done a better job of relaying the most important goals of the course to the students so that they could get a feel for why they were doing the activities they were doing in class. I myself could see that they were improving their understanding of different rhetorical styles through their English speaking and reading but perhaps they were unaware of this objective.
3) I need to prepare tests that better capture the essence of what students have learned without the tests becoming too cumbersome in terms of length.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションズスキルズ[F
A, FF, FS, FG]9
授業コード 11A12-023
教員名 KHONDAKER, Taslima
教員コード 103598
登録人数 19
回答数 10
回答率 52.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

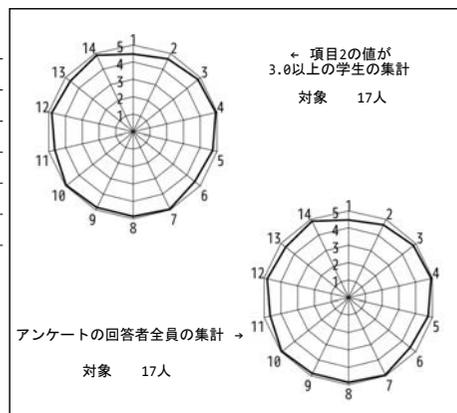


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course was to help students improve their overall ability to use spoken English. Classes included a variety of topics and activities to assist students to become more confident and proficient English communicators. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address the following aspects in the course evaluation materials. Regarding “participation in the class” (Q1 to Q2), compared with the scores of 4.25 and 4.48 for the course, the scores of this course were 4.10 and 4.00. Regarding “evaluation of the course in general” (Q3 to Q7), compared with scores of 4.68, 4.72, 4.57, 4.42, and 4.77 for all courses, the scores for this course were 3.80, 3.90, 3.80, 3.90, and 4.20. Regarding “evaluation of the class management” (Q8 to Q12), compared with scores of 4.79, 4.75, 4.77, 4.64, and 4.70 for all courses, the scores of this course were 4.10, 4.00, 4.20, 3.90, and 4.10. Regarding “overall evaluation” (Q13 and Q14), compared with scores 4.62 and 4.64 for all courses, the scores of this course were 3.80 and 3.80. As to “overall impression of the course” (Q15 to Q17), the students gave some very good comments, which I find profoundly encouraging. Some students commented that I spoke too fast, some were not able to understand my instructions and some were not happy to do individual studies. Taking all the considerations of my shortcomings, I hope to correct them. I am looking forward to delivering more effective lessons in the coming year.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションズスキルズ[E
]4
授業コード 11A12-028
教員名 LANGER Daniel
教員コード 101438
登録人数 24
回答数 17
回答率 70.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

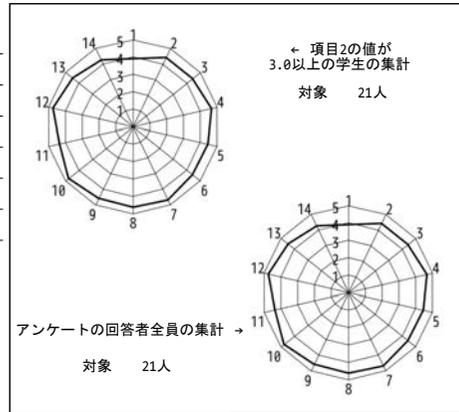
The main goal of the course was fairly simple - I wanted the students to make their way through two textbooks (which, together, covered the four basic language skills), but not feel they had been overwhelmed by the material. This was largely achieved, especially with the reading text, which may not have been as challenging as the speaking/listening component of the course. The secondary goal was to do a small amount of after-class reading, and this was accomplished by most students.

I am happy that the comments were positive, with students seeming to think that I had presented the material in a clear and friendly manner. I am glad that the students found the class easy to understand, but it is also true that the pupils were easy to reach. There were no serious disciplinary problems, and I am grateful for the cooperation I received.

In the future, I might change some aspects of the speaking/listening part of the course. I sometimes wonder if students might respond better with a text that has a gentler listening component.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|------------------------------|
| 科目名 | 英語IVコミュニケーションズスキルズ[E]]10 |
| 授業コード | 11A12-034 |
| 教員名 | 内川 元 |
| 教員コード | 101922 |
| 登録人数 | 25 |
| 回答数 | 21 |
| 回答率 | 84.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



授業評価結果を踏まえた点検・評価

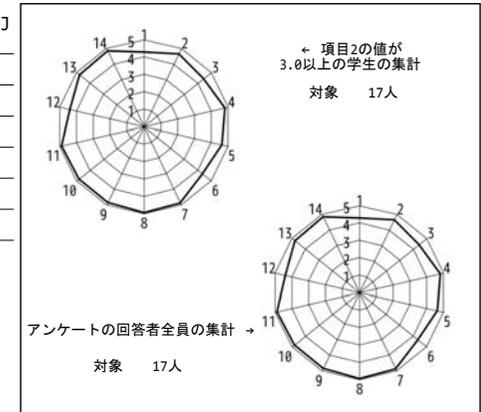
この授業はリーディングとオーラルコミュニケーションの授業で、授業時間と家庭学習時間の両方を活用してインプット量を確保すること、また日本人学習者の多くが持つ英語を聞くことへの苦手意識を克服させることに重点を置いて行っています。

履修者は25名でしたが、うち4名が途中から授業に来なくなったり期末レポートが未提出だったりして残念でした。次学期はこのような生徒を1人でも減らすことを目標の一つに授業内容の改善を図りたいと思います。授業評価の結果は最後まで授業に取り組んだ21名によるものですが、この21名に関しては小テスト・テストの結果も良好で、授業態度も前向きでしたので、それも併せて授業目標は概ね達成出来たのではないかと考えています。

今学期は特にコロナ禍の影響が顕著で、コロナ罹患や濃厚接触者となったことで授業を欠席したり、小テスト・テストを後日受けたりした生徒が多数いましたが、学期開始前にそれに備えた授業システムに切り替えていたお陰で大きな混乱なく乗り切ることが出来ました。「この授業の良かった点、評価できること」を問う設問でこれに関する生徒からのコメントがあり、生徒にも好意的に捉えられていた様子が窺えてよかったです。今後も状況に応じて臨機応変な対応を心がけたいと思います。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|-------|-----------------------------|
| 科目名 | 英語IVコミュニケーションズスキルズ[J]]1 |
| 授業コード | 11A12-037 |
| 教員名 | LENIHAN John |
| 教員コード | 045070 |
| 登録人数 | 22 |
| 回答数 | 17 |
| 回答率 | 77.3% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

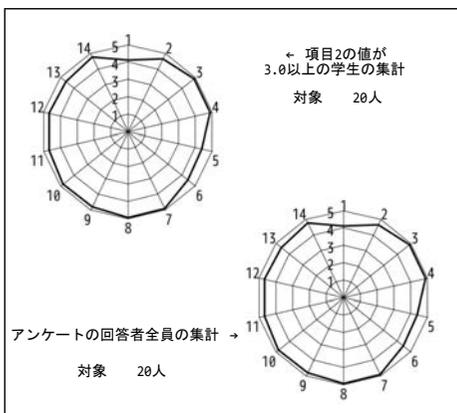


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Nothing much changed between quarters. This class had the following goals: improve oral communication, daily vocabulary, idioms, reading strategies, both intensive and extensive reading and to develop advanced vocabulary through the serious study of Greek and Latin affixes and roots. Once again, the oral communication portion of this class was centered around various short plays and original writings by these students. And once again, the extensive reading materials from the library were chosen by the instructor, with a 2 page list of approved classic novels. We all read A CHRISTMAS CAROL graded reader by Charles Dickens and parts of the original. Overall, throughout the 4 quarters, this class was very pleasant to teach, very challenging and a very worthwhile experience for all of us. I look forward to teaching the same class next year, when we should do more vocabulary and extensive reading.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[J]
]3
授業コード 11A12-039
教員名 BRADFORD, Chris
教員コード 104685
登録人数 24
回答数 20
回答率 83.3%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



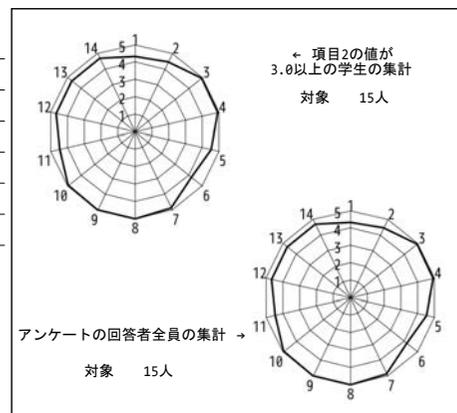
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The students were able to achieve and in some cases exceed the goals set forth in the syllabus throughout the year. This was achieved through a lot of interaction amongst students and time given to ask questions of the teacher 1 on 1 during class. By creating engaging lessons and using interesting topics, students were able to engage with the materials to create a motivation to learn English. The speed at which the content was introduced was modified throughout the year to maximize the time needed to improve upon any given strategy, grammar, vocabulary, or conversation that students were working to improve upon.

As mentioned by various students, there was a lot of material that was required to be done outside of class. In the future, I would like to reduce the burden on students in regard to written homework and reduce the amount of materials that needs to be graded weekly. My plan to accomplish this is to create alternative listening assignments that are interesting and engaging for students which can improve their conversations within class. Additionally, I am working towards creating more ways for active communication between students in English in class and outside of class possibly by creating assignments where students communicate in English with each other through webclass.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]11
授業コード 11A12-065
教員名 山田 秀子
教員コード 103595
登録人数 18
回答数 15
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

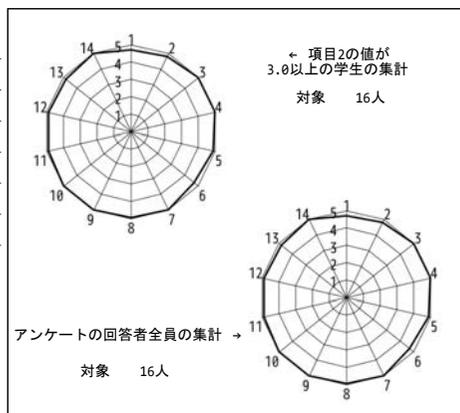
講義計画に提示した学習内容・範囲の9割以上を扱い、開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと考える。しかし、体調不良などで欠席する学生が一般的に多く、プレゼンテーションや会話テストなどの必須課題を全員が行えるように、授業計画を調整しながら進めるという点で大変苦労した。

同科目の第1クオーターのアンケート結果と比較すると、履修前の興味を問う項目1 (4.33) と主体的な授業参加を問う項目2 (4.47) の2項目に最も大きな改善が見られた。日ごろの授業では、個別学習においてもペアやグループとの協同学習においても、より積極的に集中して取り組む様子が見られた。第1クオーターで課題に挙げた授業時間外の多読活動については、授業でその効果を繰り返し説明したり、学生間で活動状況や感想を共有したりすることで改善を図った。今学期においては、全員が目標ワード数を達成することができた。

反省点としては、学生の学習意欲を引き出すような指導や情報提供があったかを問う項目11 (4.47) が少し低下した点が挙げられる。受講しやすさ、学習の見通しといった観点から、授業構成をある程度パターン化しているが、それが要因の一つである可能性も考えられる。自由記述の回答からは、授業内の学習活動が多様であることを好意的に受け止めている様子が伺える。今後も多様な活動を取り入れつつ、ワンパターンにならないように工夫をしていきたい。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]2
授業コード 11A14-002
教員名 IWASKOW, Roman
教員コード 104145
登録人数 21
回答数 16
回答率 76.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the beginning of the course were to enable students to practise communication skills concentrating on reading, speaking, and listening in an interesting way using worksheet puzzle exchanges, vocabulary tests, two poster presentations, and answering textbook exercises on google form answer sheets. The goals I set were achieved

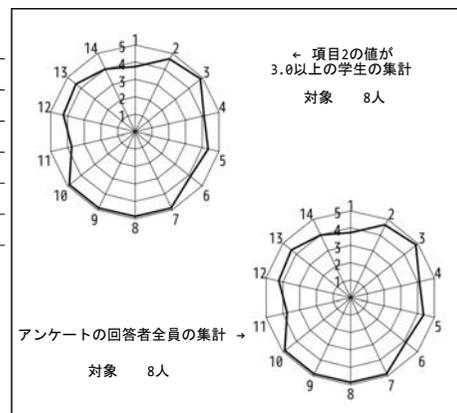
Based on the evaluations submitted by the students, they found the course a challenge and interesting.

This year continued to be difficult because of the Covid epidemic. It did require me to post videos and worksheets for some students online using Webclass. Considering the obstacles to holding the regular class, the students showed enthusiasm for the topics covered. In particular they appeared to enjoy the two poster presentations which gave them the opportunity to present topics they had to research.

I intend to continue the course in a similar format with some adjustments to the worksheets provided.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]3
授業コード 11A14-003
教員名 伊藤 実里
教員コード 045542
登録人数 20
回答数 8
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

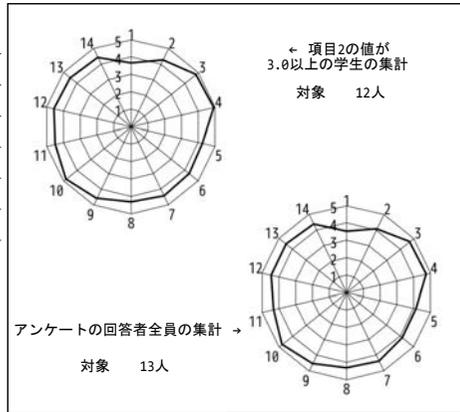


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は初めて使用する教科書だったので、教科書の内容と学生の反応と自分の対応がうまくいかなかった部分もあったことが反省点である。教科書のタイプによって学生同士のコミュニケーションの機会を増やすことはできたが、自由回答には練習する時間をもっとほしかったという意見もあったので改善したい。過去に担当したどのグループよりも今回は能力の高い人たちだったことも一因と思う。経験から教科書や題材は2年目の方がより活用できるので、次のグループに適した内容を考えていく。基本的な語彙などの学習についても、グループの能力にさらに適したやり方を工夫したい。宿題としたことについて授業でも時間を割くことに無駄と感じたというコメントも今回のグループならではの面もあると思うので、反応を早く見定めて対応するようにしたい。またメールへの返信が遅いという指摘もあったので、見逃しのないよう配慮する。20代の人たちが期待する反応に加えてオンライン授業が広がったこともあり、フィードバックのスピードが求められていることを痛感した今回の評価であった。

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIIコミュニケーションスキルズ
[T]12
授業コード 11A16-015
教員名 PALISADA Eloisa
教員コード 055830
登録人数 21
回答数 13
回答率 61.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

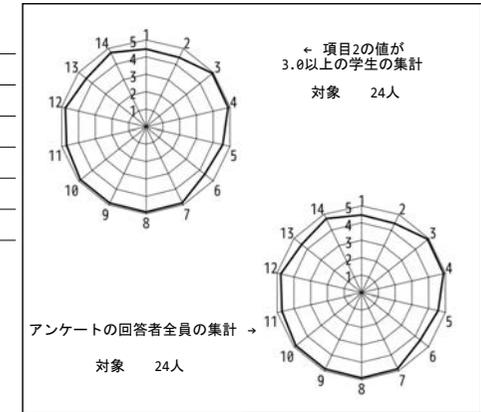


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The same class in Q1 was assigned to evaluate this course now in Q4. There was a significantly huge change for the better. It was a matter of applying strategies that motivated the students to be actively engaged in the lessons adapted to their needs. Students remarked on the appropriateness of the structure and speed of each lesson as well as measures in dealing with disruptive behavior (95%). They feel they have gained new knowledge, deepened their understanding, and had enough occasions for mutual feedback (89%). To top it all, they were satisfied with this class and felt the sincerity and the teacher's dealing with them in class (87%) as they said it was a student-friendly class. Moreover, the teacher gave more attention to their level of understanding (90%) and kept the atmosphere as dynamic and participatory as possible. It is then safe to say that the course goal and objectives were satisfactorily met that is, using English in the 4 macro skills: speaking, listening, reading, and writing for communication and interpersonal interaction. One comment says, "I spoke English all the time by being taught by a foreign teacher." They enjoyed the pair and group work and developed skills in reading, conversation, and debate. Hopefully, these strategies will be applied in the upcoming classes.

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリスニング<全・T>8
授業コード 11A26-021
教員名 VIADO Cora
教員コード 100553
登録人数 24
回答数 24
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

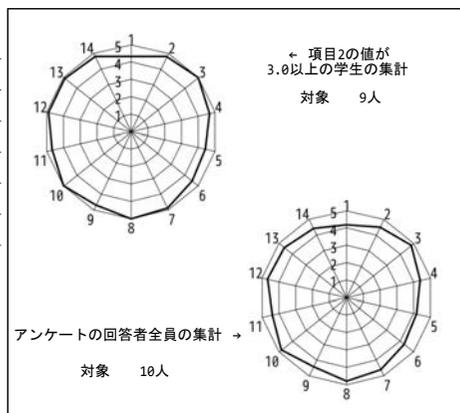


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course is to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view. Listening texts included audio items, pronunciation exercises, listening activities, and conversations to promote student interest and exposure to English. The overall positive responses of the students' evaluation of the course indicate their satisfaction with the content and dynamics used in the class. The items with the higher ratings (4.92 and 4.88) pertain to the students' appreciation of the efforts made by the teacher in taking into account their degree of understanding, in providing a suitable learning environment, and structuring classes in an appropriate manner and pace. On the other hand, the item with the lowest rating (4.42) is in relation to the students' being proactive in class. Students positively evaluated the opportunity to talk to a different classmate since they had to work with a different partner every day. Overall, students were mostly satisfied with this course (4.71).

2022年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コンピュータと言語学
授業コード 24C56-001
教員名 古泉 隆
教員コード 101035
登録人数 17
回答数 10
回答率 58.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標として、①テキストエディタの検索・置換・Grep等を利用してテキスト処理ができる、②テキスト処理に必要な正規表現を理解している、③単語頻度表およびn-gram頻度表の作成過程を理解している、④エクセルおよびRを用いて、単語頻度表およびn-gram頻度表を作成できる、⑤最長単語、単語の平均文字数、TTRなどを処理・算出することができることを設定した。

普段の授業では演習・課題・小テストを行い、学期末レポートでは、学んだデータ処理の知識・技術を活かして、各自で興味のある言語分析課題に取り組んでもらった。演習・課題小テストの解答状況およびレポートの内容を踏まえると、受講者の多くは本授業を通じておおむね到達目標に達したと考えられる。

次に、アンケート結果を踏まえた考察であるが、各項目で4以上であったことから、概ね学生の学習を支援・促進し期待に応える授業であったと言える。また、文系の学生が主な対象であるため、正規表現など馴染みの薄いことを丁寧に説明することを心がけた。自由記載の欄に「質問の時間が十分あり、状況を見ながら授業が進行し授業内容の理解が深まった」とのコメントがあったことは良かった。一方で、授業コマ間の休憩時間への配慮が不十分であったことが反省点である。

授業では、実際の研究でどのようにテキスト処理を利用するかを例を通して体験してもらったり、言語処理だけでなく、プログラミングといった将来役に立ちそうな場面での利用例も時折取り入れ、興味・関心を引くように工夫した。今後も丁寧な説明を心がけ、実践的なスキルが身につくような工夫をしていきたい。